"滿洲を語る"座談會 ㈠

滿洲國民の國家觀と 日滿兩國間の不可分關係

山崎支社長 御繁忙の折からにも拘らず滿洲關係の權威たる各位多數の御參會を得まして感謝に堪へませぬ、今や滿洲は二位一體たる南關東軍司令官のもとに機構も人心も一新されて居ります、この機會に在滿同胞の一層の奮起に資したく存じますので、各位の滿洲に對する御造詣を傾けて忌憚なき御意見を拜聽致したく、從つて題目も別に掲げて居りませぬから在滿同胞に親しく御呼びかけなさる御氣持で御意見なり、御希望なり、何かと御思ひつきのまゝ腹藏なく御話し下さるやう切にお願致します。

眞方大尉 本夕は滿洲國指導に關し公職を有ち又は過去に於て有せられた方がおありであるが本會に於ては全くプライベートの立場からのお話にして頂きたいと思ふ。

片倉少佐 私は御指名によつて日滿關係を明にし度いと存じますが、その前に滿洲國は如何なる形式と目的を以て結成されてゐるかを聊か述べてみたい、それは大同元年三月發布された建國宣言に委曲を盡されて居り、第一に滿蒙の庶民が舊政權の暴政を排除せんとすれども力足らず、會々九月十八日日本軍の自衛權發動を見たので、手を隣師に借りて醜類を一掃し滿蒙五族が協力し王道樂土の建設に邁進することになつたのである、由來滿洲は滿漢蒙三民族のみの國かの如く考へる向がないでもないが歷史的、民族的、軍事的、政治的、經濟的等凡ゆる角度より內鮮兩民族を度外視することは事實上絶對に出來ないのであつてこの見地において日系官吏存在の合理性は充分認めらるべきものである、この思想を最も端的に把握してゐたのは文治派の巨頭だつた故于沖漢氏であつて、彼の根本思想は五族協和に發し滿漢蒙民族性に鑑みて滿洲には武力は要らぬ、それは武力を濫用しない日本に賴めばよいといふので、その旨日本の要路に建白し大經綸を說いてゐる。

これを要するに滿洲における國家觀は日本における國家觀とは餘程異つてゐることを前提として日滿關係を考慮すべきだと思ふ、即ち滿洲國は完全なる獨立國たることはいふ迄もないが、事變前後を問はず、國防上、經濟上、兩國は不可分の相互依存關係にあるため、日滿議定書において日滿共同防衛を國際的に公式化され血緣狀態にあることを宣明されたのである、從つて內鮮兩民族は滿洲國に入つて自國の繁榮を圖るべき義務と資格と要素を有つものであるが、それはどこ迄も切つても切れぬ日滿不可分關係より來る當然のことであつて、若しこれがため滿洲國を我國の屬國視したり、保護國視したりするものがあれば思はざるも甚だしいものである、自分は日滿朝野においてこの滿洲國の構成を充分檢討して哲學的、科學的に理論づけて行かれんことを切望して已まぬ。

林毅陸博士 滿洲國のやうな國家形態がこれまであつたかといふお質ねだが、自分はその例を知らぬ、獨立國にして日本と不可分關係にあり、國防は固より國家經營をなすに當り提携協力する事例は初めてゞはないかと思ふ、從つて新國家がどういふ風に發達して行くかは全世界が非常な興味を寄せてをり國際政治學上よりも好箇の研究對象なれば、健全なる發達を遂げしめて國際政治學に愉快な實例を提供したいものである、嘗て朝鮮において保護國として保護指導するに當り、骨は折れたが外國にも例あり、やり方は大體見當がついてゐたが、滿洲國は獨立國にして而も不可分關係にあるといふ複雜な事情にあるので、これを健全に發達せしむるには非常の努力と手腕を要するのはいふまでもなく、我々は日本人の腕試しだといふ透徹した覺悟のもとに不撓不屈立派にもりたて、その結果日本の政治家や軍人や實業家等の手腕が卓絶してゐることを世界に證明したいものだと思ふ。私はそれは既に確立し內外にも聲明されてゐることだから、今更論議する迄もないことだと考へてゐる。

> 時 昭和九年十二月二十四日
> 場所 東京丸の內中央亭
> 出席者 陸軍省新聞班員眞方勳大尉、參謀本部々員今井武夫少佐、同上片倉衷少佐、陸軍大學校教官遠藤三郎中佐、海軍省軍事普及部柴田中佐、同上酒井慶三少佐、外務省情報部矢野征記事務官、拓務省森重千夫企畫課長、滿洲國協和會小林鐵太郎駐日代表、至誠會長永田秀次郎氏、慶大教授林毅陸法學博士、法大教授高木友三郎經濟學博士、東京工大教授木下正雄工學博士、中大教授三輪末彥氏、農大教授住江金之農學博士、早大教授天川信雄氏、慈大教授中村爲男醫學博士、立大教授松下正壽氏、帝大配屬將校大谷清營大佐、拓大配屬將校藤懸末松大佐、農大配屬將校森知虎少佐、駒大配屬將校蔭田康明少佐、至誠會員久保勘三郎氏、（以上順序不同）本社支社側―山崎東京支社長、熊勢、八田、岡本各記者

松下教授 林先生のお話に蛇足を加へるやうですが、私は私と同じ人間が居るかといへば、居ないにきまつてゐるが、私に似たやうな人間が居るかといへば居るだらうと思ふ、日滿關係に似たやうな事例も同樣であつて、この廣い意味において例を擧ぐれば先づアメリカとキウバの關係はプラット修正案によつて共同防衛の言葉はないが、アメリカの陸軍はある程度迄キウバの內政に關與する事が出來ることになつてをり、パナマがコロンビアから獨立した時にもアメリカ政府當局は最もフランクに「パナマを取つた」といふ言葉を使つた程で、共和國特殊の關係において國防上も共同責任を有つてゐる、またテキサスがメキシコから獨立した時には矢張アメリカ人がテキサスに行つて獨立運動を援助し、その資金も大部分アメリカから出てゐる、それからポーランドが獨立した時にもフランスの資本、技術、新聞等が非常に援助した。以上の例はいづれも日滿關係と同じとはいへぬが、何等かの點に於て一脈相通ずるものがあり今日の國際關係においては他國の領土を武力で併合することは合理的有利的方法でない事が客觀的に認められてゐる、かやうの見地から滿洲國自身の利益のため並に日本の生命線を護るため滿洲國が日本の力を借りて益々獨立を確保してゆくことは取りも直さず世界の大勢に順應しまた大勢を助長促進して行くものであつて人類の平和增進に貢獻するものだと私は考へてゐる。

今井少佐 滿洲國最近の治安狀況についてお質ねがあつたが、申す迄もなく滿洲の治安は建國以來軍が最も力を注ぎ來つたところであつて、漸次成果を擧げ本年に入りては熱河、黑龍江省などの匪賊も非常に數を減じ昨今匪賊が居ると思はれるのは東邊道東部や吉林省東部位に局限されてをり、この狀態で進めば近き將來には產業開發などの上から見ても餘程樂な狀態になるらうと思ふ、事變後遠藤中佐と一緒に滿洲に渡滿し、その後四回行つたが治安が恢復してゐることは全く隔世の感がある。一昨年秋は奉天郊外に匪賊來襲して散歩出來なかつた附近に、昨年秋は女子供でも散歩してゐたし、本年になるとごし／＼住宅が建築されてゐる、一般に一昨年迄は政治的背景を有つた集團的匪賊が跳梁したが、昨年には政治的背景を有つたものが無くなり、本年に入ると集團的のものが跡を絶ち多くは四、五十名以下のものである、吉林省東部に近い所では共產的色彩のものも多少あるが、その他は衣食に窮した結果强盜團となつたものである、今後滿洲國の警察が整備されるにつけ治安は益々改善されるであらう。

國策を遵奉して州政に奮勵努力

關東州廳長官 大場鑑次郎

昭和十年の新春を迎へ國運の長久と聖壽の無疆を祝することを得るは我等帝國臣民の最大の幸福であり無二の誇りとする所である

皇室におかせられては兩陛下を始め奉り皇太后陛下、皇太子殿下、內親王殿下御打揃ひ御機嫌御麗しく御健かに渉らせられ竹の園生の御繁榮洵に御芽出度極みである、殊に皇太子殿下には同年御三歳を迎へさせられます／＼御順調に御發育、御成長遊ばされ今日常の御有様の數々漏れ承はり萬代動ぎなき皇國の瑞兆であつて九千萬同胞の歡喜これに過ぎざるものはない

今や國運の隆昌、皇威の發揚は前古その比を見ざる所である、これ申すまでもなく、列聖相承け祖宗の洪緒を紹がせられ宵衣旰食治を圖り給ふた御功業の賜であつて、我等生をこの聖代に享け歡天喜地極まる所を知らない、我等陛下の赤子は各その分に從ひ職に應じ、忠君愛國の至誠を傾倒し皇猷を扶翼し奉らなければならぬ事を新年に當り痛感する次第である、今日世界における帝國の地歩にその偉大なるを加ふると共に、亦至大の責任重荷せられつゝあるのである

×

文化產業防備共に世界に雄飛濶步するに至つた爲めに、列國の我國に對する關心は容易ならざるものがある、或は關稅の障壁を高くし或は軍備の減縮を迫りその警戒抑壓の風潮は世界に瀰漫しつゝある現狀である、即ち吾人の眼前に［迫］る危機非常時の姿である、然し乍ら吾人大和民族の大理想は天業恢弘、皇道の宣布であつて、換言すれば隣人愛、平和愛好の精神を推擴して四圍を薰化誘導せんとする國際正義の強調實行に外ならぬ、即ち東洋永遠の平和を確保し人類福祉の增進に貢獻せんとするにある、滿洲國の獨立を擁護してその建業を完成せんとするは之が具體化の一たるはいふ迄もない、正義の履行には必然實力の之れに伴ふものがなければならぬ、國力の充［實］なくんば萬事休す、國民一致の奮勵努力を要する所以である

×

今回の在滿機構の整備に依り［?］に迫つて不肖關東州廳長官の重任を拜した事は洵に恐縮の至りである、關東州はいふ迄もなく地理的には滿洲の咽喉であり、政治的には帝國の租借地であつて特殊地域に屬する大陸における日本文化の淵源であり模範的の地方行政の搖籃である、又關稅自由地帶であるが爲め貿易の中心であり、近時の發展繁榮の情勢は誠に顯著なるものがある、關東州は［此］の地特有の發展性を有して居る、滿洲國創業以來は日に月にその發展を促進し既に人口百萬を超え貿易高七億を超ゆるの盛況に達して居る

關東州の今日あるに至つたのは三十年來帝國がこの地の開發に重點を置いたこと、在留官民一致の拮据經營の結果であつて治安の絶對維持、文化施設の完備、產業の發達等遺憾なき程度に達し益々進展の機運に乘つてゐる

×

不肖この地の重任に就き何等［?］の經綸を有する譯ではない、［併し］國策の命ずる所に從ひ誠心誠意努力を盡して先人の遺業を繼ぎ［?］施行に當るの覺悟を有して居る之が爲めには一に上司官民各位の御指導御援助に待つの外はない、自分は幸ひにして當地に前後約十年の官歷を有するが爲め辱知の人々が多い事は自分に取りてなによりの幸ひである、大方の御擁護に依つて大過なく任務を遂行したいと切望して居る次第である

大陸の一角關東州に於て光榮ある新春を迎へ謹んで皇恩を拜謝し、帝國の隆昌と日滿兩國の親善を祈る

金融界靜穩

【東京特電三十日發】本年の歲末金融は正金に對するコール回收、日銀の貸出增加等によつて需要みたされ格別の波瀾なく順調に推移し、コール翌日物レートは最高一錢に止まり、全國を通じて無事平穩なる越年をみる

人事

▲西尾壽造中將（關東軍參謀長）三十一日朝あじあにて新京へ ▲河本大作氏（滿鐵理事）同上 ▲林少佐（關東軍參謀）同上 ▲石丸志都磨中將（滿洲國侍從武官）同上 ▲松原信助氏（哈爾濱鐵路局科調度股長）三十一日午前着列車にて來連 ▲松村久兵衛氏（關東軍囑託）三十一日正午發はとにて新京へ ▲品田芳夫氏（陸軍三等軍醫○○○隊司令部附）同上 ▲阪谷希一氏（滿洲國國務院總務廳次長）同上 ▲長山七治氏（滿鐵經理部會計課長）同上熊岳城へ ▲楊井勇三氏（正隆銀行常務取締役）卅一日入港うらる丸で ▲國松文雄氏（元大阪朝日大連通信部派員）今回滿鐵經濟調查會社大阪駐在員として滿鐵大阪事務所勤務

日本人の土地商租は今後無制限、自由

滿洲國政府と交涉成立

【東京三十一日發國通】滿洲國における日本人の土地商租に關する交涉については從來各方面に種々の誤解の起るを警戒し、當局では記事掲載を禁止してゐたが、今回同問題に關する一切の交涉が一段落せるを以て今迄の掲載禁止を解除した、同交涉の內容は左の如くである

一、從來張作霖政權の下においては奉天省においてのみ日本人の土地商租を許してゐたが、滿洲國では吉林、黑龍江兩省の北滿に對して自發的に商租權を認めることゝなつた

一、滿洲國成立當時は日本人の大資本家の進出を懼れ、十五萬町步以上の商租を許さぬが如く傳へられてゐたが、今回は斯る制限を附せず、日本人の商租權を無制限自由となした

右の如く日滿商租權交涉の圓滿完全なる解決により、日本人は滿洲國で土地を商租し、三十年（工業農業のために期限を更新することを得るものとす）を限りとなし、土地を商租し得ることゝなり、今後移民その他の自由なる經濟的活動をなすことを得るに至り、將來日滿經濟の緊急なる聯絡發展をなすことを得るに至つたものである

我國際的地位を列强は確認

比率軍備廢棄の影響

【東京特電三十一日發】華府條約廢棄通告は差等比率主義を不當とし新なる軍備平等權要求を明示したものであるが、同時に過去において英米兩國が直に國際的優越を主張し來つたものに對し、最早かくの如き情勢は世界平和を永遠に保持する所以に非ずとする我見解を條約廢止により率直に闡明したものである、從つて今回の措置は我國際的地位に新紀元を劃した歷史的事實であつて、廢止通告をなすまでに帝國政府は之に依つて發生することあるべき國際的新情勢につき愼重なる研究を遂げたのは勿論であるが、特に廣田外相は今後帝國が困難なる國際的立場におかるゝが如きことは全然なかるべく、寧ろ英米佛伊の締約國はもとより其他の國家に於ても帝國の海軍問題に對する主張並に國際的地位を確認するに至るべしとの確信と決意をもつてゐる

支那紙論評

【天津三十一日發國通】華府條約廢棄に對し當地支那紙は何れも大々的に取扱つてゐるが、三十日の益世報は左の如き社說を揭げて支那の輿論を喚起してゐる

廢棄通告は第二十三條の規定により行つたもので吾人の關知する所でないが、之に依つて生ずる東亞の國際形勢は益々緊迫するであらう、今後支那として考慮すべき事はワシントン條約附屬條約とも見るべき四國條約並びに支那の領土保全を建前とすべき九國條約も當然廢棄される結果となるべく吾人は今日より準備せねばならぬ

と結び大公報も亦社說を揭げ日本のワシントン條約廢棄は日本の既定方針であつて吾人は別に驚きもせぬが、こゝ十有年來太平洋の大勢を支配して來た歷史ある海軍條約は終末を告げた九國條約と同じ運命に陷るとはいへないが、日本の執つた態度は精神上九國條約の失權を宣告したものである

と論じてゐる

三、四日頃細目交涉

北鐵交涉好轉

【東京三十一日發國通】ソ聯代表カズロフスキー氏は三十日正午本國政府よりの回訓に接したので同日午後六時より外務省で東鄕局長と會見、ソ聯側は前回より更に誠意を示し支拂保證、退職手當、物品支拂保證の三懸案問題についても全面的に讓步し來つてゐるが、なほ我方の主張と一致せず不滿足な點がある爲、東鄕局長は更に步み寄りを希望した所、カ代表は至急本國政府に請訓することになつたが、北鐵細目交涉も三十日の交涉によつて俄然好轉し來る三、四日頃行はれる豫定の細目交涉により細目條件の協定成立すると觀られる

起債の最高記錄

昨年の概算は十四億

【東京特電三十一日發】本年の起債市場は下期金融異變のため一時減少したが、上、下兩期を通じて異常な活況を呈し殊に社債發行高は興銀調查によれば本年度概算十四億三千七百五十萬圓に達し、昭和三年の九億七千萬圓を遙かに凌駕して最高記錄をつくつた、而してその中新規發行高は四億五千萬圓に過ぎず、殘り十億二千萬圓は借替發行で低利借替が極めて旺盛であつた

滿鐵會社監督權分轄論の理由

事務の性質により

【東京特電三十一日發】在滿政治機構改革に伴ふ滿鐵の監督は對滿事務局官制第一條第四項と關東局官制第三項とに規定され、現地においては關東局が、中央においては對滿事務局が行ふことになり、從つて認可事項は全權大使（關東局總長）を經て總理大臣（對滿事務局總裁）へ廻附されるやうになつた、然し二位一體の全權大使は舊制の關東長官と異り滿鐵に對し從來より遙かに廣汎な權限を賦與されてゐるので、自然監督事務の實際的分轄を行ふを可とするとの意見が專ら行はれてゐる、即ち現地における滿鐵の建設運輸その他營業現業方面に關する事項と社內職制、人事の重要事項及び傍系會社の營業に關する事項などは全權大使の責任において關東局が之に當り、財政と內地經濟に關係を有する事項及び會社の機構編成などに關する事項は中央において對滿事務局が管掌する

ことになれば兩々相俟つて効果的であらうといふのでこれが決定を見るまでは滿鐵監督は不慣れと共に多少煩雜を來すものと見られてゐる

滿洲關係の朝鮮總督府豫算

【京城特電三十一日發】總督府來年度豫算に於いて歲出の主なる新規事業中、滿洲國關係施設三百五十六萬七千圓が筆頭である、これは主として聯絡に關するものであるが、その他滿洲移民費百五十萬圓計上など滿洲關係のものとみるべきで、日滿不可分關係に於て朝鮮がその使命を果すに必要なる施設を完備せんとする國策の一つの現れであるとされてゐる

滿洲における本年の重要な政治・外交

素晴らしい跳躍を待望

昭和十年、一九三五年は國際氣壓が急激に低下すべく約束づけられた年だ、しかもこの低氣壓を發生せしめた原因の最も有力なるものゝ一が滿洲國成立である以上、今年の滿洲國が如何に注目すべき地位に立つてゐるかを知ることが出來やう、しかも滿洲國內部においても滿洲事變後四年を經過しただけに政治的にも經濟的にも漸く新しき秩序が確立し素晴らしい跳躍が待望されてゐる

新機構實施

政治的に最も興味あるのは二位一體制による南軍司令官時代が如何に展開して來るかである、滿洲事變後の滿洲の日本側政治機構は本庄、武藤、菱刈時代を經て南時代となつたもので南軍司令官は前期二代に見ざる强大、廣汎な權限を持つてゐる從來の三位一體制は拓務大臣の監督下にあつたのだが二位一體の南軍司令官は內閣總理大臣に直隸し、在滿政治機構に對する指揮監督は一元化し直截簡易化した、總理大臣の直屬スタッフとして對滿事務局が設けられてその總裁は林陸軍大臣だ、又二位一體行政的補助機關として關東局が設けられその總長は日本の新進政治家として知られた長岡隆一郎氏だ、關東州には州廳が置かれ、その長官大場鑑次郎氏は關東局の監督下に立ち組織は整備した、人の和は得た、昭和十年はこの組織と人とを持つて最も力强い政治が行はれるだらう

滿鐵の改組

滿鐵がどうなるかは今年の滿洲の最も大きな宿題である、滿鐵改組論は事變直後に起り、昭和八年の春から進展し同年秋に具體化していはゆる改組騷ぎを起したが、滿鐵內部および內地財界政界の反對論のため立往生して今日に及んでゐる、しかし滿鐵を改革せねばならぬ理由が消滅したわけではなく、否、事變前の機構たる滿鐵を事變後の新情勢に順應せしめねばならぬ理由はます／＼强くなつてゐるのだから二位一體の整備した今年こそ何とか恰好をつけねばならぬとの氣運が濃厚となりつゝある、たゞ注意せねばならぬのは、日本の財界方面には依然として現制における滿鐵を信賴してこれに投資せんとする風があることで、滿洲が日本資本に依存してゐる今日ではこの方面の意思を無碍に沒却するわけには行かぬことだ、即ち改組するとしても昭和八年度に傳へられたやうな拔本塞源的な改革は行はれず、經濟界にも大なる反感を起すことなく、たゞ二位一體の指揮監督を十分にすることによつてその目的を達するであらう

といふ觀測が專ら行はれてゐる所以である

日滿不可分

轉じて滿洲國を見ると帝制實施後第二年に當り、國基いよ／＼固い、內政方面では今年こそ憲法發布を見るだらう、これで立憲君主國として堂々世界の檜舞臺に乘出すわけだが、民度の關係上民選による議會を持つまでには多少時間があらう、昨年秋斷行した地方制度改革による十省および興安四省の眞の行政が開始されるものも今年からだ、治外法權撤廢への進一步として司法制度の改善充實も行はれるだらう、又外交問題の樞軸をなすのは依然として緊密な日滿關係である、日滿關係は滿洲國成立の歷史より見て常識的事實であるけれども、日本國民中にもなほ充分理解せざるものがあるので、南軍司令官は新任以來この點を繰返し力說し自己の政策の基調としてゐる、即ち

滿洲國は儼然たる獨立國で、しかも日本とは不可分の關柄である

この見地上に立つて日滿兩國の關係が規定され、兩國相攜へて一九三五―六年の國際危險線に力强く一步を踏み出すわけである

對ソ聯關係

對ソウエート關係の進展は世界的關心事である、昭和八年六月以來すでに一年半を經過した北鐵買收交涉は九分通り纏まり殘る一步の手續的問題だけが昭和十年度に繰越され、いづれ年初に解決する見込みである、北鐵問題が片づけば滿洲國の國境方面の險惡な雲行は著るしく緩和するだらう、今後は國境問題および黑龍江問題等が主なる滿蘇外交問題となる、支那との關係は昨年七月通車問題解決し、押し詰つた十二月三十一日通郵問題も協定成り今年元日から實行に入るべく、北支に關する限り著るしく密接となりつゝある、しかし國民政府は滿洲國否認政策を依然として固執してゐるから今年中に急に滿支關係の新しき進展があるとは思はれぬ、否、むしろ今明年中の國際危機の裡に滿洲問題が新に登場して來ることを豫期してその機會を狙つて居り、油斷ならぬ形勢である

對歐米關係

歐米方面では英國の滿洲國接近政策が目立つて來た、英國はリットン調查團の中心國であり、滿洲國否認政策を主唱した國だが、さきに來滿したバーンビー卿一行の實業視察團は滿洲國の顯著なる發達を現實に目擊して親滿氣分を鼓吹してゐる、フランスは最も早く對滿投資を企てた國だが、昨年成立した日佛對滿事業公司はいよ／＼今年解氷と同時に事業にとりかゝる筈である、ドイツは滿洲大豆の主なる消費地でその關係は古くより最も密接である、ドイツは滿獨間にバーター制度を實施せんことを希望し、滿洲國側はこれに同意を表してゐないが、かゝる經濟的親密は滿獨兩國の政治的接近を促進することにならう

要するに昭和十年―康德二年の滿洲は內外に重大問題を控へて最も緊張を要する年だが、然し全體の空氣は明るい、もとより一九三五―六年の危機が如何に進展するかによつて根本的に左右されるが、これは日滿兩國共同の努力によつて斷じて打開することを得べく、苦勞の中にも樂しみ多いのが今年の滿洲である

不振を一蹴する 各社の製作方針

松竹、日活、新興の勢力伯仲

35年の日本映畫界打診

第一映畫社一黨の日活脱退、協同映畫社一黨の蒲田脱退、日本映畫配給會社の設立、關西大風災によるスタヂオの破壞、俳優爭奪戰等々昭和九年度の日本映畫界は混亂につぐ混亂、それが爲各社映畫の內容は一方ならず低下不振の狀態を誘致し、この影響は遠く滿洲にまで波及して大連を始め各地共に滿洲映畫全盛の有樣であつたが、昭和十年度における日本の映畫製作會社は如何なる態度をもつて事業に當るか、各映畫社撮影所幹部の意見を聞いて見る

藝術的赤字 克服待望

新興撮影所長 白井信太郎

昭和九年度の混亂が日本映畫の品位を低下せしめたことは否めない事實である、わが新興キネマはこの點に深く留意して十年度こそは九年度の藝術的赤字を克服してよりよき優秀映畫の製作をモットーにして進みたい、トーキーへの進出、東京撮影所の設立と完備、遲くとも三月頃には東京大泉撮影所と京都太秦撮影所が相呼應して日本映畫界の王座をめざして活躍を開始するであらう

特作本位に

第一映畫撮影所長 永田雅一

第一映畫結成第二年を迎へるに當り同志が手を更に強く握り合ふことを誓ふと同時に、從來の製作方針たる特作本位に一層の拍車をかけ文字通り優秀大作を製作、昭和九年度に於ける映畫配給に一大エポックを劃した日本映畫配給會社の一分野として活躍する

今年に爲さんとするもの

松竹京都撮影所長 井上重正

一番親密でなければならぬ映畫同業各社が俳優を拔いたり拔かれたり喧嘩ばかりしてゐるのでは日本映畫は何日までたつても發展しない、我が松竹では東京においてこれに關する對抗策を研究中で今春中には實現しやう、本年の製作方針は東西兩撮影所が協力大いに大作を發表することに決定した、なほ從來は興行のみを考へたきらひがあるが、今年からは月一本乃至二本は民衆をよき方面に誘導する映畫を作る、然しこれも文部省の所謂教育映畫の如きものではなく興行價値を忘れぬ報國映畫として製作する豫定である

海外に撮影隊

エトナ映畫社々長 田中伊助

スタヂオの設備は九年度で終つた今年は大いに飛躍する心算である上半期は全發聲一本、サウンド一本、サイレント二本の四本を製作する外二ケ月に一本の割で南洋、或は南アフリカに撮影隊を派遣し他社の企て能はざる映畫を作る

一陽來復

日活常務取締役 杜重直輔

三四年度に於ける日活は實に多事多端であつたが、內訌的のものは何の心配もなく舊前の日活魂を揮つて三五年度は善戰する、映畫は商品であるから大衆顧客から歡迎されるものでなければならない幸ひに日活の時代劇は一大勢力を持つてゐる、この一大勢力に乘つて大衆と相携へて行く、勿論現代劇もゆるがせには出來ない、三五年度は日活現代劇にも相當の力を入れる準備はとゝのつてゐる、もも角季節ばかりではない、日活にも一陽來復だ

異色篇製作と配給の確立

太秦發聲社長 池永浩久

會社設立第二春を迎へて作品の上に獨得のカラーを置くことを決定した、我社映畫は各社のプログラム・ピクチユアーと異つたカラーを持つた大作品とする方針である、準備は既に舊臘出來上つてゐるから新春早々着手する、配給網の確立擴大も考へてゐるが先づ增資を行ふつもりだ

トーキー時代へ 躍進するスター

三五年の榮冠誰に（上）

日本のトーキーも漸く本格的となつて來た、例へば日本のトーキー列車は漸く軌道に乘つて走り始めた、然し全部が全部進行してゐる譯ではない、僅に進行したものがあるかと思ふと、途中で故障を起し引き返したものもあり、立往生をして跪いてゐるものもある、トーキー列車に乘つた俳優達、豫期した程危險でないとホツとしたスターもあれば、乘つただけで憔れをなして引き下つたスターもあり又全然乘らずに思案に暮れてゐるスターもある、然し三五年になれば彼等は當然一度はこの冒險を敢行させられる運命にある、乘るかそるか、正に生活權を賭けての大試驗だ。

花を欺く美貌麗姿も、團菊の地下の眠りを覺ますやうな素晴らしい演技も、トーキーの世界ではスクリーン・ボイスに支配されることになつた、或る外國のトーキー大監督は「スクリーン・ボイスは自由で氣持の良い且つよく響く聲でなくてはならない、そして聲を良くする唯一の方法は耳をよくする事さ、よくしようと努めることの二條件である」と論じてゐる、この條件によつて三五年度の輝かしきスターの位置に就くものは誰か三五年度のエクラン第一線に活躍を期待される最も有望なスターを拾つて見やう。

新興 霧立のぼる　　松竹 三宅邦子

日活 嵯峨みや子

下加茂 堀江清子

正月一週映畫

（1）日活館上映の千惠蔵映畫「新風三尺劍」の片岡千惠蔵と絹川京子（2）映樂館上映、新興特作オールトーキ「唐人お吉」の水谷八重子（3）帝國館上映日活現代劇「巖頭の處女」の右から近松里子、水久保澄子瀨口新太郎（4）常盤座上映、伊太利國策映畫「征空大艦隊」（5）寶館上映の大都映畫「次郎長身代り旅」の阿部九州男（6）中央館上映の蒲田オール・トーキー「春江の結婚」の藤井貢と三宅邦子

賀正

旅順

旅順郵便局長 富永國治

新旅順郵便局長 新旅順電報局長 三阪善四郎

旅順電報電話局長 野村廉治郎

旅順高等公學校長 横佩章吉

旅順中學校長 今井順吉

旅順高等女學校長 平田芳亮

旅順市會議員一同

旅順公議會

旅順要港部參謀長 海軍大佐 久保田久晴

旅順要港部司令官 海軍少將 濱田吉次郎

關東廳高等法院檢察局 檢察官長 下田勝久

旅順要塞司令官 陸軍少將 田中稔

關東廳旅順醫院長 醫學博士 樋口修輔

旅順民政署長外職員一同

旅順市長 米岡規雄

旅順市八島町 竹森病院 電話一四二番

旅順市鎮遠町 成田醫院 電話一〇九番

旅順市乃木町 井上醫院 電話六三五番

鎌倉保育團旅順支部 旅順市新市街旭川町 電話五五四番

鎌倉保育團旅順支部大連分團 大連市老虎灘 電話六九九三番

旅順市富士町 滿洲蠶絲株式會社 電話五六七番

各種銘茶 茶器類一式 丸山茶舗 乃木町一丁目 電話一六八番

電機販賣 修理釣具 金澤屋 旅順市乃木町(郵便局前) 電話五〇八番 涌波窯業工場 旅順市桃園町(電話二四〇番)

旅順市外楊樹溝 林農園 林源一郎

千藏倶樂部

日本赤十字社滿洲委員本部

陸軍憲兵中尉 旅順憲兵分隊長 龜井眞清

關東廳內 關東州水産會 電話四七番

旅順市嚴島町 關東州水産會旅順魚市場 電話六二九番・六五番

旅順金融倶樂部 朝鮮銀行旅順支店 正隆銀行旅順支店 旅順無盡會社 旅順輸入組合 旅順金融組合

旅順工科大學談話會

旅順市助役 岸田愛文

關東海務局旅順支局 支局長 枝野丈右衛門

旅順刑務所長 典獄 宮崎德安

大連稅關旅順分關長 星野金之助

旅順市乃木町三丁目 本田商會 本田治三郎 電話局二七七番・振替大連一五四九番

自動車部分品販賣及修理 旅順市乃木町 德永商店 電話四七五番

(いろは順)
鮫島町 稻富藥店 電話五八七番
乃木町 田中藥舖 電話三三六番
青葉町 萬代號藥房 電話四二八番
青葉町 宮竹藥店 電話一七〇番

銘酒金正釀造元 三勢商會 廣垣治助

卸小賣部 釀造所 卸小賣 土木建築請負業 果樹園經營販賣 廣垣治助 舊市街忠海町二八番地(電話三〇七番) 新市街中村町八番地(電話二八四番) 旅順市忠海町二十八番地(電話三〇七番)

石炭商 滿昌洋行 旅順八島町 貯炭場 電話一四七番 一六六番

滿鐵石炭特約店 本溪湖煤鐵公司代理店 千代田生命保險相互會社代理店 朝鮮火災海上保險株式會社代理店 日本麥酒鑛泉株式會社特約店 海軍糧食品御用達 矢幡商會 倉庫所在地 旅順市八島町 旅順市朝日町一丁目(電話三一番) 石炭商出張所 滿鐵貯炭場構內 電話三〇六番

製鹽業 旅順市嚴島町 矢原商會 矢原重吉 電話八一・四四六番

大日本優等清酒 神代 銘酒神代、清酒福鶴、熟酎並味淋 備後屋 神田商店 旅順市乃木町 電話三二三番

土木建築請負業 石井組 組主 石井本一 本店 旅順市名古屋町九番地 電話一三番 出張所 大連市惠比須町二五番地 電話六七三四・三九六七番 出張所 奉天春日町一三番地 電話三三一三番

建築請負 旅順市朝日町 水間又吉 電話三八一番

▲營業所旅順市橘立町一 電話三八四番 常盤運送 ▲營業所大連市榮町二 眞田公松 電話六八〇〇番(電話二七二番)

旅順市名古屋町六 仲野齒科醫院 電話一二九番

旅順市青葉町 電話四七六番 深川齒科醫院 院長 深川二郎 小船不二男

陸海運送 旅順市乃木町三 大六運送店 電話四六七番

和洋御料理 仕出し 旅順市敦賀町角 食堂きむら 電話三〇五番

海産物商 花鰹節製造元 旅順市敦賀町十五番地 淺田商會 電話六一四番

建築請負 左官材料販賣 旅順市名古屋町(電話七五二番) 大谷組 大谷組大連出張所 大連市能登町七三 電話七七五九番

旅順市乃木町 靴、馬具其他 能井洋行 相阪千代吉 電話六七番

旅順朝日町 さくら温泉 (魚菜市場横)

陸海軍御用達 洋酒、洋煙草、洋菓子 TAKA 旅順市乃木町三ノ七 高澤又藏 電話五二八番

貸舟ボート 旅順市朝日町 サヽキ商店 電話六七九番

代書 旅順市鯖江町(警察署隣) 吉安克道事務所 電話四〇四番

代書 旅順市鯖江町 福永新七事務所 電話三九〇番

和洋雜貨 ふたば屋 旅順市乃木町 電話六一一番

水産業 旅順市嚴島町 木野村間太郎 電話四九五番

食料雜貨 山口屋 山口清輔 市場內 電話五四一番

旅順煉瓦及煉瓦土管製造 小林治作 金比羅殿町八 電話五二五番

銘酒菊正宗 櫻正宗 金水商會 乃木町 電話一〇六番

旅順市乃木町 中山洋服店 電話三二九番

旅順市敦賀町 島村洋服店 電話一七九番

旅順市大迫町 高田洋服店 電話二二七番

旅順市乃木町三ノ二〇 齋藤洋服店 電話六五六番

蓄音器 旅順市乃木町 櫻井時計店 電話一九五番

旅順市乃木町 福岡時計店 電話七七九番

旅順市新市街(鎮遠町) 小梨齒科醫院 電話六五一番

電氣機械器具 旅順市乃木町三ノ二〇 津田電氣商會 電話四六四番

乃木町三丁目 ゑびす屋呉服店 電話一三〇番

近江屋呉服店 乃木町三丁目 電話七九番

諸官衙御用達 食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番

表具商 原榮年堂 旅順市敦賀町 電話五三三番

土木建築請負 山村組 乃木町十九 電話五八九番

土木建築請負 前西熊市 大津町四一 電話三四三番

土木建築請負 旅順市大津町 木下豐一 電話二二五番

土木建築請負 築島組 築島米藏 旅順市乃木町二丁目 電話三九七番

建築請負 家具製作 旅順市敦賀町 清水洋行 電話六七五番

旅順敦賀町 諸官衙御用達 久野商店 久野儀一郎 電話一四九番

旅順市乃木町三 宮地疊店 電話一九四番

疊製造 奥石商店 奥石久作 大津町一六 電話三六〇番

旅順市大津町一八 宮澤疊店 宮澤猛雄 電話四九二番

土木建築請負業 旅順市忠海町 礒谷捨吉 電話六〇六番

土木建築請負業 清住泰一 鯖江町一一 電話五三四番

トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 旅順市金比羅町 石井榮一 電話三七番

土木建築請負 旅順市乃木町二丁目 和田武吉 電話五八八番

土木建築請負業 森谷吉五郎 旅順市乃木町三ノ二八 電話四八三番

井町商店 朝日町魚市場 電話三三二番

旅順市八島町 井上釣具店 電話六〇四番

旅順櫻泉社 サクラ印サイダー、シトロン製造所 那須梅吉 電話二一八番

和洋雜貨 藤井洋品店 新市街松村町 電話五七番

書畫骨董、貴金屬、寶石、毛皮家具類 後藤勇太郎 末廣町二一 電話四三九番

陸海軍各官衙御用達、船具、金物、機械、綿糸布、タオル其他諸納入品一式 センターストーブ特約販賣店 岳南公司 旅順市乃木町三ノ六六 電話三八二番

旅順質屋組合

旅順市乃木町 ガクブチ、アルバム、文房具 マルゼン商店 電話六〇九番

旅順市乃木町 文房具、額ブチ、繪はがき マツヲ 松尾傳吉 電話八二四番

新市街大迫町一三 マスヤ文具店 電話三〇四番

紙、文具、印刷、帳簿、毛糸小間物 旅順市青葉町七二 鮎川洋行 江里口吉太郎 電話二五四番

旅順市敦賀町(婦人病院前) 滿洲タクシー 電話二六二番

旅順市乃木町(滿電前) 旅順タクシー 電話五六〇番

滿電驛前タクシー 電話五二三番

旅順新市街松村町(圖書館隣) 日高タクシー 電話四七九番

新古自轉車並に修理 旅順市乃木町派出所前 富永商店 電話四〇一番

諸官衙御用 乃木町 山田活版所 山田李次 電話五四番

各社映畫上映並ニ各種興行 旅順市乃木町三丁目二一 旅順映畫館 電話一七五番

旅順市乃木町 濱田洋酒店 電話七八八番

旅順市朝日町 川上陽樹園 川上萬次郎 電話七八七番

支那料理 旅順市敦賀町 德興樓 電話四三七番

宏記 呉服店 電話三一八番 精米工場 電話六六一番

旅順市新市街松村町二一 成松寫眞館 電話二五九番

寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影 南滿公司 旅順寫眞館 乃木町三丁目交番横 電話四七二番

寫眞出版 印刷出版 旅順市鮫島町一 玉井寫眞工藝所 玉井紫水 電話三九九番

寫眞 旅順市新市街 齋藤寫眞館 電話六六三番

銘酒姫鶴釀造元 銘酒白鶴、白雪特約店 旅順市青葉町四五 西本商店 電話一八五番 振替大連二四九五番 釀造場 旅順市鮫島町十番地 電話三二四番

旅順市月見町 月見農園 月見賣店 旅順驛前(電話六二〇番) 旅順通關所

乃木町交番前 京阪流行御履物 栗田商店 電話三四一番

旅順料理店組合

旅順市乃木町 御菓子司 玉の家 電話七五一番

旅順市敦賀町 製菓 東光堂 電話七七番

旅順市敦賀町 元祖旅順八最中 御菓子製造 桐乃家 電話四三一番

旅順市乃木町 パン菓子製造 木村屋 電話一二六番

旅順市朝日町二ノ一 忠勇あられ 高粱しるこ 東金堂 加藤傳吉 電話五三二番

明治製菓株式會社 京城菓子株式會社 新高製菓商會 特約店 卸問屋 山岸洋行 旅順市乃木町三丁目 電話四五四番

旅順市明治町 菓子製造 老樹園 電話二四六番

旅順市乃木町 桃太郎菓子店 大舛時三郎 電話六七二番

海軍酒保御用達 聖旅順名物 なつめ羊羹本舗 水月堂 中牟田佐太郎 旅順市嚴島町海岸 電話五七五番 振替口座大連三一六〇番

旅順市鮫島町 饅頭製造 松岡商店 電話三五九番

旅順市乃木町 陸海軍御用達 精肉 金太屋 電話二七五番

旅順市土屋町四 食料雜貨 飲食店 伊勢屋 芝田新太郎 電話三三八番

旅順市忠海町二 御料理 千代乃家 野田千代 電話六四五番

旅順市敦賀町 銘酒福美人 醬油味噌販賣 食道樂、香道樂 藤田商店 末廣町 安兵衛 電話六九八番

純生そば キシメン うどん 旅順更科 本店 電話二五五番 更科 本店 電話六七一番

御料理 辨當 仕出し 旅順市鮫島町 大阪屋 電話二七八番

旅順市千歳町 御料理 會席 辨當仕出し 千歳倶樂部料理部 電話六二二番

旅順市名古屋町 御料理仕出し、生そば つぼみ 電話二八一番

旅順市鯖江町 御壽司 仕出し 奴壽し 電話七六番

旅順市松村町 飲食店 文化亭 電話五六六番

旅順市乃木町 和洋御料理 睦食堂 電話三六四番

旅順市川端町 和洋、飲食、麵類 富之家 電話二六一番

乃木町(田村自轉車商會隣) 簡易食堂 (イ)食堂 電話五一〇番

旅順市乃木町 鐵材、金物 電氣、鑛油 村上信二商店 電話一〇四番

陸海軍御用達 大西商會 食料雜貨 大西商會食料部 旅順市乃木町二丁目大西重太郎 電話二五三番 朝日町市場內 電話六三一番

材木、建築材料 西野商行 旅順市乃木町 電話六八番

御旅館 寶來館 乃木町 電話五六番
御旅館 防長館 青葉町 電話二八二番
御旅館 旅順ホテル 青葉町 電話三六七番

旅順カフエー組合 (イロハ順)
乃木町 海月
乃木町 ヨシノ
敦賀町 太樂
敦賀町 松金
敦賀町 萬兩
敦賀町 コンパル
名古屋町 スバロー

旅順料理屋組合 (いろは順)
西町 一力
同 蛤亭
柳町 濱名館
西町 東洋軒
川端町 吉田屋
同 旅島屋
十年町 松葉
川端町 滿月樓
同 京城樓
西町 榮福樓
同 吾妻樓
朝鮮町 堺樓
遊樂
西町 新世界
同 新萬歳
川端町 笑福樓
東町 春海館
川端町 昭和樓

青葉町街燈維持會 (いろは順)
池田洋行 電七四
御菓子 泉屋
原田時計店 電六六七
早瀬商店 電一六四
新見時計店 電四八〇
岡女庵 電五〇三
大阪屋號書店 電二五一
吉野洋服店 電一八六
谷疊店 電五八四
高治洋行 電八七
中野日界堂
山口商店 電二四九
やまと軒 電四九三
山本商店
松崎紙店 電一二八
文英堂書店 電二〇七
松竹 電一六一
射越屋支店 電四五
瑞章堂印房 電六三
喫茶店 スヾラン 電六八一

(イロハ順)
御履物 栗田商店 乃木町 電三四一
御履物 ヤマ一號 敦賀町 電五〇二
みやこ履物店 乃木町 電六五九
村瀬履物店 乃木町

敦賀町共榮會
井上玩具店
カフエー松金 電一三六
玉屋モスリン店 電九二
熊井洋行 電六七
カフエーコンパル
ヤマ一運動具店 電五〇二
小森運動具店 電五〇一
食道樂 きむら 電六一二
三笠堂
昭和クラブ
久富商店 電四二九

旅順市乃木町 新鮮第一 渡邊果物店 電話四三二番

滿洲記念品 支那土産品商 東京堂 本店 旅順市乃木町三丁目 電話六一一番 振替口座大連一六六七番 支店 大連市銀座通本町角 電話三一二二九五番・振替大連四〇五番

旅順市乃木町 本田與市 電話四一一番

撞球 旅順市乃木町 朝日クラブ 電話二二二番

めでたき新春は皇太子樣から
御三歳の春を迎へさせられて 益々御健かな御近狀

日嗣の皇子繼宮明仁親王殿下御三歳の新春は御誕生初の晴れての新年である、昨年宮中は御喪中にて初の新年も御靜かに過ごさせ給ひ側近者一同恐懼申上げたが、今日こそは

晴れの 朝儀も輝かしく殊に大奥におかせられてはめでたき春は皇太子殿下よりとこそ拜された

皇太子殿下には御肥立彌々勝れさせられ、既に御三歳を重ねさせ給ふも御風邪一つ召されず、御見事に御成育、舊臘廿三日第一回の御誕生には御體重二貫五百八十八匁、御身長二尺四寸四分に在はし、天稟の御英資は日と共に勝れさせ給ふと承はるが天皇、皇后兩陛下の深き御慈愛の程はまた格別にて、御誕辰近くまでの御授乳は勿論、御召物から御髪の御手入れなども畏くも皇后陛下親しく御心を注がせ給ふとの御ことである、宮中の御閫樣は常に皇太子殿下が御中心とならせらるゝ趣であるが、殿下には御物わかりあらせられてからは御兩親陛下や御姉宮樣方が御近く成らせられるさいとも御嬉しげに片言交りの御言葉など遊ばされて御慕ひになり、又最眞に御可愛らしく拜され、又最近ではおんもに出でさせ給ふ折には御乳母車に召されて非常に

御喜び 遊ばすと承はる

皇后陛下には天稟御豐に御成長遊ばす御樣樣を御日誌に記されつゝ御將來の御多幸を祈らせ給ひ、また御養育に就いては特に御留意遊ばされ、御幼少の御時から御召物なども御質素を旨とせられる畏き思召にて、やんごとなき御身體に添らせられ乍ら木綿の御襦袢に、御服は白の富士絹を用ひさせられ御靴下なども御母陛下御手づから御編みのものを用ひさせらるゝと承はるは畏き極みである、既に御離乳遊ばされた皇太子殿下にはお粥、果汁、牛乳、野菜の裏漉しなど召される由に承はるが、御齒も段々

御揃ひ 遊ばすことゝて御飯を召さるゝも御近きことゝ拜される

御尊體の御力づきも目について勝れさせられ、御可愛らしい御洋服に御靴を召されて兩陛下や御姉宮樣の御手々に御縋り遊ばされ、御ひろひにて御內苑を御散策遊ばさるゝのも、冬着を脱がせられて合着を召される春から初夏の頃かと拜察申上げる次第である

通郵問題解決
滿支をつなぐ郵便 新春輝に復活
普通郵便は一月十日から 先づ賀春のたより

【新京電話】關東軍司令部發表＝永い間の懸案であつた滿支間の郵便業務回復に關する問題は、今回愈々關東軍側と上海郵政總局側との間に圓滿解決を見、先づ一月十日より普通郵便を、次いで二月一日より爲替、小包郵便の取扱ひを開始される事となつた、之に伴ひ滿洲側より中國宛て郵便料金は次の如く決定した

(イ) 通常郵便物

書狀 二十瓦毎に料金四分
通常葉書 二分
業務用書類、書籍、印刷物、盲人用點字印刷物又は凸字書籍、商品見本、新聞紙の料金は現行國內郵便に關するものに同じ
【備考】從量制限は國內郵便に同じ

特殊取扱料金

書留料金八分 快信(速達)料金八分
書留郵便物に限り快信(速達)取扱ひをなすものについては快信(速達)郵便物取扱ひ料金一角六分となる
到達書料金四分
△郵便物差出し後は八分

其の他請求料

取戻し又は名宛變更、蹤跡取調 △取戻料金八分 差立郵便着手前 △名宛變更料金一角二分 差立郵便後 △蹤跡取調料金八分

(ロ) 鐵道郵便物

料金一瓩まで 四角
國內遞送について二單巡費を要するものは一單巡費、三單巡費を要するものには二單巡費を上記の料金に加へ、又鐵道、汽船の通ぜざる地域に於ける郵便物引受けの場合は更に特別料金を徵收す

重量制限 は十瓩までとす
十瓩超過の場合は一瓩又はその端數毎に二角、但し右料金の外雲南省內各地宛て小包郵便(四川省經由を除く)に付いては左の特別料金を差出人より徵收す
重量一瓩まで七角、二瓩まで八角五分、三瓩まで一元〇五分、五瓩まで一元二角、七瓩まで一元七角、十瓩まで一元九角

特殊取扱料金

△代金引替郵便料金 代償金額の百分の二

特別取扱料金

通關料 一角
保管料 到着報知通發行日より十日間、十一日目より一日(但し二元を超ゆるを得ず)小包一個に付き五分

其他請求料金

△取戻し又は名宛變更 取戻し料金八分(郵便差立前)
△代金引替金額取消し又は遞減、一角二分、名宛變更一角二分(郵便差立後)
△蹤跡取調べ料金八分
△價格表記郵便物、通常郵便物、代金引替、課金別納郵便物は取扱はず

(ハ) 郵便爲替料

十圓まで一角五分、二十圓まで二角五分、三十圓まで三角五分、五十圓まで五角五分、百圓まで一元、百五十圓まで一元五角、以上五十圓又はその端數毎に四角を課徵す

僅に二ケ月にて重大懸案解決
關東軍代表 藤原保明氏談

今日發表の通り永い間の懸案であつた中華民國との通郵問題が全く解決され双方の爲何より慶賀に堪へない、今回の協議に際して私は關東軍代表として北平に參り技術家の一人として之に參加したのであるが双方の代表者皆公衆の便益增進に專念し誠心誠意和衷互讓の態度を以て協議を進めた結果事務的技術的に多くの難問があつたにも拘らず順調に進行して九月廿八日第一回の會合を催して以來二ケ月餘を費したが十二月十四日に遂に圓滿なる解決を見たのである、本會議は通郵の事務的技術的の連絡方法を研究する協議會であつた爲、初めより政治的意味を有する問題には全然觸れない諒解の下に協議を進めたのである

×

斯る複雜多樣なる問題が斯の如き短時日に於て議了されたのは在來の諸種の協議の經過と比較して聊か滿足に思ふ次第である、然し一面これは民衆の熾烈なる要望が反映した當然の結果であるともいへないことはない

×

顧れば昭和七年七月二十四日滿洲における中華郵政當事者が全滿における郵局を悉く閉鎖し南方に引揚げたのでその後を承け我々は直に郵政接收を爲し、一面內國郵便機關の建直しをなすと同時に對外通信連絡の完璧を期することゝしたのであるが諸外國に對する關係は日本を初めとし歐米各國とも當方の郵票を以て當初より完全に對外通信を行ふことが出來たのであるが、只中華民國との關係のみは前述の如き次第で一時短時日ではあつたが、通信が全く杜絕したこともあつたのである、其の後人類社會生活の必要上徐々に通信數量の增加を見、最近では滿華間の郵便は山海關を通過する郵便だけでも發着とも各々一日三萬通に達するの狀態になつたのである、併し乍ら中華側に於ては當方の切手を承認せず、名宛人から倍額の不足稅を徵して居るのである、無論之は通常の書狀葉書などに限られて書留、快信などは今尚その取扱ひが出來ないのである、其他小包爲替などは初めより全く取扱ひを停止して今日に及んだのであり斯くの如く郵便關係の圓滿を缺いた爲め今まで社會生活の各般に亘り頻繁なる交涉關係をもつてゐた滿華双方の一般は多大の苦痛を感じて居られたことゝ思はれる、殊に商取引關係などは通信連絡を缺く爲に著しく支障を來たし中華側よりの對滿貿易は激減して中華側の損失も多大なものであつたかと想像される

×

斯樣な通信交通上の一大支障が取り除かれ一月十日からは愈々書狀葉書、書留、快信等通常郵便物の交換が開始され、又二月一日よりは今迄全然停止されて居た小包爲替等の取扱が開始さるることゝなつたわけで、今後は南方に於ける名宛人が不足稅を徵收せらるゝこともなくなり感情上も非常に良い結果を齎す事と思はれる、なほシベリアを經由して中華民國に發着する郵便物も當方を通過することゝなるから歐洲各國と中華民國との通信も著しく敏速になることと思ふ、之を以て當方の郵便業務は對外關係に於ても他の獨立國と同樣世界各國との間に完全なる連絡が出來ることゝなつた譯である【寫眞は藤原氏】

人類の福祉增進の爲
高中華代表談

【北平三十一日發國通】通郵問題を鮮かにやつてのけた支那側の立役者高主席代表はホッとした面持ちで語る
實際の外交に當つたのは今度が始めてです、私は汪行政院長に此の役を仰付つた時私は郵政のことに關しては全く門外漢ですし、家族や友人は擧つて反對しましたので斷らうと思つたのです、併し汪氏が「君のやつた仕事の一切の責任は自分が引受ける」と言はれた一言に「人生意氣に感ずる」心境で此の大役を引受けたのです、問題解決に對し相當毀譽褒貶もあるのでせうしかし私は此の問題を解決することは人類社會の福利增進を圖る事であると言ふ道德的觀念と國のためには一身を犧牲にしてとの固い決意の下にやりました【寫眞は高氏】

嚴かな歳旦祭

【宇治山田發國通】常盤の綠も濃き神路高倉の山々に初春の黎明しそめんとする一日午前四時神宮に於いては神の森に莊重なこだまを繰り返す第一鼓を合圖として祭主三條西、苑田神宮大少宮司以下神官總員、內宮齋館に參集し、第三鼓の合圖にて白張奉仕の松火を先頭に純白の祭服に身を固めたる諸員は威儀を正し靜々と皇大神宮內院に參進、中重の版に着き伶人の妙なる奏樂裡に正宮大御前に神酒をはじめ海山種々の幸を獻進して嚴かな歳旦祭を執り行はせられ新しき年の始めを祝ひ、寶祚の無窮を祈り奉り、國運興隆、五穀豐穰、商工殷盛を祈念して三條西大宮司恭しく祝詞を奏上した、ついで同九時豐受大神宮に於かせられても同樣御祭儀を進めら

東北大生ら十名遭難す
短艇遠漕中の椿事

【東京三十一日發國通】仙臺第二高等學校短艇部員七名は先輩東北帝大ボート選手三名と共に宮城縣鹽釜築港で冬期練習中だつたが、二十五日午前十時遠漕のためスライディング エイトに乘込み鹽釜の艇庫を出發、石ノ卷に到着三泊二十八日午前九時石ノ卷を發し歸路についたが、午後三時の豫定時刻に鹽釜に到着せず、二十九日に至るも手掛りなく二高、東北帝大では各方面に調査を依賴し松島灣內一帶を搜査したところ、顚覆せるボートとオールを發見、十名全部遭難した事明かとなつた、廿九日は夜に至る迄搜査をなしたが吹雪のため一名の死體をも發見出來ず三十日は幸ひ快晴に惠まれ早朝より三百隻の漁船に依り大搜査陣を張り灣內を隈なく搜査の結果、先づ午後一時三十分一名、次いで四時迄に七名の死體を發見した、遭難者氏名左の如し
△東北帝大醫學部四年松本篤△同二年石井五郎△同一年伊藤直清△二高理科二年青山勉△同文科二年鐵川忠男△同加賀山後雄△同高橋眞治△同理科三年持田達也△同一年佐藤眞逸△同石井鐵造

二百万圓の重荷を負うて
密輸の首魁河田氏歸る

日滿兩地を結ぶ金塊と寶石の大密輸を敢行し、その罰金と追徵金百九十三萬圓に上るといはれる密輸團の首魁として一件書類を神戸地方檢事局に送られてゐた大連市三濱洋行河田清二（　）同水明莊近藤三藏（　）の兩氏は身柄不拘束のため三十一日入港うらる丸で約四ケ月振りに大連に歸つて來た、上陸に際して同氏は語る
今は何も話す自由を持つてゐませんが、密輸事件から、大連市民の名譽を汚したことは衷心申譯ないと思つてゐます、今回引つかゝつた密輸は三年程前のもので、その後ずつと止めてゐたのです、大體金塊十二貫、寶石六萬圓程度で、この罰金追徵金約二百萬圓といふやうな莫大なものは到底一生かゝつても拂へません、然し分納が出來ることになつてゐます、西川君が取調べを受けたに就いてこの事件に關係があるかどうかは私の口からはつきりした事はいへません

淨めの雪に……
理想的なお正月 寒氣は相當烈しい

殖民中は滿洲に邦人が來て以來の暖かさで、大連などは氷も張らずこのまゝ正月に入るのではないかと疑はれたが、流石に三十日の夜半から北風が吹くと共に氣溫がぐつと下り、大晦日の朝は

全滿 各地は次のごとく一郷に嚴寒となつた [illegible]

[illegible] 濱零下二十五度

かゝる氣候の激變は北滿に久しぶりに七百七十八粍といふ高氣壓が發生し、これに對し東支那海に七百五十六粍の低氣壓が起り、北東に向つて進行し出したためで、從つて北支那、遼東半島から朝鮮にかけて雪となり、大連でも正午近くまで淨めの雪が降いて大晦日に [illegible]

奉天以北は高氣壓の圏內に入つて快晴で、南方の低氣壓も日本海から北海道方面に進路を取つてゐるから、正月

三日 間くらゐは天氣が續かう、たゞ寒氣は相當嚴しい豫想だが、[illegible]

淨めの雪に莊嚴の極【きのふ大連神社にて】

旅順の初春興行

新春の旅順興行は依然映畫陣を以て臨まれ市民待望の〃立物〃には全く接する事が出來ない
▲映畫館 元日より二日間日活オールトーキー「花嫁寢臺列車」大河傳次郎映畫「水戶黃門」三日より「海底の暴君」日本語トーキー新興現代劇「熱風」其他
▲昭和園 新春と共にパール・サウンドシラステム機トーキーを常備し煖房の完備とお茶子制を廢し元日よりオールサウンド栗島すみ子、藤井貢共演の「夢のさゝやき」右太衛門、白石明子主演の「護送り仁義」を續映

東北凶作義捐金

▲八十五圓三十六錢新京室町小學校自治會▲二十圓住友大連クラブ▲計百五圓三十六錢

けふのメモ（元日）

▼元日祭 午前八時より大連神社沙河口神社に於いて執行
▼新年祝賀式 午前十一時半より大連神社にて
▼市役所祝賀會 午前十時半より市會議場にて
▼民政署拜賀式 午前十時より擧行
▼本社年賀式 午前十時半より三階講堂にて
▼各學校拜賀式 午前十時より
▼旅順開城三十周年記念祝賀式 午前十一時半より昭和園にて
▼旅順要港部拜賀式 午前八時司令部にて
▼關東州廳拜賀式 午前十時會議室にて

天氣豫報

北西の風 後晴れ 曇

各地溫度（三十一日午前十一時）
大連零五　奉天零九　旅順同三　新京同十三

ラヂオ
全滿各局三ケ日の綜合プロ

一日

◆午前の部◆
六・三〇（東京）「明治天皇御製謹話」樞密顧問官子爵石井菊次郎
七・〇一 春の鳥（札幌、仙臺、東京、名古屋、大阪、廣島、熊本）
八・三〇（全滿中繼）奉祝歌一、君が代（大連羽衣高女生）二、滿洲國歌（大同女子技藝校生徒）三、年の初（大連羽衣高女生）指揮伴奏村岡樂童「年頭の辭」電々總裁山內靜夫、滿語通譯內藤亥三郎
九・二〇（東京）謠曲（一）梅（二）勅題「池邊鶴」觀世左近
一一・五〇（東京）雅樂平調音取一、嘉辰（朗詠）二、鷄德（唐樂）三、延喜樂（高麗樂）宮內省雅樂部
◆午後の部◆
〇・二〇 長唄「操三番叟」田中秀石他四名
〇・五〇（東京）管絃樂一、序曲「獻堂式」二、交響曲八長調ジユピター（日本放送交響樂團）指揮近衞秀麿
一・三〇 箏と管絃樂（大阪桃谷演奏所より中繼）一、鶴の聲二、春の曲（大阪放送交響樂團、指揮宮原禎次）
五・〇〇（東京）子供の時間、童話劇三部曲「輝く日本」第一部「建國日本」作並演出東京童話劇協會、解說指揮秋山龍司
五・二五（東京）講演「年頭所感」內閣總理大臣岡田啓介
六・三〇（東京）詩吟一、富士山二、乙亥新年三、恭賦勅題池邊鶴四、富士山（大麻博之）
六・四五（東京）長唄「連獅子」芳村伊十郎外
七・一五（東京）常磐津「子寶三番叟」常磐津松尾太夫外
七・四〇（東京）舞踊劇「伽羅先代萩」（足利家御殿の場）中村歌右衛門外

二日

◆午前の部◆
六・三〇（東京）「明治天皇御製謹話」海軍大將有馬良橘
七・〇一 千羽鶴實況（鹿兒島縣出水郡米ノ津町荒崎鶴見亭より中繼）
八・三〇（東京）子供の時間お話「日本國民として何が大切か」陸軍大將荒木貞夫
九・三〇（新京より全日滿）年頭の辭關東軍司令官南次郎
一〇・〇〇 謠曲「鶴龜」觀世流 [illegible]「草紙洗」寶生流 [illegible]
一〇・四五 清元「四季三葉草」[illegible]
一一・五〇（大阪）掛合義太夫「七福神寶入船乘合藝廻の段」豐竹古助外
◆午後の部◆
〇・三〇 獅子舞の地方色（仙臺）陸前獅子舞（東京）多摩川等々力の獅子舞（名古屋）嫁獅子勢州阿濃浦平治住家の段（大阪）播磨甘地の獅子舞（廣島）宇和島の八鹿踊（福岡）筑前香椎宮獅子舞
一・二〇（東京）彈初め一、長唄「新曲可祝の柳」二、ピアノ獨奏「ヘンデルの主題による變奏曲と遁走曲」三、清元「名寄壽」四、ハープ・ソロと二重奏
二・四〇（東京）尺八と箏の合奏「松竹梅」名和榮次郎外
五・〇〇（東京）童話劇三部曲「輝く日本」第二部「聖國日本」作並に演出東京童話劇協會
六・三〇 笑の夕（東京）落語「二番煎じ」三遊亭圓生（大阪）二人漫談「僕の家庭」エンタツ、エノスケ（東京）新作漫談「ジヤズ小唄漫談」榎本健一外（同）落語「噺の猪」柳家三語樓（大阪）漫才「芽出度く目が出る」林田五郎、柳家雪江

三日

◆午前の部◆
六・三〇（東京）「明治天皇御製謹話」陸軍大將男爵奈良武次
八・三〇（東京）子供の時間「池邊鶴」大阪童話劇協會
九・〇五 特殊講座（二元放送）俳句の初旅「神詣」（關東）高濱虛子、高安風生（關西）松瀨青々、塚本虛明
一一・五〇（東京）小謠「御謠初儀式實況—上野東照宮より中繼」一、四海波 二、老松 三、東北 四、高砂 五、弓矢立會、觀世左近外
◆午後の部◆
〇・〇〇（東京）管絃樂（日本放送交響樂團、指揮尾原勝吉）
一・三〇（東京）尺八「乘獅子」荒木古童外
一・五〇（東京）俚謠と端唄一、ぴよ／＼節二、おけさ三、立山節四、切島田（勝太郎）
二・〇〇 琵琶「旅順口國の御柱」萩原秋彥
五・〇〇 子供の時間童話劇「輝く日本」（三）東京童話劇協會
六・三〇（東京）「清元女婦酒替ぬ中仲」（鞍馬獅子）清元喜久太夫外
七・〇〇（東京）歌謠物語「女の友情」岡田嘉子
七・五〇（東京）浪花節「牧野出[illegible]」

號外發行 [illegible]

由比正雪 (134)

悟道軒圓玉演
武田一路畫

家光公薨去

漸くに追捕を遁れて牛込の邸宅へ戻つた由比正雪は、戸村丹三郎金井半兵衛の兩人に對ひ、

「伊豆守を刺止めたか」

と問ふた。すると丹三郎が、

「殘念ながら爲損じたやうに思はれます」

「さやうか、コレ金井、其方は何う思ふ、銃を發したが刺止めたか」

「何等の手應へも無きところより察するに、甚だ遺憾ながら爲損じました」

「さても殘念。それにしても伊豆守は好運であるナ、斯道に達せし其方共が打洩せしは、未だ伊豆守の命數の盡きざる事と思ふ」

と申して歎息した。

併し此の上は伊豆守の下城致すを待つて鐵砲にて刺止めんと其隙を窺つたが、好い機會を見出す事が出來なんだ。

すると慶安四年七月二十日徳川三代の將軍家光公薨去、年四十八英雄ではありましたが五十に成らずして世を去つたは洵においたはしき事。尤もこの方は幼年の頃から多病でした。

將軍薨去に就いて歌舞音曲は停止、市中は憂ひに閉ぢられてさながら水を打つたやうに靜寂です。

四代將軍家綱公は此時十一歲、それですから此後は何うなるかと譜代の家臣は大いに心を苦めた。

此の虚に乘じて正雪は大事を擧げんと決心して茲に協議を重ね、將軍薨去の翌二十一日に僅少の供を伴れて江戸を出立して駿府に行き、彼の地にて江戸から參る兵を待受けて久能山へ籠ることにした。江戸の大將は丸橋忠彌、その參謀は柴田三郎兵衛、江戸の市中諸方に火を放ち此の混雜に紛れて葵の紋の付いた高張の提灯を高く揭げ紀伊大納言殿御登城と揚言して城に入り家綱公を擒虜として駿府に連れ行く事にいたしてある。恐ろしい事を考へたものです。サテ是が脚本通りに滅つた日には大變ところが意外に早く此大事が發覺した。

それは二十二日の夜の事、牛込の正雪の屋敷に集會した將校七八名、反旗を擧げるに就て再び協議を致し、萬に一つも手落の無きやうと用心の上にも用心をした。

此事終つて後に酒宴を開く事になつたが、時に忠彌がそれに居る奧村八郎右衛門に對ひ、

「奥村、いよ／＼我々の志望を達する時節が到達した。就ては明日にも戰ひを開けば茲當分好める圍碁を樂しむ事もなるまい。何うだ一局參るか」

と言はれて奧村も好める道とて

「敎へてやるかな」

「失禮な事を申すな。敎へてやるとは此方より申すことだ、さア參れ」

次の室より盤を取寄せた忠彌は

「さア出ろ」

「何だと、もう一度申せ」

「先手に出ろ」

これを聞くと奧村はアハヽヽと打笑ひ、

「ナニ、先手に出ろと、先手に出ろと申す以上は黑石をおれが取るのか」

「さやう、何時も貴公は拙者に負けるではないか、然らば黑を取つて先手に出ろ」

「よし。その高慢の鼻をヘシ折つてくれる、參れ」

と、これから烏鷺の戰ひを開いたが、奧村の石が大分優勢で丸橋の石が亂れて來た。それを見て忠彌が、

「これは意外な事をしたナ、小敵と見て侮るなとはこれだ。聊か油斷いたせし爲めに大事の一角を破られたか、コレ奥村、此の一目を待て」

「卑怯なことを申すな」

「イヤさうでもあらうが是は拙者の過失だ。これだけ待て」

「イヤならぬ。こゝを待てば、貴公には利益があらうが、おれには大の不利益だ。こゝ生死の境。それを待てとは怪しからぬ」

「そんな事を申すな、コレ奥村、貴樣はおれの部下ではないか。さすれば大將の命令には從はずば成るまい。今にも砲火を擧げる時は拙者の指揮に出つて貴樣は奔走いたさねばなるまい」

「默ンなさい」

と双方の語が荒くなつた。

モダン小咄
お父さんのお正月

子供「お父さんお屠蘇つて何に」

父親「お屠蘇つてお酒の一種でお正月にのむものだよ」

子供「ぢやお父さんはいつもお正月なのね」

父親「どうして」

子供「だつていつもお母さんに、お屠蘇のつもりだつていつてるんですもの」

賀正

安東

安東省公署
省長 王棟
總務廳長 別宮秀夫
民政廳長 爾桂恒
警務廳長 連修
實業廳長 范垂紳
敎育廳長 孫文敷

鴨綠江採木公司
理事長 八木元八

滿洲電業公司安東支店

安東銀行集會所

滿鮮杭木株式會社

株式會社 安東取引所

平北道會議院 副議長 多田榮吉
多田商會
鴨綠江輪船公司
國境每日新聞

滿洲鑛山藥株式會社

大安汽船公司

鴨綠江製材無限公司

安東挽材株式會社

安東競馬俱樂部

三省精米所

安東地方事務所 所長 島一郎

安東税關 税關長 中村元

安東縣公署

安信無盡合資會社

安東輸入組合

大連汽船株式會社 安東縣出張所

滿洲土木建築協會 安東支部

安東窯業株式會社

鴨綠江製紙株式會社

國際運輸株式會社安東支店

安東寬甸バス 滿洲遞信汽車公司

日陞公司

安東炭友會

安東ホテル

文房具新聞舖 文榮堂

重枝洋行

安東山下町三 關憲治

安東電報電話局 局長 橋詰勉

安東郵便局長 金井量三

安東商工會議所會頭 瀨之口藤太郎

緝私局 局長 今村精男

北田榮太郎

木村和男

山縣寅吉

近藤松五郎

西□洋行 志摩義雄

福田商店 福田菊次郎

製藥檳濱堂 椙直次

藤平兄弟商會 藤平泰一

菊屋洋品店

和洋菓子 大山堂本店

安東寫眞場

御料理 由良之助

料理店組合

御料理 東[illegible]

滿洲日報
附錄 其一

仰ぐも畏し竹の園生の御榮え
皇太子殿下を御中心に御和樂

光輝と希望に滿ちた昭和第十年の春は、限りなき瑞祥の中に明けた。長くもすくすくとのびさせ給ふ日嗣の皇子繼宮明仁親王殿下を御中心に、宮中の御和樂は彌が上にもめでたく、天皇陛下には御三十五歳、皇后陛下には御三十三歳、皇太后陛下には御五十二歳を算へさせられ、皇太子殿下には早くも御三歳の新春を迎へさせられた。

聖上陛下

天皇陛下には天機愈々御麗しく玉體益々御健かに渉らせ給ひ、內外の時局愈々複雜多端の折柄、陛下の御日常は萬機の御親裁に御繁忙を極めさせられ、殊に緊急重大なる國務に關しては未明深更を厭はせられず岡田總理大臣以下國務大臣又は閑院參謀總長宮、伏見軍令部總長宮兩殿下に賜謁上奏を御聽取、一々聖斷を下し給ふと承はる。

☆

かく御多端に渉らせ給ふ中にも常に政治、經濟、外交、教育、軍事、社會問題等各般の事情に御留意、夫々專門家を召されて進講を御聽取遊ばされ、御考究御修養に努めさせらるゝことは拜するだに畏き極みである。殊に新聞紙は隈なく御目を注がせられ朝鮮、臺灣、滿洲の新聞なども天覽遊ばされる趣にて、その間運動にも努めさせられるが、御乘馬、ゴルフを隔日に遊ばされ、御政務御多端の爲め其の御暇さへなきこと屢々なくと承はる。又國際親善に關しては特に大御心を注がせられ、昨年六月には滿洲國帝制實施御慶祝の爲め特に秩父宮殿下を御名代として御差遣あらせられたが、來る四月には滿洲國皇帝の御答訪を受けさせられる趣で、日滿親善の礎は此處に愈々固く永遠に定めさせられるわけである。

皇后陛下

皇后陛下には、天皇陛下の御身の廻りの御世話は努めて御自身で遊ばされると承はるが、皇太子殿下御始め內親王樣方の御養育には御慈愛深き中にも種々御注意に御心を注がせ給ひ、皇太子殿下に御授乳の時刻には深夜でなき限り大部分親しく御授乳遊ばされ、御散歩等の折には御みづから御抱き遊ばされて花壇や御內庭を御散策、優しく御あやし遊ばさるゝと承はる。民草、殊に困窮者に對しては御憐み深く渉らせられ、各種慈善事業には御獎勵の思召にて御內帑金を賜はることも屢々の御事である。昨秋の赤十字國際會議に際しては皇太后陛下と御共に世界人類福祉のために、平時救護事業獎勵の御思召に依り、昭憲皇太后陛下の御事業を偲ばせられ、曩に明治四十五年に賜つた昭憲皇太后基金に、更に金十萬圓を御下賜あらせられ、わが皇室の御仁慈を遍く世界に及ぼさせ給ひ、赤十字國際會議列席の各國代表一同の恐懼感激せるところである。

皇太后陛下

皇太后陛下が御敬神の念深く渉らせ給ふは申すも畏き極みであるが、御日常に於かせられては彌が上にも神徳の道にいそしませ給ひ、又御慣例の外御健かに渉らせられて、御政務御多端に渉らせ給ふ天皇陛下の玉體を御氣遣ひ遊ばされ、時折は宮城に御參內、殊に地方行幸の前後には必ず御參內御物りあらせられ、又照宮、孝宮、順宮三內親王樣が御成の節は何かと御もてなしに御心盡ひあらせられ、況して皇太子殿下御誕生あらせられてよりは、殊の外の御滿悅にて、御參內の折には皇太子殿下を御中心に三陛下御揃ひにて種々御團欒遊ばさるゝが、時折は女官を宮城に御差遣、御成育の御樣子を伺はしめらるゝと承はる。

皇太子殿下

天皇皇后兩陛下御慈愛のもとにすくすくと御成育遊ばされる日嗣の皇子繼宮明仁親王殿下には、彌々御健かに渉らせられ、彌が上にも御氣高く、御可愛らしさも御一入の御樣子にて、昨年八月には御體重七貫八二五、御身長六六糎五の御見事な御成長で丸々と肥らせられると承はる、御智慧づきも御早く、玩具等に對しては御興味も益々御增進遊ばされ、可愛らしい御口もとに浮ばせられる御表情や御言葉等の中には、常に御聰明さが拜される由にて兩陛下の御滿悅の程如何ばかりかと拜察申上げる次第である。

三內親王殿下

照宮樣には御十一歳、孝宮樣には御七歳、順宮樣には御五歳の春を迎へさせられた、三內親王殿下には極めて御機嫌麗しく、照宮樣には女子學習院前期三年に御在學遊ばされ、學業に御精勵、毎朝のラヂオ體操はかゝさせられず、昨秋埼玉縣稻荷山公園に御遠足の折には附近の農家に御立ち寄りになり、農村生活の實況を御見學遊ばされるなど御學業の傍ら色々御見聞を擴めさせられて、孝宮樣には昨年九月から吳竹寮において、毎週火金兩日午前九時半から女子學習院幼稚園々兒と共に、宇佐美教授の授業を受けさせられ幼稚園の課程を御修學遊ばされ、順宮樣には、照宮樣、孝宮樣の御相手で御唱歌や御遊戲なども遊ばされ愈々御可愛らしく御成育遊ばされる。

御直宮殿下

皇弟にあらせられる秩父宮殿下には御三十四歳、妃殿下には御二十七歳、高松宮殿下には御三十一歳、妃殿下には御二十五歳、又澄宮殿下には御二十一歳の新年を迎へさせられ、皇室の御繁榮彌々御めでたく渉らせられる。

天皇・皇后兩陛下並に皇太子殿下の御尊影

新春の辭

嚮ふ所、正義の大道

關東軍司令官 陸軍大將 南次郎

所謂三五、六年の非常時初春を迎へて更に士氣の緊張を覺ゆ。しかも昭和聖代の鴻業は、年の改まると共に榮光いや益々上に加はり、光輝燦として四方に洽からんとす。

今更申す迄もないが、上には仁慈の皇室が在はしまし、下には忠良の國民がある。而して擧國一體向ふ所は正義の大道である。進むに何の逡巡がいらう、行ふに何の躊躇がいらう。上下一致、文武同步、高らかに皇道宣布の大旆を翳して、此歳も亦須らく躍進すべきである。

惟みれば、畏れ多くも大命を拜して國外の重任に就いて未だ旬日を出でずと雖も、首都新京に在つて茲に新春を迎ふるに際り、建設途上の滿洲國が日に月に其の基礎を鞏固にしつゝある實相を目擊し、洵に欣快に堪へざるものがある。

由來、建國の大業は艱難を伴ふは內外等しく認むる所、然るに滿洲國興隆の跡を顧るに、建國を宣して今尙三歳に滿たず、帝制確立して未だ一歳ならざるに、邦國の基礎已に嚴として定まる。翻つて滿洲事變勃發の當年を偲び之を新春具に視る所と較ぶれば、滿蒙各般の態樣面目を改めて其の差萬里、何人と雖も、此短日月に於ける滿洲國の進展發達に驚異の目を睜らざるを得まい。是れ畢竟日滿兩國民が東洋の平和と人類の福祉とを招來せんと克く提攜協和の實を擧げ、進んで人力の限りを盡したるに因る。併し乍ら、遙に國際事情に想到すれば、日滿兩國の進路には尙幾多の難關の存するものを覺悟せねばならぬが、帝國の對滿政策は確乎不拔、如何なる事態に遭遇するも終始一貫秋毫の變革もなし、宜しく前轍を排し斷々乎として邁進し、飽く迄日滿議定書の精神を體し兩國國防の強化を圖りて治安の確保に努め、民衆相和し相信じ、產業の振興を致して經濟提攜の實を擧げ、以て新興滿洲國一段の發展と兩國依存の實現とに全力を傾注すべきである。昭和十年、康德二年の春は、莞爾として眼前に展開し來つた。吾等は唯當に勇往邁進を續くべきである。

日滿今後の進路

關東軍參謀長 西尾壽造

茲に皇紀二千五百九十五年の新春を迎ふるに當り、聊か所懷を述べて年頭の辭と致します。

顧みるに、滿洲國は其の建國以來、日滿兩國軍警の活動により、今や殆ど治安の確保を見るに到りましたのみならず、國步の進展も年一年と活潑となりました、殊に昨年は、三月、三千萬國民歡喜の裡に未來永劫を貫く帝業が創始せられ、六月には、秩父御名代宮殿下を首都新京に迎へ奉り、盟邦和親の誠を一入具現化致したのであります。日滿兩國の國交は益々親密を加へたのであります。降つて十二月には、地方制度の改正がありまして、中央集權の實大いに揚り、治安の維持、交通の整備、產業の開拓等に、大なる便益を得ることとなり、滿蒙の建設は一大躍進を見るに到つたのであります。

此の進展の狀況を、眼のあたり見るにつけ、私は滿蒙の人柱となつた人々に對し、崇敬と感謝の念を禁ずる能はざるものがありましたが、昨年十一月新京忠靈塔の建設を了し、勝國の神と化した、忠魂を祀りましたことは、せめても

祖國の前衞として
滿洲國の產業開發に獻身せん

滿鐵總裁 伯爵 林博太郎

坤輿一轉して萬象今や新に茲に昭和第十年の新春を迎ふるに當り、遙かに東天を拜して聖壽の萬歲を壽ぎ奉ると共に友邦滿洲國の皇運無窮を祈念し奉れば日滿兩國國運の目覺しき發展を想望し衷心御同慶に堪へぬ次第であります。

我が滿鐵が祖國日本の前衞として特に又滿洲國產業建設の樞軸たる重責を擔つて茲に新春を迎ふるに至りましたことは本職の最も光榮とするところであります。

今歲首に當り過去一年間の社業を回顧しまするに幾多尊き犧牲を拂ひつゝも四萬社員は渾然一體となつて本會社の重大なる使命の實現に日夜努力し兩國國民の絕大なる支援の下に天下の公器として恥ぢざる努力の跡を遺し得ましたに

の賜であります

かくて、日滿兩國は、東洋平和の確保の爲に、堅實なる步みを續けて來たのでありますが、茲に年更まると共に、所謂三十五、六年の國際危局に當面したわけでありまして、四圍の狀勢を一瞥いたしますと、日滿兩帝國今後の進路は、決して坦々たる大道とは申し難いのみならず、幾多の障碍を越え荊棘を排して進まなければならないのでありますから、日滿兩國民は祝福の春の裡にも、緊褌一番、意氣をこめて、更に一段の努力を拂ふ覺悟をせねばならぬと信じます

いては將來一層の勇躍邁進を期せずには居られないのであります。

顧へつて方今宇內の形勢を觀まするに、日滿兩國を繞つて極東乃至世界の政治經濟界の動向は著るしく其の均勢を破壞せられ、明日の平和は何人も保障し得ない甚だ憂ふべき狀態に在るのであります。萬邦注視の裡に帝制を實施しました盟邦滿洲國がわが帝國の理解的協力に據り國勢の發揚日に著るしきを示しつゝあることは內外の均しく認むる所でありますが尙ほ產業建設に至つては我社に負ふこと頗る大いなるものあるべく今後に於ける我社の責務は更に重且大を加ふるに至る次第でありまして、私共は更に一層の奮勵と努力とを致さねばならぬと思ふのであります。

わが滿鐵は創業以來全社員が公私一如一致團結して滿蒙開發の洪業に參與せる光輝ある歷史を有して居ります、私共は此の榮譽ある歷史に鑑みて今年におきましても眞に祖國の前衞として滿洲產業建設の主動力として獻身せねばならぬのであります。

年改るに當り陛下の御稜威の下に四萬社員は一心同體となつて粉骨碎身此の重大時局を突破して天下の負託に副はんことを期する次第であります。

去華就實

昭和乙亥元旦

湯ケ島新春

水原秋櫻子

初御空天城の嶺に雪を見す
湯けむりのこだまに天城峙てり
初風呂や槇の讚めひろがへり
鶯啼かむあかるき山邊に
かるたとる瀨のこゑに

王道樂土の迎春

瑞雲たなびく紫禁宮

三日にわたる新歳典禮

◇帝政の新春慶びに明けて、滿蒙の天地は聖天子仁慈の光洽く、三千萬蒼生は均しく聖澤に浴して王道樂土の聖代を壽ぎまつり、地平線上に射し昇る眞紅の太陽も歡喜と平和に充ち滿ちた黎明を迎へる此の佳き日、仰ぎ見る紫禁宮上瑞雲たなびき、皇帝、皇后兩陛下には御共に寶算御三十歳の新歳をいさ御健祥に迎へさせられた。

◇建國の大業成りて四星霜、帝政布かれて茲に二歳、皇帝陛下には晝夜を分たせ給はず順天安民の大旨により五族協和の力強い建國理想の具現に御精勵遊ばされると拜承するだに畏多い極みである。

◇けふしも皇帝陛下には早旦御潔齋あり國運の隆昌萬民の安居樂業を御祈念遊ばされ、午前十時御正裝にて勤民樓式場に出御遊ばされ、在京文官簡任以上、武官少將以上の朝賀を受けさせられる次第で、明けて二日は正午より文官簡任以上、武官少將以上に賜宴の御儀あり、三日は午前十時より文官薦任一等より四等まで、同十一時より武官上校より上尉までの朝賀を受けさせられ、賜酒の御儀を行はせらる。

◇かくて目出度く三日に亘る新歳典禮を終へさせられる御模樣である、この間なほ政務、軍務を御親裁遊ばされ、王道のひらくところ、五色旗のひらめくところ、三千萬蒼生の多幸を念願遊ばされる大御心は拜し奉るだに畏れ多い極みである。(寫眞は興運門)

順天應人の聖業

國務院總務廳長 遠藤柳作

毎年大晦日の夜私は眞山氏の詩の一句「一年也是等閒過百歳只消如此看」を念頭に思ひ浮べ感慨轉た憮然たるものが有つたが、特り昨年の除夜のみはまだ午夜の鐘も聞かぬうちから同じく眞山氏の詠んだ「陽和忽轉氷霜後元日還如天地初」とある歡喜の情が胸一杯に湧き起つたのである。

即ち去年三月一日には 聖上陛下が天の明命を南郊に奉若し給ひて登極の大典を四海歡呼の中に擧げさせられ、萬世動きなき國基を世界列强の間に奠め給ひたることは、書經微書に謂ふところの「天我が有徳に私するに非ず。惟天一徳を佑く。徳下民に求むるに非ず惟民一徳に歸す」と其軌を一にするもので、今更に順天應人の聖業を頌し奉るも畏多く、然も全國の津々浦々より奉祝の賀表未だ禁門に達し切らぬうち早くも六月には御名代宮秩父宮殿下の御臨席を忝うし、獨り日滿兩國永久渝らざるの盛徳を感戴せしのみならず、平和の祥瑞が東亞の大空より全世界に照耀する餘光を拜して感激の極只涙あるのみであつた。身乏しき總務廳長の職に承け、一片の丹衷を天日に捧げ、同寅各位の協力を辱うし此の曠古の大典盛儀に駑駘の任を盡す事を得たるは、生涯の光榮として「一年也是等閒過」きざりしことを深く肺肝に銘して居る。

十二月一日から實施した新省制度は、年來研究の成案を實行したもので、その實績如何は問はずして明かであるが、古來「民は其始を圖るべからず、其終を樂しむ」といふのが爲政者の心得になつて居るから、更始一新の事業には民をして其終りを樂しましむ可く、其始めに大努力を要する事は勿論である。幸ひに兩國の濟々たる多士一致團結して新なる春王の二年の希望に踴躍邁進しつゝあれば、私も不肖を鞭撻し畢生の心血を傾注して皇化の萬一を裨補すべく天地の神明に誓ひまつつた次第である。

興民更始
康德二年元月 孝胥

萬物生光輝
乙亥王春 柳作

康莊大道に進み既に庶く且富む

實業部大臣 張燕卿

我滿洲は建國以來最早三年になるが、この間に内閣の總ての政治施設並に各部主管業務の措置は如何に偉大なる成績を擧げたかは敢て說明を用ひない、要するに艱難險阻の中より康莊大道に進み、健やかに繁盛に趨き此の途に循つて往けば論語に所謂「既に庶く且富む」と謂ふ國家に必ずや到達することゝ思ふ。先づ

實業部に 就ていへば鑛業法の制定は着々進行し各地鑛業監督署も既に成立を看、農林方面に於ては農村救濟、種籽改良等の如き皆確實なる方法を以て處理しつゝあり、又農林技術員養成所を設置して人材を養成し更に龍江、克山等偏僻の地方には農事試驗場を設け各省區には森林事務所を分設し、漁業局の改組、牧畜場の籌辦等諸事業の發展指導の能力を發揮して居る、又臨時產業調査局の如きは全國の富源開發の先驅であり度量局や商標局は各國の瞻望の標的となつてゐる。一方之に加ふるに工商方面に於ては諸企業を提唱し電業の統一、糧石交易所の整頓等順次實現せられ更に自動車、採金、炭礦、棉花、石油、計器各株式會社の協助經營を看るに至つたこの豫定方針に基き各方面皆勉勵し日一日と

富源開發 資產の增殖を招來する樣職員一致協力して年と俱に進みたいことは私の最も期待する所である。又私の最も感ずるものは日本が明治維新以後數十載を出でざるに民智の向上、科學の完備、工商各業の發達一日千里の勢ひで歐米各國に比べて所謂靑は藍より出づるの觀があることである私は過般東京、大阪其の他大都會に再遊し朝野の名士に接し、その名論卓說を敬聽して裨益する所甚大なるものがあつた、殊に各學校工場等を縱覽しまして十餘年前の留學當時に比べると驚異すべき進步と廣大無限な企圖の存するを認めて實に驚佩した次第である。今や我滿洲は建國後僅かに三年に足らざるも幸ひに友邦の協助と輔導に浴して今日の盛觀を呈した、今後共擧國同心舊套を脫して大勢に順應して行けば漸々隆盛に赴くことであらう。「萬里を行く者は跬步に始まり歳差を積む者は

寸躍に始 る」といふ何事も一步一步が肝要である、而して進まざれば則ち退くの機其間髪を容れぬのである、歳月の過ぎ易きを思ひ吾等官員一同相共に職事を勵むべきは勿論又我全滿洲國民も冀くは共に此協力合作の精神に基き徒らに安逸を貪らず遊惰を戒め奮勵努力以て野に曠土なく、邑に游民なきの境涯に達し豐亨の福利を享けんことを祈るもので所謂「日計足らず月計餘りあり」の通り國民一致協力事に當らんことを望むものである。

天清く地寧

沈瑞麟

皇上御登極の元年、王道の治績を成熙し、人民の康樂甫めて一年に及べり、此の一年中皇上日に萬幾多の業務を勤め、未だ一日の安きに遑あらず、十月間爰に師旅を整し、親臨して容風凜冽中に操演す、精神煥發、校閲懈怠の事なし、後奉天吉林方面に巡狩し、政を觀み耆賢に存問し、陵廟に展謁し、名山を望秩す、民嵩呼を環誦し萬衆歡悅す、是れ皆史册に紀し無窮に昭示すべし、今民氣洽す所、天淸く地寧なり、反側の子既に已に自ら安んじ、伏莽之戒、漸次安靖なり、民庶の生產、日に增し國家の建設漸次盛んなり、內政を云ふに省制を改革し、區域を稍や狹め、則ち養を以て敎を以ての政を施し易くせしめたり、機構更に靈に、臂を使ひ指を使ふの效尤も捷なり國際問題を云ふに、新聞記者の訪問、視察團體の參觀、絡繹として途に絕えず、瞭ち世界に我國の眞相、當に已に明瞭に認識さる、今歳を改めたりと謂も、國運の日に蕃昌に、國基の愈々鞏固なることは均しく歲律に於て新中を更むるに難からず、坐して卜し知る可きなり、今年皇上の三回萬壽の期となす、一人の慶する有れば、兆民之に賴る、竊に願ふ、國人の爲めに豫め頌すべし

遺型舊制消滅

謝介石

歲 星始めに復し再び新年來る、客歲を回想するに、帝政實施より以後、民心日に安定を見、國基益々鞏固たり、南米サルバドル共和國は、日本帝國に繼ぎて我國を承認し、ローマ法王亦特に滿洲布道區を獨立して中華民國と分離す、外交方面の重要事件たる北滿鐵道買收交涉は相互折衝紆餘曲折を重ね幾度か決裂に瀕し、善隣日本の斡旋の力を藉り談判を繼續し日に接近に趨けり、其他米國記者視察團、英國產業調査團等相繼いで來り實地に新國家の眞相を視察す、ドイツは即ち經濟代表を派して貿易の開始を提議し、佛國は即ち滿鐵と合資して、物產を經營せんとす、此れ皆過去一年間における我國の好現象なり。

其尤も歷史上の重要の一頁を占むるは地方制度の改革となす、我滿洲國建國以來、一切の法制は殆ご尙舊政權時代の舊規に據れり、新國家の施設に對しては殊に適せざるなり、而して亦新國家の立國精神にも反するなり

茲 に於て政府は地方制度調査委員會を設立し、愼重に考察を經て、客年十二月一日地方制度の改革を實行し、以て施政に利す、原在の四省を以て地理の形勢及歷史の沿革に依り分ちて十省となす中央既に統轄し易く、地方亦政治に便なり、以前の舊政權時代に遺留せし凡ての遺型舊制は、これより永遠に消滅しその秕政弊端亦これにより掃除し盡したり、人民の耳目を一新し、國家の氣象大いに振ひ、これより以後、王道大いに行はれ樂土實現せば此れ即ち將來の最も慶賀すべき事なり、然れ共一九三五年は國際問題最も困難を感ずる時期なり、吾人世變を盱衡するとき責任彌艱なり、此元旦に際し益々自ら勉むべきなり。

希望の新春

齊默特色木丕勒

滿洲建國の聖業成りて茲に四年年改まりて康德二年の新春を迎ふ今思を既往三年に致すとき新年に對する吾人の希望亦正に極めて大なり、我蒙政部は舊臘年來の衆望に由り興安總署を改め名實共に全蒙民統治機關たるの陣容を整へ得たるの時希望に充てる新春を迎へ感慨特に深し將來一意其使命に邁進し愈々國礎の鞏固國運の隆昌に副はんことを期し以て迎春の辭とす

元旦題詞

臧式毅

滿洲國を建て茲に四載、帝政を實施し、永く邦基を固む、省制を改革し時に因り宜きを制す、端を履み慶を摹め朝野熙熙、郅治に臻るを期し惟れ日に孜々、以て萬歲に綿る之を頌し之を祝す。

亥年生れの滿洲國の名士

許汝棻氏

文教部次長

訪滿の某貴族院議員が許氏の印象を「進士華やかなりし頃の淸朝の大官を髣髴させる」と語つたことがあるが、しかし許氏の態度は古典的である、一度次長室を覗いた者は堆く積まれた書類を丁寧に見てゐる簡素な老人の姿をそこに見出す、溢れる靜寂な空氣に觸れ直に許次長の存在がいきり立つ青年官吏の多い滿洲國の中に異色ある存在であることを發見する、鄭國務總理が大臣を兼務する文教部に於ては許次長が事實上の首腦者だが、同氏の一日は滿人の大人に有勝な尊大ぶつた生活と異り表も裏もない典型的官吏の生活であつて、文教部の空氣は常に清新で、鄭總理が滿洲國に最も大切な第二國民の育成を同氏の人格を見込んで託してゐるのも宜なる哉と云へやう。

同氏は本年七十三歲、同治二年十二月江蘇省丹徒縣に生れ、若くして進士の試驗に及第し、淸朝に仕へること十年、天津湖北造幣廠會辦、福建財政管理官を最後に淸朝に殉じたが以來淸節を守つて宦途に就かず滿洲建國の氣運濃るや鄭氏に從つて渡滿し建國運動の裏面に在つて誠心以て事を處理しその功勞顯著なるものがあつた。大同元年七月文教部次長(簡任一等)に任ぜられ今日に及んでゐる。

三谷清氏

奉天省警務廳長

三谷氏は亥年生れではあるが決して猪武者ではない、その證據に滿洲事變勃發當時の奉天憲兵隊長として氏の採つた措置は細心大膽を極めたもので、今尙ほ在留邦人の繰返して感謝するところとなつてゐる、又同氏は建國運動を側面から援助し、東奔西走、眞に建國の功勞者といふべく、今日の榮職に在るは偶然ではない。

氏の略歷は明治四十二年陸軍士官學校卒業、少尉に任ぜられ大尉時代憲兵に轉科し、姫路、赤坂、橫濱、名古屋各地憲兵分隊長を經て昭和二年奉天憲兵隊長たり、事變後囑望されて現役を退き滿洲國入りをなしたものであるが、新興國警察制度確立に當り氏の手腕に俟つ所多しとされてゐる。

于琛澂氏

第四軍管區司令官

昨秋から暮へかけての吉林省東北區の大討伐に第二軍と協力、部下軍隊を活躍させた于琛澂上將の武名は餘りにも有名である、吉林省双城縣出身の生粹の滿洲つ子で本年四十歲、幼にして軍人を志し北洋陸軍速成學校騎兵科を卒へ東北軍入りをしたが、黑龍江衞隊哨官を振出しにトン〳〵拍子に出世して吉林軍第十旅長、吉林軍騎兵第十六師長及陸軍副軍長、吉林陸軍剿匪司令官を歷任、滿洲事變勃發するや熙治氏と脈絡、逸早く獨立を宣言して吉林に新政府を樹立、其後滿洲國建國に偉功を樹てた、其し滿洲國の下に東省鐵路護路軍總司令に新任軍制改革と共に第四軍管區司令官となつたが、各地の剿匪工作には日本軍の應援を得て奮戰し又過日日本の秋季特別大演習には首席陪觀武官に選ばれて大いに新知識を弘め國軍前途多事なるとき氏の健在は意を强うするに足るものがある。

品川主計氏

監察院監察部長

不良官吏から見れば閻魔の廳であるに違ひない監察院に頑張つて新興國の綱紀肅正の爲め正宗の切味を見せてゐるのがこの品川氏である就任以來手をつけた大物は何といつても前黑龍江省長韓雲階氏と前立法院長趙欣伯氏を槍玉に擧げたとだ、職掌柄氏の所へは物凄い脅迫狀が舞込んだりするさうだが、震災後の物狀騷然たる東京に在つて警視廳官房主事として貧乏ゆるぎもしなかつた度胸は、益々磨をかけられ一點の不正をも容赦せぬ烈々たる正義心に燃えてゐる、氏は官吏としては油の乘つた四十九歲、明治四十五年帝大經濟科卒業後內務畑に入り多年地方官、警察官を歷任、愛知縣內務部長を最後に惜まれつゝ日本官界を去り、滿洲國入したが氏は閥に囚はるゝ事なく常に嚴正公平を旨とし事を處する場合心眼に一點の曇りもない、名監察官とは氏の如き人を指して云ふのだらう、最近一部には監察院制度の改革を叫んでゐる向もあるが、要するに制度の運用は人に在りで院長羅振玉氏の下に同氏を始め寺崎、藤山の名トリオがガッチリ組んでゐる以上大向ふでは現制度を大いに活用すべしと叫んでゐる。

尹祚乾氏

海軍江防艦隊司令官

滿洲國海軍の創設の偉大な功勞者として尹將軍の名を逸することは出來ないであらう、同氏は湖南省芷江縣出身者で青年時代日本の東京商船學校に學び歸國後中華民國海軍に入り利濟、利捷、江亨各艦長、江防艦隊長等を歷任したが滿洲國成立するやその建國の意義に共鳴、新國家に入りて海軍創設に加はり大同元年七月海軍江防艦隊司令官に就任、以來舊軍閥時代ソ聯の軍備を恐れ、舊政權がなし得なかつた國境河川、黑龍江、ウスリー江の航行を敢行、南は松花湖、北はダライノール湖までの新航路を開拓して滿洲國軍事並に產業に一新紀元を劃した。氏の理想は滿洲國海軍をして廣く海洋に進出せしめ、各國海軍と併行せしむるにあり、その該博なる知識と相俟つて滿洲國海軍の第一人者であるは何人も認むるところである。

張文鑄氏

第三軍管區司令官

若くして司令官となつた張將軍は各方面羨望の的となつてゐるが、然しその反面には千軍萬馬を往來し軍人としての凡ゆる辛酸を嘗め、今日在るは決して偶然でなく正に闘ひ取つたの感を深うする名將である。

大同元年四月黑龍江省警備司令部少將參謀長に就任してから今日の中將司令官に昇進する迄は黑龍江省內將軍の馬蹄を印せざるはなく、殊に馬占山討伐、蘇炳文討伐の奮戰は目覺しいものがあつた、今日第三軍管內の治安が他區に比し安定せる狀態にある所以は將軍の努力に依るところ多しとは一般の定評である

同將軍は龍江省納河縣生れの人で陸軍々官學校を卒業し民國十二年陸軍々官養成所騎兵區隊長を振出しに騎兵第四旅參謀長、同第五旅參謀長、第八軍參謀處長、騎兵第十七團々長、步兵第六團々長、騎兵第二團々長等を歷任し滿洲國成立と共に五色旗の下に馳せ參じ馬占山華やかなりし頃既に一方の雄をなしてゐたほどである、將軍は未だ春秋に富み一時は司令官の職を擲つて一學生となり、日本陸軍大學において軍事を研鑽したき意向を有してゐたほどであるから周圍の事情中止の餘儀なきに至つたとは云へその熱意は必ずや他日期して見るべきものがあらうと噂さる。

賀正

大連・營口

大連市山縣通市場內　山縣通市場事務所　電話二—七二三五番

大連市紀井町六二　大連起業倉庫　電話二—八三六七番／二—八三六八番

小間物商　大連市濱速町一四六　今中洋行　電話二—五四〇九番

大連市西廣場三九　土田寫眞館　電話二—四〇三三番／二—四二四六番

大連市若狹町三五番　西田内科醫院　院長　西田英雄　電話二—七五七五番

大連質屋業組合　電話二—七三九八番

新炭米穀　三十里堡林檎　卸小賣　大連市吉野町三十番地　村上寅造商店　電話(国)二—四九三七番　振替貯金大連一三三二番

食料雜貨商　朝日屋　大連市越後町六　電話二—三九一一番

旅館　鎭西館　大連市信濃町六一　電話二—七一四六番

關西料理　濱作　大連市濱速町幾久屋隣

大連市山縣通大倉ビル　泰東洋行　田中知平　電話二—六三四七番

大連市信濃町五一　花屋ホテル　電話二—七一八四番

大連市能登町八十一番地　緒方洋服店　電話二—三三五六番　工場　大連市能登町六九番地　支店　新京千鳥町一丁目一三番地　電話二—六三五一番

大連市老虎灘　嘯月園　電話二—六四七九番

大連市惠比須町二〇四　大連西檢番　電話三—三三二一番

滿洲日報社

社長　村田愨麿　外社員一同

大連市山縣通大倉ビル　東裕錢莊　首藤定　電話二—一五一五七番／二—一二八番

大連海業聯合會

大連市磐城町五〇　御料理　琴月　電話二—七五六六番

營口商業銀行　電話一六四一番／六六四三番

營口水道電氣株式會社

海邊警察隊　隊長　宮部光利　外職員一同

滿洲電業株式會社　營口支店

營口縣公署　縣長　楊晋源

營口稅關　稅關長　會田常夫

營口商業銀行　總經理　宮城正一

營口水產局　局長　沈崇祺

營口水產高級中學校　校長　趙誠恕

營口檢疫所　所長　木村勝喜

營口稅捐局　局長　張經緯

營口專賣署　署長　馬仲援　外職員一同

外交部駐營辦事處　職員一同

營口鹽務署　職員一同

營口水產股份公司警備所　代表　松下銜次郎

營口興業株式會社

營口土地建物株式會社

營口石炭商組合

國際運輸株式會社營口支店　支店長　一寸木政藏

大連汽船株式會社出張所　所長　久保三郎

株式會社　營口百貨店　營口老爺閣前　電話一四六四・一四六五／三三六三・三三二四

大連村田商店營口支店　營口南本街

營口銀行團　橫濱正金銀行營口支店　朝鮮銀行營口支店　正隆銀行營口支店　振興銀行

營口水道電氣株式會社　社長　松本員男

滿洲電業株式會社營口支店　支店長　阿部覺磨

營口地方事務所　所長　武田胤雄

商事部營口販賣所　所長　衞藤亥吉

營口商業實習所　所長　關野惣平

營口郵便局　局長　輿石敬彰

營口驛　驛長　長谷川銀一

古川醫院　地方委員　院長　古川米吉

營口紡績有限公司　野口三郎

水先　山本土岐彥

水先　石橋三郎

奉天稅務監督署營口出張所　所長　長谷沼兵庫

營口印刷所　片山賴衞

成世慶

盛興號　田中廣一

營口採運局　局長　周鳴塵　副局長　浦田中造

株式會社　盛進商行

營口海陸運輸合資會社

平本洋行　電話二九番

近江洋行　電話二〇七番

寶石時計　ラヂオ　蓄音機　サービス商會　三田村宗一郎　電話一七六番

旅館　營口ホテル　驛前

營口地方事務所　高橋儀時　甲斐正治　宮崎精一　川島梅吉

營口小學校　校長　近藤朝雄

東亞煙草營口工場　場長　有福和一

營口圖書館　館長　笠原芳雲

營口電報局　局長　片桐壽八

日本赤十字營口支部　主事　村上唯次

東和公司　三島輝善

營口商工會議所　理事　日下淸凝

營口輸入組合　理事　佐々木正章

營口金融組合　理事　石田瀧助

津田醫院　院長　津田久堅

營口普通學校　校長　閔常基

地方委員　乃美熊太郎

英茂洋行　寺田五作

營口金融會　理事　朴宗照

清林館　旅館　山本彌市

羽村洋行　羽村義

松田洋行　隈部廣泰

山住洋行建築業　山住市藏

柴田寫眞館　木田棺

土木建築業　柿崎組

錦戸式ペチカ代理店　土木建築請負　中谷組　中谷英太郎

東京吉田時計店營口駐在員　本間久義

新流行洋服　丸美屋洋服店

夏目洋行　夏目茂

永井自轉車店

丸萬吳服店

辻吳服店

御菓子　山内堂

食料雜貨　岩田商店

食料雜貨　三井商店

和洋雜貨　熊谷商店

百貨店　重田屋商店

和洋雜貨運動具　田口商店

文具商　大鹽洋行

陶器食料雜貨　戸倉洋行

諸雜誌運動具　西田大衆堂

艀船業　酒井壽太郎

疊商　馬村商店

旅館、カフエー　靜の家

御料理、食道樂　瓊の家

御料理、食道樂　城山食堂

營口料理屋組合　武藏野　電一五〇番　みはらし　電六六〇番　松月　電一三三番　芙蓉樓　電一五一番　品川館　電二二九番　濱の家　電一五二番

賀正

西暦・1935・

瓦房店・撫順

瓦房店

復縣公署一同
松樹商務會
萬家嶺商務會
蘆家屯商務會
得利寺商務會
田家商務會
瓦房店電燈株式會社
白龍正宗釀造場 電一一一番
關東廳滿鐵指定 土木建築請負業 井上組 電話七六番
地方事務所長 中根信愛
警察署長 末光高義
醫院長 佐藤良治
國境警察隊隊員一同
地方事務所 山田吾市 島瀨一郎 眞鍋繁德
警察署署員一同

滿洲炭礦株式會社 復州炭礦
地方事務所 工務員一同
列車區員一同
瓦房店醫院職員
萬家嶺石材業 吉田連
萬家嶺石材業 多田工務所
許家屯商務會
許家屯製糸業 和記號 李偉東
田家商務會長 王向周
田家 慶來盛
田家 那文卿
瓦房店新市街 義盛東 電三三番
郵便局長 女池賢純
電報電話局長 末武時太郎
小學校長 雪本一智
公學校長 伊藤德布
保線區長 三宅善平
瓦房店驛長 渡邊與作
電燈會社支配人 齋藤喜一
東區長 森田彥三郎
撫順炭礦囑託 竹中鍘三
瓦房店保線區員一同
撫順炭礦炸事窰炭礦
金融組合理事 加藤喜市
復縣金融合作社 理事 丹上義勝
王家落花生取引 林延春
滿洲果樹組合
池田青龍園
復州鑛業株式會社 川上眞水
同組 神車松太郎

(順位不同)
土木建築請負業 松涙捨吉
建築請負業 近藤俊一
御料理 筑紫館
カフエー キング
王家雜貨商 吳東邦
さんば 大河原ヒロ
盖復製鹽緝私局
綢緞百貨呢絨店 懋盛東
雜貨商店 慶順德 白輔廷
裏豐厚經理 劉仁峯
福順厚經理 曲宴清
許家屯商務會長 陳溪泉
許家屯商務副會長 陳實書
許家屯消防隊長 王錫三
許家屯吉順東 郭培芝
許家屯義盛興 王育亭
洋酒雜貨 德裕商店
田家商務副會長 宮子安
萬家嶺商務會長 張向午
萬家嶺商務副會長 王助山
萬家嶺 隆興裕 丁熙元
明治生命保險代理店 雜貨物積卸 和洋小間物雜貨 深草商店 電話三三番 大連振替九七三三番
松樹郵便電々局長 宗藤宇一
松樹公學校長 北川稔
田家驛長 鶴薗勇吉
王家驛長 川口見藏
得利寺驛長 竹澤富久治
松樹驛長 齋藤貞治
萬家驛長 若林彥一郎
許家屯驛長 小林光威
松樹地委議長 東慶太郎
西區長 小川政次郎
社司 森上枝
消費組合主事 瀨尾益美
圖書館長 板垣一二三
貯炭場主任 平山恭二郎

淺田幸吉
白土宏文堂
和洋酒食料京染 巴商行
御料理 初音
食堂樂天金 中島スミ
檢察廳長 曹鵬飛
法院長 袁希懋
典獄長 伍光曦
瓦房店警察署長 宋恩錚
警察隊長 顧慶善
稅捐總局長 呂振邦
復縣瓦房店商會會長 孫履廷
昌隆洋行
雜貨商 和東順

撫順

久保孚
石河積
井之上善藏
內野捨一
齋藤茂一郎
瀨戶辰五郎
田中廣吉
富岡信治
中原祥光
松井佐兵衛
寺西圭之
角德一郎
大島勇
後藤愛助
福田寅一
萩野滿次郎
蜂谷文平
中島右仲
古賀初一

撫順炭礦 各課所場長 技師參事一同
菅野誠 伊藤武則 久米庚子 水野昇一
撫順神社 佐藤種德
陶山治作
大畑覺了
武內敬美
電氣鎔接業 稻葉製作所 所長 稻葉幸太郎
梅田富三郎
梅田正太郎
藤井順治
前田洋行
大松號
福島寫眞館
瀨田新聞舖
大和洋行
石原洋行
明星公司
田中金物店
和泉吳服店
撫順縣公署 趙仲達 外職員一同

撫順實業協會
撫順地方委員
撫順體育協會
土建協會支部
撫順教育會
牧野商會
岡田ビルブローカー
佛教聯合會
撫順公司
三榮公司
救世會
大谷洗布所
小川炊事
山口タクシー
撫順會社銀行團
撫順競馬俱樂部
撫順雜炭組合
松田土產店
渡邊琥珀堂
土產商 隅田商店
村上土產店
滿花園
福合樓
滿鐵醫院一同
撫順醫師會
齒科醫師會
料理店組合
純料理店組合
明治屋
カフエー銀蝶
カフエースズラン
花月堂
質屋同業組合
カフエー赤玉
カフエー白バラ
カフエー精養軒

謹賀新年

皇紀・2595・

奉天

滿洲電信電話株式會社 奉天管理處

滿洲電業股份公司 奉天電業局

鐵路總局

滿洲航空株式會社

株式會社 滿洲工廠

滿蒙毛織株式會社

奉天金曜會
東拓奉天支店
横濱正金銀行奉天支店
朝鮮銀行奉天支店
正隆銀行奉天支店
滿洲銀行奉天支店

滿洲市場株式會社

株式會社 滿洲取引所

國際運輸株式會社 奉天支店

南滿瓦斯會社 奉天支店

東亞勸業會社

奉天鐵路局

奉天商埠地十一緯路第十六號 利泰洋行

奉天稲葉町 吉川組 代表 永吉開藏

奉天宇治町三 奉天取引所取引人組合

滿洲煖房衛生同業組合 奉天支部

奉天取引所信託株式會社

奉天信濃町十七番地 同和興業株式會社

奉天窯業株式會社

奉天若松町七二 滿洲千福釀造株式會社

大同產業株式會社 奉天 川本靜夫

極東生藥株式會社 奉天 秋野公顯

奉天黄バス 滿洲自動車運輸株式會社 代表取締役 武田次七 代表取締役 岩崎榮二

奉天青葉町一四 碇山組

協和會 奉天支部

奉天宇治町三番地 久記證券部

奉天市商會

奉天紡紗廠

奉天青葉町一番地 天津號奉天支店

振興洋行

奉天春日町 松永自轉車店

奉天春日町 寺尾吳服店

奉天平安通八番地 滿洲窯業株式會社

七福屋

明星ダンスホール

上山證券株式會社

奉天宇治町十六 福奉公司

奉天加茂町七 大和銀號

奉天淀町十八 奉天證券公司

奉天春日町一番地 櫻屋商店

奉天平安通り廣場 平安座

奉天館

演藝館 身上市太郎

滿洲土木建築協會 奉天支部

奉天 ―◇― 滿毛百貨店 ―◇― 天

軍部、滿鐵、關東廳 滿洲國諸官衙御指定 奉天浪速通十九 各國毛皮と洋服のデパート （滿）滿蒙洋行本店 中野武雄

奉天加茂町五 山中電機株式會社 奉天出張所

奉天 板橋洋行 電三九〇五

奉天金融組合

奉天加茂町十六 木村洋行

奉天輸入組合

奉天 小田洋行

奉天千代田通春日町角 那須藥局

奉天春日町 東榮洋行

奉天浪速通六 木村洋行

奉天浪速通四〇 大脇洋行 吉田純久

奉天春日町 近江洋行

奉天千代田通二三 松壽堂藥房

奉天浪速通 熊野商會

奉天浪速通り四四 帝國會館

奉天春日町七 岡房商店 電二九六八

奉天春日町 義道洋行

奉天春日町 大和屋洋品店 加藤佐太郎

奉天千代田通 栃木洋行

奉天春日町八 河村靴店 電二八七

美酒千代乃春釀造元 千代乃春奉天支店

奉天春日町六 大阪屋號 大谷直定

奉天千代田通三六 三省洋行

奉天春日町 やまき吳服店

奉天浪速通三三 前田整商店

奉天青葉町七 北村太陽堂藥局

奉天春日町 べら安履物店

奉天浪速通郵便局前 飯田洋品店

粋山

奉天平安通一〇 精美堂 久保田義一

奉天千代田通四〇 日滿貿易株式會社

滿洲郷土藝術研究工廠 小倉圓平

賀正
西暦1935
新京
宮内府大臣 沈瑞麟
侍衛官長 工藤忠
侍從武官長 張海鵬
尚書府大臣 郭宗熙
宮内府次官 入江貫一
滿洲國参議府
参議一同
滿洲國國務院
國務總理大臣兼文教部大臣 鄭孝胥
民政部大臣 臧式毅
外交部大臣 謝介石
軍政部大臣 張景惠
財政部大臣 熙洽
實業部大臣 張燕卿
交通部大臣 丁鑑修
司法部大臣 馮涵清
蒙政部大臣 齊默特色木丕勒
總務廳長 遠藤柳作
新京特別市公署
市長 金壁東
總務處長 橋口勇九郎
行政處長 董暘
長春縣長 宋德玉
滿洲國協和會
會長 鄭孝胥
理事長 張燕卿
中央事務局
局長 謝介石
次長 阪谷希一
滿洲中央銀行
總裁 榮厚
副總裁 山成喬六
滿洲電業股份有限公司
董事長 吉田豊彦
副董事長 入江正太郎
副董事長 孫徵
常務董事 小池覧
常務董事 高橋仁一
常務董事 石橋米一
常務董事 王聘之
董事 林鶴臯
董事 岡村金藏
董事 温和
董事 古泉光男
董事 迫喜平次
董事 奥村愼次
董事 趙壽芳
常任監察人 高橋貫一
常任監察人 巴英額
常任監察人 谷川善次郎
顧問 糟谷陽二
技監 雨宮春雄
國都建設局
局長 阮振鐸
總務處長 結城清太郎
技術長 近藤安吉
庶務科長 江崎猛
計畫長 溝江五月
工地長 草地一雄
水道科長 重住文男
國道局
局長 直木倫太郎
副局長 孔世培
總務處長 大迫幸男
第一技術處長 本間德雄
新京建設處長 原口忠次郎
滿洲國財政部
吉黑榷運署 專賣公署 各科長一同
新京鐵路局
局長 金壁東
副局長 山領貞二
滿洲電信電話株式會社
新京首席駐在員
新京局所長一同
滿洲炭鑛株式會社
理事長 河本大作
副理事長 李叔平
滿洲採金株式會社
新京八島通三四番地
滿洲土木建築業協會新京分會
社團法人
日滿土木建築協會
本部 滿洲國新京八島通三四 電話長二四四一番・四九〇七番
分會 滿洲國奉天彌生町三一 電話奉三三九四番・二三八七番
會長 堀三之助
副會長 榊谷仙次郎
副會長 高岡又一郎
副會長 張保先
常務理事 石田茂
奉天分會長 上木仁三郎
新京八島通
新京建築助成株式會社
新京運送業組合
新京石炭商組合
滿鐵指定販賣店
松茂洋行 電二〇四二 二五六二
裕新公司 電三一三
泰利號 電三一七 二六九〇
仁和洋行 電二五八 三四七二
加藤洋行 電二〇三三
泰山行 電二一五六
大昌煤局 電三一四九
新泰洋行 電二二九七
國際運輸株式會社新京支店
支店長 宮原芳茂
新京輸入組合
理事 久末吉次
新京中央通
新京興信所
清水末一
新京市場株式會社
新京富士町五ノ六
新京賽馬俱樂部
電話二三三 五五〇六
賽馬場三五〇七
滿鐵新京醫院一同
新京日本橋通三十番地
新京金融組合
日本赤十字新京委員支部
新京藥業組合員一同

馬ものがたり

滿鐵馬術部　松尾傳三郎

マホメツト曰く、「地上の幸福は、美人の胸と馬の背に在り」と。乗馬の興味と効果を、餘すところなく喝破してゐる。

健康さ、勇敢不屈の精神を養ひ得るもの、乗馬に如くものはない。悍馬に鞭うち、あらゆる障礙を突破して、山野を馳驅するの快、或は花間に、馬上悠然逍遙するの風流も亦格別である。

置物の樣な四足、比類なき肢、颯爽たる體型、將又物の眞相を悉く反映するやうな、怜悧で氣品に富んだ瞳、更にこれが原野に、數百頭集團疾走するさきの、怒濤の如き躍動の美……總てが馬に對する、堪らない魅惑である。——

こゝでは、所謂日本馬か、西洋馬を想像して頂きたい。我々が街頭出會するところの、驢や騾、あれは馬では斷じてないのだから——前置はこれ位にして、馬の珍話、笑話を二つ三ツ紹介してみよう

馬歸る

昭和六年の夏のこと。宮崎縣西諸縣郡野尻村の楠田一右衛門が、ある朝早く起きて、厩に行くと、一頭の見馴れぬ馬が、さも懷しさうに傍に寄つてきて、しきりに頸をすりつける。

一右衛門は、訝かしく思ひ乍らよく〳〵見たところ、なんとその馬は、自分の家で仔馬のときから手鹽にかけて育てあげ、三年前に同村の大久保榮に賣渡した牝馬ではないか。

その後轉々人手に渡り、今では東諸縣郡の某村に買はれて行つてゐると、風の便りに聞いてゐたのに。……一右衛門は、久し振りの邂逅に、思はず懷舊の涙にくれたが、馬も嬉しさの餘り高く嘶いた。

さいふ樣なわけで、まことに美しい情景が描き出されたが、その後段々調べてみると、その馬は賣られて後日増しに募る生家戀しさの情に堪へかね、或夜ひそかに、飼主の許を脱け出し遠い山坂を越えて、一右衛門方に辿りついたものと判つた。

一右衛門は、動物ながらも、舊主を忘れぬその心根の可憐らしさに感じて、直ぐさま買戻し、一生養つてやることにした。

戀故に勝を讓る

人生に戀があり、犬猫に毛嫌ひがあるかぎり、馬の世界にも戀があつて然るべきだ。不幸にして人間は種族を異にすることのために、その戀の表現を理解し得ないので、的確にそれが、彼女が彼氏に捧げる灼熱の戀情であるといふことを自覺し得ないまでのことだ。

だがこゝにたつた一つ、これこそ正しく百パーセントの戀に違ひないといふのに「リオンの戀」といふエピソードがある。

リオンは競馬馬の牝馬であつた大正十四年秋の福島倶樂部の新抽で各抽界にあつては、當然名馬の一に數へらるべき逸駿であつた。その全盛時代には、名馬イワキ、ロックなどの強敵にもしば〳〵後塵を浴ぜたものだが、どういふものかイリタントだけは破り得なかつた。

がこれは、破り得なかつたのではなく、破らなかつたのだといはれてゐる。卽ちそこに、彼女リオンの悲しい戀があつたといふのだ。

イリタントは大正十二年秋、東京競馬倶樂部の新抽で、リオンに先だつ三年前すでに競走界にデビューしてゐた。ルーヂゲーアを父にイリタントを母に、そして母の名をそのまゝ、競走馬として斯界に活躍した。その成績もすばらしかつた雄駿である。

眉間から鼻端にかけて、クッキリとほつた雪白の流星、右の前肢と、兩方の後脚に、純白の靴下でもはいた樣な、見るからに浮上つた美しい三白、正に端麗な貴公子を想起せしめる瀟洒な姿、蹄の先から脚の末まで、スマートで、シークで、超モダンなこの男性イリタントこそ、彼女リオンの戀の對象に選ばれたのだ。

リオンが、彼氏イリタントに初めて顔を合せたのは、その新抽の秋の十一月、目黒競馬場でのことである。優勝の元氣に任せて、一擧に古豪を屠らんものと、はる〳〵みちのくの福島の奥から、花の都の檜舞臺へと遠征しださきである。それがどうだらう、イリタントの雄姿を一眼見るなり、好きになつてしまつたのである。何が何だか判らなくなつたのである。

彼女リオンの心の奥には、悩ましい影が宿つて、旅の假寢の獨り居に、しみ〴〵と武藏野の秋風をかこつ身とはなつたのである。

朝夕の運動の時はもとより、練習の際など、ちよつとでもイリタントの姿が彼女の眼に映らないものなら、彼女は妙に興奮してその都度馬丁や騎手を困らしてゐた。

思ふやうにイリタントの側によれぬ彼女は、居ても立つてもゐられなかつたのである。

彼と彼女はこの時を最初に、前後六回といふもの顏を合せてレースを爭つてゐる。そして如何に出後れても、彼女は全力を盡して彼の尾端までは迫るが、それからさきはしなかつた。彼イリタントの後尾にピタリとついて、颯爽と彼が打振る尾毛にその鼻端を弄らせながら、獨りレースを樂しんでゐた、といふ。

これは嘘の樣な眞實の話であるわけても十五年秋の目黒の顔合せなどは、彼女と彼氏と僅か二頭のレースであつたのだ。當時イリタントは、既に得勝を重ねて相當に重量苦を感じてゐる時であり、しかも彼女は、新進の鋭氣凄しく、正に破竹の勢ひにあつたのだから彼女の健脚を以てすれば、彼イリタントを仕止める位は左程の難事ではなかつたのである。

ところが、彼女リオンには自分の戀しい男に敗北の苦杯を嘗させるなど、そんなことは到底出來ることではなかつた。

健腕を以て鳴る柴田寛治騎手が如何に仕掛けても、強鞭に鞭つても、彼女は常に行ふが如く、彼氏イリタントの尾毛を樂しんで、決して拔け出ようとしなかつたのである。

何んと涙ぐましい挿話ではないか。イリタントは、見るからに惚れ惚れする美貌の持主であつたが、それは人が見てしかく感ずるばかりではなかつたのである。そこに今に殘る哀話「リオンの戀」が存在したのであらう

落馬集

馬上の姿といふものは、古今東西誰が見ても、まことに勇ましいものだが、その代り——代りはちと變だが——落馬したときたら、これ位また哀れで、滑稽なものはないだらう、落ちるとき、落ちたあと、その樣子、その形、正に千差萬別、とても意識してはあんな恰好は出來るものではない。とにかく落馬だけは、況や家内には餘り見せたくない圖である。

落馬と妻帶

もう十何年も前の話だが、馬術部の馬場開きが、今は亡き時の軍司令官S大將臨場の下に盛大に擧行された。

何番目かの餘興競技に旗取競走があつて、E君も參加した。審判員の手旗一振、一齊にスタートしたのはよいが、E君勢ひあまつて——といふより馬に引張られたのがほんさうらしい——場外に飛び出し道路の眞中で綺麗サッパリ落ちたその上念入りに氣絶までしてしまつた。

皆さうかさいつて笑つてばかりもをれず、近所の衛戍病院にかつぎ込んで手當をするやら、一時は大騒ぎであつた。

そのうちケロリとして歸つて來たE君ツカ〳〵とS大將の前に進んで、直立不動の姿勢で曰く「實は私一ケ月ばかり前に家内を貰つたものですから」

さ、さすがの大將もこれには返事の仕樣がなかつたと見えて、破顏一笑「ウム」と答へられたぎりだつたが…此の奇想天外の言ひ譯を聞いて、さあ側の者が笑つたの笑はぬのつて、腹を抱へて轉がりまはつたものだ。

後でF君に「落馬と妻帶とどういふ關係があるんだ？」と聞くと「さあ…俺にもよく判らん」と眞面目くさつた返事、これで又一しきり大笑ひだつた。

鞍上人あり

M會社にゐるT君ある晩春の日曜日、陽氣に浮かれて單騎轡をあげて遠乗したのはよかつたが、途中で腹帯が切れて鞍諸共落馬した。

馬の奴、急に背が輕くなつたので占めたとばかり駈け出してしまつた。

馬場に殘つてゐた連中が蹄の音にフト見ると、たつた今T君が乘つて行つた筈の馬が、獨りでノッソリ歸つて來たので、さてはT君「やられたな」と心配してゐるところへ、當のT君が馬にはあらで洋車に打乘り悠々と歸つて來た。

聞いてみると件の始末。そこで皆が「落馬だ〳〵罰金々々」と騒げばこれを尻目にかけてT君「馬鹿言ふな、鞍には跨つてゐるぞ」と落着いてゐるのでよく〳〵見ると、T君車の上で兩脚の間に一生懸命鞍を挾んでゐたので、一同ダアー。

落馬儲け

古い話にこんなのがある。

法性寺入道前の關白太政大臣藤原道長の家來に、下野武正といふ士がゐた。あるとき、道長の供をして天王寺詣をする途中、山崎街道で馬から落ちた。

その翌年また供をして、丁度そこを通り合せたとき、去年武正の落馬したのを思ひ出した道長が、「こゝは武正のところだな」といふと武正すかさず「ハイ、武正の所で御座います武正の所でございます。」といつてとう〳〵其の土地を貰つてしまつた。

普通なら、馬から落ちて砂でも掴むところを、領地をつかんでしまつたとは、武正も拔目のない男である。

×

話が落馬になつた樣だから、こゝらで初春らしく笑つて落着さすることにしよう。

舞臺に上つた熊谷の馬、うつかりして前足が屁を放つたので、後足大いに慌てゝ「ヒヒーン」と嘶けば、上の直實思はず「失敗つた、後向に乗つたか」とは、さて〳〵粗忽者が集まつたもの……。

滿洲選手ゴシップ

滿洲體協主事　林田學

亥歳は猪突猛進の歳に相違ない。吾人は大に猪突猛進して滿洲青年の意氣を天下に發揚しなければならぬ歳であると考へる。

滿洲のスポーツ界は年と共に進展し殊に滿洲國の獨立により極東大會は事實上解消され、東洋體育協會の創設を見るに至り、滿洲在住の青年は滿洲國の爲にも滿洲國が東洋體協の一員として恥しからぬ程度に迄進展すべく努力しなければならぬ年でもある、吾人は滿洲國側と飽く迄固き握手の下に滿洲スポーツ界の健全なる發達の爲に貢献しなければならぬと共に、一勢力の確立を期せなければならぬ事を年頭に當つて痛切に感ずる依つて新年劈頭より大に笑つて頭に滿洲のスポーツ界を明るくすべく色んな理窟を抜いて與太でも飛ばして笑ひの裡に吾人の理想に猪突せんとするものである、若し吾人の執筆に係るゴシップに腹を立てる人があつたら新年の屠蘇機嫌の與太だと御赦しを乞うて筆を進める。

滿洲スポーツ界の大御所で滿鐵體育係の主任を勤めてござる齋藤兼吉さん、根がスポーツ畑の育ちだけに滿洲日報の猛獸狩の記事を見て雄心弗々矢も楯も堪らなく見えるが、悲しい哉銃獵の經驗なく往きたくはあるが虎は恐い、併し虎や猪との競爭は之また得もいはれぬファイテングを喫り、三思五考頭腦を惱ます事十數日遂に「今度だけは見合はせよう」は流石の猛者も虎の威に恐れたものか？夫れでも僕が參加するといふと「虎や猪が來たら竈へ上がつて喰ひ殺されますよ」と牽制する事妙だしいのは矢張行きたいのが山々なんだらう。

×

滿洲の陸上競技界になくてならぬ人物村上國平さん、病魔に襲はれて入院中だが今年は一日も早く病院なんかと絶縁してウンと世話して貰ひたい。この國平さん今でこそ立派な紳士になり濟ましてござるがアレでも廣島の高等學校時代大學の連中に伍して東西對抗陸上競技の選手に選ばれ堂々と出陣したまでは良かつたが、大日本の東西對抗の選手といふので優待されて汽車は二等の寢臺車を提供されたものだ。腰に手拭ひをブラ下げ草履を穿いた村上選手、生れて始めて？の二等車に威風堂々と乘り込んだ寢臺の眠り心地も萬更でなかつたが東京驛に着く一寸手前で眼を覺まして寢臺から出て見ると自分の穿いて來た草履がない、サア大變寢臺車を隈なく搜し求めたが遂に見つからぬボーイに「俺の草履はドウした」と尋ねたらボーイ曰く「餘りキタナイ草履なので誰か棄たものと思ひ掃き棄てました」に「？？？」一句も出ずに東京驛に下車する時は抱いて寢たスパイクのついた靴を穿いてカッチリカッチリ冷汗も流さずに歩いた元氣が今年あたり見たいものだワイ。

×

昨年の秋滿洲陸上軍が朝鮮や内地に遠征した時、一行二十六名もの大勢だのに皆の氣分が一致したのか、何等トラブルも起らず愉快な旅行が出來たが、其中には幾多のゴシップが生れた、筆者の姓名が三字の故を以て釜山や下關では警官の取調べに遭つた事などは小さい方で、今迄書かれさうで書かれなかつたものをチョッと失敬して見ると、今滿洲の圓盤王伊藤一雄選手、京城の一戰に見事輸鮮軍を屠つたので良い氣持になり飲めもせぬのに祝ひ酒を二三杯！宿へ歸つて二階へ上る頃は家が廻つたり、眼が廻つたり、ツイ自分の室を間違へて隣の野球を引率して來た朝鮮の或る中學校の先生の室へ入り込み、先生と同衾！先生却々如才ない人で伊藤選手を介抱したり餘り顏が赤くフー〳〵いつさるので今にもゲーッと吐きさうにもあるので、洗面器の用意をするやら至れり盡せりの厚遇に預つて本人スヤ〳〵と先生に抱かれて安眠、翌朝眼が覺めたら髭の生えた先生と寢て居るのに驚き見ると洗面器を頭に被つて居た！コソ〳〵と逃げ出したが爾來伊藤選手は鎌兜の選手となつてしまつた、孝心深い伊藤選手「母親が心配するから之ばかりは發表して呉れるな」と手を合せて拜むあたりよく〳〵の失敗だつたに違ひない、モウ年も變つた事だから此處等で兜をぬがせても良いだらう。

×

神戸で降りた選手一同甲子園のスポーツマンホテルが宿舎であるといふので自動車を連れて乘りつけたのは無事だつたが、神戸驛で一寸手間取つた米津選手や岡田選手スポーツマンホテルと甲子園ホテルを感違ひして運轉手に「甲子園ホテルに往け」運轉手一寸躊躇したらしいがそれでも命令に服從して甲子園ホテルへブー〳〵と乘りつけたものだ、玄關は煌々としてボーイ三、四名の出迎へに少し面喰つたらしくそれでも圖々しく玄關を上りかけてフト間違ひに氣づいた時はモウ遲かつた。

恰も宮様の御泊りになる事になつて居たので、宮様の御到着まで待ち、スポーツマンホテルへ到着して曰く「少し調子が違ふと思つた、俺達の宿には良過ぎると思つたヨ」は怖らぬ告白。

×

遠征をすると兎角ゴシップが多くなるが、餘り書くと顏を赤くする連中が居るのでこれ位に止めるが今年はモッと〳〵澤山のゴシップを拵へて我々の艦の惡跡を滿濠ならしめ、猪突猛進の英氣を養ひたいものである。

大衆小説　一本元結　土師清二

新年の歌　柳原燁子

池邊鶴　青木月斗

日本化する哈爾濱
加速度的に殖ゐる邦人

―ハルビン支局　神藏重勝―

今から約三十五年前森林に囲まれた松花江岸の一部落にロシア人が築いたハルビン市—極東に對する帝制ロシアの侵掠の足場として建設された軍人町でしかなかつたハルビン市だがロシア革命、支那の利權回收時代、奉天軍閥時代、満洲事變と幾變遷を經て遂に人口五十萬の大都市にならうとは誰も想像しなかつただらう、そして今は日一日と舊ハルビンが「日本化」されて新しいハルビンが成長しつゝある、露治時代における軍隊及び鐵道従業員中心の發展振りに反して支那の勢力下におけるハルビンは夥だしい苦力と商人の群が殺到した、然し満洲國成立後のハルビンは資本と技術と知識とを持つた邦人の力に依つて着々建直しが行はれてゐる、殊に治安の恢復した昭和九年中の邦人の發展振りは目覺しいものがある、

邦人二萬五千

邦人の人口は事變前においては僅かに三千人足らずだつた、それも軍閥の壓迫を受けて多年苦闘を續けて築きあげた地盤は根柢から覆へされ全在留民は引揚げの時期を待つばかりだつた、それが満洲國成立以來忽ち五千となり、一萬となり、昨一年間の増加は四千二百六十四名といふ躍進振りで現在の邦人人口は左のやうな數字を示してゐる

	男	女	計
内地人	七、八四七	五、三七四	一三、二二一
朝鮮人	三、四〇八	三、〇四二	六、四五〇
合計	一一、二五五	八、四一六	一九、六七一

この外に屆出てないルンペンや露人滿人などの家に寄宿して調査漏れのものが四、五千はゐる見込みである、又ハルビン郊外に住む内地人百九十三名、朝鮮人四百三十二名を入れると、ハルビンに居住する邦人人口は二萬五千人近いことになる

邦人の職業別

邦人人口の内で最も多いのは會社、商店その他に勤務するサラリーマンで家族を合すると三千五百餘名である、之に次いで滿洲國官吏、同陸海軍人、鐵道、土木關係のものが約二千五百人その他は種々雜多な職業に從事してゐる、昨年渡來した天理教農村民及び從來から阿什河流域で農業に從事してゐる邦人農民男二百四十四名、女二百六十二名も大ハルビン特別市の實施に依つてハルビン市民に加はつてゐる、邦人在留民を職業別にすると約四十餘種類となるが會社、商店、旅館等相當大資本を投じて事業を營んでゐるものゝ外には可なり突飛な職業に從事してゐるものもあつて、木竹皮革羽毛等細工業といふのや、傘や提灯の製造をして外人を常得意としてゐるものなどもある、他の都市に比してルンペンが少いが、自由勞働者なども相當に入り込んでゐる、

日本資本建築

昭和九年度における邦人の躍進振りを物語つてゐるものは邦人の資本に依る大小建築の續出したことで、昨年中に出來た建物の全部が邦人の資本に依るものだといつても過言でない、地段街における豚徳ビル、モストワヤ街の松浦ビルなど高層なビルディングが續々建築されたが、その外鐵道病院、鐵路局の邦人社宅などハルビン市街の美觀を添へ本年中には赤十字病院、商工會議所などの大建築が完成する筈であるが、何れも最も新しい様式を採用し從來のロシア式建築に比して異彩を放つてゐる、事業方面に於いても事變以來續々創立された大會社は悉く邦人の資本に依るもので大滿洲麥酒、忽布會社、日滿製粉大同酒精、阿什河製糖、ハルビンセメント、日滿酒精等最も牢固な地盤を持つて堅實に經營されてゐる、

日本語熱勃興

▲ハルビンの「日本化」は從來ロシア人の獨舞臺であつたキタイスカヤ街を遠慮なく侵蝕した、街の兩側をロシア人の男女がゆつくりした歩調で、散歩してゐた特有の情景は跡方もなくなつて活氣に充ちた足どりの邦人がめつきり増加し、各商店はロシア人や滿人の商店まで日本語の看板を掲げショウウインドには日本語の説明書がついてゐる、そして一商店に二人や三人の日本語を解する店員が傭ひ入れてあつて邦人客は少しも不便を感じない、又商品も總て日本品ばかりで却つて旅行者が土産品を買ふのに困る位である、露滿人の日本語研究熱はすばらしい勢ひで流行してゐる、各會社商店では教師を傭つて日常會話を習得してゐるものが多く、各ロシア人書店には必ず店頭に日本語學習書が飾られてゐるのを見る

藝酌婦一千名

▲夜のハルビンはこれ亦邦人の獨舞臺のやうな感じがする、市中到る處、どんな片隅に行つてもカフエーのネオンサインの目に入らぬ處はない位である、新市街の住宅街にもカフエーが續出し從來邦人が全く住んだことのない馬家溝でさへもカフエーやおでん屋が數軒あつて、夜の靜寂を破つて高吟して歩く[illegible]は先づ日本人だと思つて間違ひない位、又埠頭區の邦人の多いモストワヤ街、地段街などには夜店がずらりと並び屋臺のおでん屋もあるといつた有様、ハルビンのローカルカラーはかうした「日本化」に依つて葬り去られてゆく、料理店の多いことも他の新興都市に決してひけをとらぬ、從來一面街に限定されてゐた料理屋は何時の間にか全市にはみ出し新興氣分を遺憾なく發揮してゐる、從つて藝酌婦の數も日々増加する一方で現在の數は千人を突破してゐる

邦人犯罪激增

之も一風景といへばいへやうが邦人の増加するに從つて、犯罪數の激増したことである、たとへば昨年四月から十一月末までに日鮮人の犯罪人數は既決一千四百二十六名、その延人員一萬一千五百五十名に上つてゐる、そして刑務所に收容されたものが百六十四名、延人員四千二百八十六名となつてゐる、犯罪も從來邦人間に殆ど無かつた殺人、過失致死、強盜、強姦などの重罪犯があり益々増加の傾向にある、之などは甚だ面白くない現象だが堅實な邦人の發展につれて不良分子も亦續々入り込んでゐることを物語つてゐるものだらう。

明治四十年頃のハルビンの思出

満鐵囑託　軍司義男

▼…私が初めてハルビンに來たのは明治四十年だが、それから一度歸つて四十二年に再び來哈した當時のハルビン在留民は二、三百名位はゐたが大部分洗濯屋、時計屋、料理店などで邦人商店の魁としては熊澤、梅原、松浦洋行などの雜貨店があつて日本品の販賣をしてゐた、その外には本溪湖炭販賣の竹内商店があつた位である、その後間もなく三井支店なども出來た、當時のハルビンは營口領事館の管轄で大正五年に始めてハルビン總領事館が出來川上總領事が赴任して來た

▼…在留民の多くは全く裸一貫で大陸に渡り、想像以上の苦闘を續けて來たものばかりであるが、私の來た當時にもよく日露戰役當時のことを聞かされたものだ、何でも開戰前には今か〳〵と在留民は非常な不安に襲はれてゐたが、在浦鹽の一邦商からハルビンの一商店に米何十俵とかをすぐ送れとの電報が入つた

これは豫じめ打合せてあつたので在留民はそれとばかり一齊に引揚を開始した、浦鹽に向ふものと營口に向ふものとの二手に分れて歸國の途についたが、どさくさ騒ぎで財産なども殆ど捨てゝ引揚げたさうである、熊澤洋行支配人の藤井忠次氏などは一支那人に財産を預けて行つた處戰後歸つたら本人はその財産を賣り拂つて姿を消してゐた、それでロシア官憲に訴へた處、それなら同人の所有する家があるから代償にとつたらいゝだらうといふので家を持つことゝなつたが、これが邦人で不動産の所有權を獲得した最初だ

▼…ハルビン草分の在留民達はこんな苦しい經驗をくり返し文字通り惡戰苦闘を續けて來たが、大正六、七年頃から初めてすばらしい好景氣に惠まれハルビンは日本品の洪水に襲はれ商品はいくらあつても足らぬ程の賣行で在留民も忽ち何千人となつた、大商店や正金、朝鮮銀行支店なども出來、現在のハルビン在留民の地盤を築き上げた

▼…ハルビンの市街も今では全く面目を一新したが、私の來た頃には雨が降ると一面の泥海となり兩側に板を渡して人道としてゐた處なども多くて田地街にあつた居留民會前などはよく馬車が泥水に溺れかけてゐるのを見た

新市街の如きは今の秋林商會附近から先は郊外で商店なども此附近とグランドホテル附近に二三軒あつただけで他は東支鐵道社宅以外に家らしい家はなかつた、當時の人々は今日の繁榮が來やうなどとは夢にも想像してゐなかつた、全く隔世の觀がある

滿洲の猪

◇亥年のお正月を迎へたので我々の生活に馴染深い満洲の猪（豚）はどんなものであるか簡單に一瞥して見やう。先づ斷らねばならないことは、こゝに述べる猪は通常の猪ではないことである。即ち豚—野猪の進化したものである。猪（豚）は滿洲では同種中の絶對多數を占めてゐるから豚について語ることは強ち牽強附會ではあるまい

◇滿洲人の生活するところ、都會であらうが田舍であらうが、豚（猪）を見ぬことはない。滿洲農家の副業として最も普遍的なものは豚であらう。凡そ滿洲農民の生活様式に最もよく合致した二つの家畜がある。その一つは驢馬で他は豚である。前者は體の割合に較べて多大な勞力を提供し、後者は野菜の如き迅速なる發育と無雜作な管理で極めて豐富な肉を提供する

◇今、滿洲在來の豚を種類別に見るに黑猪、白猪、花猪の三種に分つことが出來やう。

▲黑猪　成長はおそいが肉味は最も佳く體量は二十ケ月位で三十貫乃至三十五、六貫に達するものもある。これに屬するのが滿洲猪の大部分である

▲白猪　性虚弱で脂肪分少く肉味も前者に及ばない、體格は矮小であるが發育は迅速で、生後七八月で成熟し滿一ケ年位で二十二三貫になる

▲花猪　體軀最も大きく晩成である、北滿地方に多く南滿には極めて少ない

◇滿洲の豚（猪）は食用としてはバークシヤ種に劣つてゐるが、その蕃殖力の大なる點では第一位を占めてゐる。普通には一年に二產、二年に五產のものもある。一產の平均十四、五頭、多產のものは二十四、五頭に達する。この多產は他種に見られぬところで支那豚が食用として多くの缺點があるに拘らず廣く一般に飼育されてゐる證據である。

◇滿洲人の肉食は殆ど豚肉に依つて三分の二以上を占めてゐる。それは丁度日本人の魚肉を用ふる程度以上であらう。たゞこの例外に回々教徒の集團があつて、彼等は猪を極端に嫌つて絶對にその肉を食用に供してゐないけれど。

◇要するに滿洲の猪は極めて有用な動物であつて世間でよく言はれる「豚に眞珠」などといふ失禮なたとへは滿洲では差控へなければなるまい。

遼東豚と諸國

後漢時代の或る書物に「遼東豚」といふ三字が見えてゐる。遼東には白頭の豚が多い、漢人當初之を見て異となし遂に朝に獻じ瑞兆現ると誇いだといふ、後に遼東の豚は殆ど白頭にして珍奇なものでないことが判り人の少見多怪（見聞狹くして驚き易き性質）を比喩するに「遼東豚」と稱するやうになつたが、帝政實施後第一回の新年を迎へ、而も乙亥の年即ち豚年を迎ふるに方り、世界諸國は倘も白頭豚の住む滿洲國より「遼東豚」の比喩を貰はんとするが偶然の巡り合せとはいへ世界各國の偏狹にして少見多怪なる觀眼は豚年一ケ年間の冷笑に値するものであらう

新年雑詠

長谷川かな女

明治神宮初詣

御垣守仰ぐや森の初鷄

初鷄眞杉匂うて來りけり

御燎火守る少年團に淑氣あり

竹青く滴る御手水に初明り

神の春正しく東の御拜殿

賀正

大連

大連株式商品取引所
商品取引人組合

大連市敷島町四九
大連五品代行株式會社

大連市愛宕町三九
大連錢鈔取引人組合
組合長 首藤定
劉仙州
副組合長 任召南

大連市日吉町一
滿洲製麻株式會社
井上輝夫

總本店 近江洋行
大連市浪速町二丁目
電話代表二―四四四六番
支店 青島・奉天・錦州・朝陽

奥田時計店
大連市浪速町三丁目
電話二―六七三一番

大林組
高橋誠一
大連市東公園町技術會館

復州鑛業株式會社
大連市山縣通大倉ビルデング内
電話二―六七一五番

長谷川坂本組
長谷川甚雄
坂本泰通
大連市神明町六番地

火災生命保險
建築材料卸商
田崎建材合資會社
大連市若狹町四五
電話(三)二―四七一九番
振替大連二一〇番
電信略號(タ)(タサキ)

大倉土木株式會社
大連出張所
加藤眞利
大連市山縣通(大倉ビル)

岡組
岡常次郎
大連市東公園町六五

榊谷組
榊谷仙次郎
大連市能登町一五

高岡組
高岡又一郎
大連市紀伊町二六

機械工具各種商
杉元商店
杉元篤衞
大連市連鎖街榮町通
電話(三―三八八七 五七九八番)

建築材料
藤川商店
大連市入船町二
電話二―四六三九番

―營業科目―
煖房衞生水道工事
防水保温材料及工事
タイル衞生陶器建築材料
一般藥品理化學器械
松澤商會
大連市監部通二十一番地
電話(代表二―六一〇〇四 六一〇〇五)
店主用二―三三一五 三三〇一
振替貯金大連一一〇
支店 奉天、新京、ハルビン

大連市浪速町三丁目
陶磁器 世帶道具
岩倉洋行
電話(三―四六〇五 八四八七番)

大連市浪速町一四七
横山呉服店
電話二―五二三五番

大連市浪速町三丁目
㊂丸三呉服店
電話(三―六五五四 八二〇五番)

營業品目(鋼鐵材、建築材料 諸工業機械、雜穀肥料)
株式會社 大信洋行
大連市監部通四九
大阪支店 大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店 奉天小西關大街
銅鐵工場 大連市香取町六番地
製油工場 大連市千代田町十一番地
倉庫部 大連市東鄉町二五番地

ビクター蓄音機滿洲代理店
山葉洋行
大連市信濃町
電話代表二―四一四八番

滿洲水産販賣株式會社
大連市加賀町四番地
電話(二―四五八一 六三三四番)

藥品貿易商
株式會社 乾卯商店大連支店
大連市山縣通
電話(二―三〇一七 五六〇九)

カメラの店
大連 木村洋行
電話二―六七四九番

遼東百貨店
大連市浪速町大山通角

食糧品卸商組合(いろは順)
爾宜田商店
中村榮吉商店
松井商行
三星洋行
京和洋行

滿日、大毎、內地各地新聞販賣
辻山洋行新聞部
大連市山縣通六四
電話(三―三七四六 五〇〇〇番)

建築材料石炭販賣
德和公司
大連市近江町二
電話二―六一八一番

滿洲金物株式會社
大連市伊勢町五五番地
奉天支店 千代田通三七番地
新京支店 永樂町二丁目一番地

月星サイダー製造
月星合資會社
大連市西通
電話(長)二―四五七二番

大連市浪速町
大阪屋號書店
電話三―五七九〇番・三―五一八八番
振替大連五五五番
分店・大連市連鎖商店街
本店・東京・支店・旅順・奉天・新京・京城

東亞煙草株式會社

大連木材商組合

永順洋行
大連市大山通
電話(二―四三三九 四八六八番)

日本賣藥株式會社
大連支店
大連市浪速町一四七
電話二―六一三九番

大連油脂工業株式會社
大連市香取町二七
電話代表二―六一七一番

大連百貨店
大連市浪速町三丁目
電話二―四六五四番

政記輪船股份有限公司
總理 張本政
大連市監部通三九
電話代表二―四一四一番

滿洲特産輸出貿易商
瓜谷長造商店
大連市山縣通一三七番
電話(長)二―四四二六番 二―三三三六番 二―七七六四番
發電略號(ウ)又は(ウリ)

關東州酒造組合

關東州辯護士會一同

文具繪書品
測量度量衡
內田洋行
大連市連鎖街銀座通
電話(三―六九二九 四八五九番)

株式會社 南昌洋行大連支店
大連市山縣通八八
電話代表二―六一一一番

博多屋本店
大連市磐城町八九(西通筋)
電話二―四四五三番

文具の天野
浪速町 翰墨林
電話二―四九九四番

船具金物機械、諸油塗料
岸洋行
大連市監部通二七
電話二―四三七六・二―六四二〇番

株式會社 大連車夫合宿所
大連市八幡町二番地
電話二―六〇二〇番

大連人力車 乘用馬車組合
大連市八幡町二
電話二―七〇三八番

レデーフヰンガー
花あられ・フライビンズ
タフヰー・ヌガー類
煎豆・掛物類
衞生ボーロ・罐詰・折詰 製造卸
大連市若狹町一九九
木村屋
滿洲國部
電話(長)二―六八六八番
振替大連一三〇八番
電信略號(キ)又は(キマサ)

大連市監部通五六
菊正宗發賣元
鐵谷商店
電話二―七〇四二番

宇治茶
大連市浪速町三丁目
辻利大連支店
電話二―四七七六 三三八七

大連運動場前(不老街二三五)
齒科口腔外科 レントゲン科
芳賀醫院
芳賀善吾

品川洋行
高堂武則
大連市敷島町三
電話二―二六四五〇番

大連市浪速町四丁目
日吉商店
電話二―四八三九番

馬具販賣部
浪速町扇芳ビル前

神戸屋株式店
大連市敷島町五品ビル二階
電話(二―八五四〇 二八八六番)
支店 大石橋大正街三番地
電話一一一番

糸ボタン
大連市浪速町
丸岡糸店
電話二―七二〇〇番
新京百貨店内
丸岡糸店
電話三一六一番

池田小兒科醫院
院長 池田嘉一郎
大連市西通三六
電話二―六三六五番

尾形醫院
院長 尾形一郎
大連市若狹町
電話二―七七七六番

金子小兒科醫院
院長 金子甚藏
大連市西通七八
電話二―七六六一番

探偵小說 曲馬團綺譚

大下宇陀兒

いくつの時であつたか、ハツキリは覺えてゐないが、その時の騒ぎだけは、未だに敬三の腦裡に、浮彫のやうに刻まれてゐた。

多分、八つか九つの時であつたらう。三つ下の妹が突然居なくなつてしまつた。何でも大賣出しの赤い旗が、どこの店頭にもハタハタと動いてゐたことを記憶してゐるから、師走ももう押詰つてからの事であつたらう。

近所の子供と遊んでゐた妹が、昔話に聞いた「神隱し」のやうに突然姿をくらましてしまつたのだ。

それを知つたのは、もう暗くなつてからで夕御飯に呼ばうとした母が、あの子はどこへ行つたんだらう、と、別に心配もなく言ひ出してからの事であつた。

「さつき酒倉の前で、歌をうたつて遊んでゐらつしやいましたよ。あれは確か隣のおみよちやんとでしたか……」

薪割りの爺さんは、何でもなく言つた。

さう言へば、母の耳にも娘達の歌ふ、照る照る坊主……の歌がホンのさつきまで聞えてゐたやうに思はれた。

「あの子はいつまで遊んでゐるンだらう」

母はこの忙しい時に、と言はぬばかりにブツブツ言ひながら、酒倉の前や、ごろごろしてゐる桶の中を一つ一つ覗いてみたが、娘の姿は見つからなかつた。

（隣のみよちやんに聞いてみたら……）

母は裏門から、通りに出て、隣の裏口へ首を出した。

「ひよつと家の娘はゐませんか」

「……あらツ居らつしやいませんか——、いつもみよがお邪魔ばかりして」

おかみさんが、前掛けで手を拭き拭き出て來た。

「え！、さつきまで、お宅のおみよちやんと遊んでゐたさうですが……」

さういふ聲が終らぬうちに、どこからかおみよちやんが飛んで來て、

「陽子ちやんは、どツかの叔父さんに、お菓子を貰つて一緒にあつちへ行きました」

母も隣りのおかみさんも思はずおみよちやんの顔を覗き込んだ。

「あつちツて？」

「あつちよ」

おみよちやんは、ちよこちよこ走りて、裏の通りまで出ると、町はづれの方を指した。

其の方角には、T市に通ずる××電車が、夕闇の中に時々ポールから火花を散らして走つてゐた。

——敬三は母の傍にくツついてゐて、この時の不安な心持を、今でもハツキリと覺えてゐる。

それから、陽子は遂に戻らなかつた。

「人淩ひに淩はれたのだらう」

それは諦め切れぬ言葉であつたが、もはや搜索の手段も盡きた。

毎日々々、三度々々、主のない膳が据ゑられて、十五年の月日が經つた。

そして、敬三はT市の商業學校を出ると、この町でたつた一軒の造酒屋の若主人となつた。

「敬さん、隣村に曲馬が掛かつたさうだが、もう見物に行かれましたか」

ある日、酒を仕入れに來た小料理屋の親爺が、御注進と言はぬばかりの顔で報告した。

敬三はサーカスや輕業の類がかゝると見逃さなかつた。三里、五里といふ道程を自轉車で飛んだ。

「へえ、そいつア知らなかつた。いつから掛つたのだね」

「今日からですよ。さても大掛りで馬が十頭ほど來て、隣村では大騒ぎです。何しろ今年は本祭ですからなア」

「——馬が十頭、そいつア曲馬團だな。ぢやア、これから一つ出掛けてみやう」

「若い女の子も澤山居りますよ」

急に親爺が手柄顔な口吻でいふのだつた。

敬三はすぐ背廣に着かへて自轉車に乗つた。

村の南端にある明神の森に近づくと、もう賑やかなヂンタの音が聞えて來る。大テントの前には幾本かの幟が立つてゐて、人が黒山のやうにたかつてゐる。敬三は自轉車を預けて、その前に立つたが、こんな大がゝりなサーカスを見るのは初めてゞあつた。さつきの親爺が言つた通り、曲馬に使ふ馬が十頭、つり下げられたまゝ、いくさ幟の中に首を突つ込んだり、地べたを足で掻いたりし、その上には、眞白に白粉を塗つた踊ッ子達が、きやつきやつと騒いでゐるのであつた。

敬三はなぜかその時、妹の顔をふと思ひ出した。

大テントの中は、もう、人でギツシリ一杯で、敬三は漸く棧敷の一ばん隅がつてゐる端のところに立たされた。足許がグラグラして底の方から埃つぽい風が吹き上げて來る。

その時舞臺では、恰度綱渡りが始まらうとして、下でシルクハットの男が何やら口上を言つてゐるところであつた。

敬三は恰度、その綱渡りの太いロープが轆轤にかけられてゐる場所にゐたので、白絲手がそのロープにかゝつた。だが、ロープはキーンと強く張られてゐるので、たとへそこへ體の重みを全部かけたところで、ビクともするやうなものではなかつた。

下の方で口上が濟んだらしく、藍色のピカピカ光る繻子の眞赤な女袴をはいた若い娘は、右手に蛇の目傘を高く掲げてそのロープを渡り出した。

やがて娘は中央まで來ると、片足上げたり、今にも落ちさうな姿……

賀正 西暦·1935· 大連

謹賀新年

皇紀・2595・

大連・吉林

大連

大連市内中等學校長一同

大連市山縣通一九四
㊀丸一公司
電話二―五九五四番

大連市山縣通六八
田村商會
電話二―三九〇七番

銘酒白雪 サクラビール 丸長醤油
鈴鹿商店
大連市伊勢町一一三
電話二―四八五八番

化粧品直輸入商
獨逸モーソン會社謹製
ベルケンワーサー特約一手販賣
高新洋行
大連市伊勢町二
電話二―八二五九番

洋服、毛皮、絹物専門
最新米國式無水清淨
寶ドライクリーニング商會
大連市彌生町四番地
電話二―八三一六番

大連市磐城町
外海洋行
電話二―四一六二三九番

大連市伊勢町四四
パレー商會
電話二―八四〇二番
メステル毛皮商會
大連市大山通四八(久保田齒科醫院隣)

大連市大山通六四(森本醫院隣)
シベリヤ毛皮商會
電話二―三六五六番

三好野
大連市磐城町
電話二―六五一二番

大連市信濃町四四
日本橋藥局
藤原勤雄
電話二―八三六二番

東郷旅館
大連市信濃町三五
電話二―八一六七番

天津號甘栗店
大連市伊勢町九〇
電話二―四〇二三 二―八六二九番

大連市伊勢町三二番地
和洋食料品 和洋生菓子
甘味舗
電話二―七二三二番

ワイシャツ製造販賣
不倒子
大連市伊勢町一〇二
電話二―八二一〇番

大連市浪速町七
菱川大昌堂藥局
電話二―七八九三番

大連市近江町
ばら屋花環店
松原德藏
電話二―三九一〇番

大連市伊勢町九四(西廣場近)
㋜三河屋布團店
電話二―七八九九番

大連市常盤橋
みなと屋菓子舗
電話二―二六六〇 二―六八五〇番

大連市浪速町一五〇
料理ほてい
弓削ハツ
電話二―八五〇九 二―八七五六番

ラクダ屋本店
大連市磐城町五二
電話二―五七四八番
支店 大山通二四 電話二―三六一九番

滿鐵特約販賣人
佐藤組　電話二―四八七八番
共同組　電話二―四三〇九番
鶴田號　電話二―六〇〇〇番
熾昌厚　電話二―四六七三番
宮崎商會　電話二―五三一九番
東華公司　電話二―五六四五番
東萊洋行　電話二―八四八四番
大宮組　電話二―五六六一番
大連石炭商組合

發賣元 合資會社 白鹿商店
白鹿
白鶴　同　合名會社 嘉納大連支店
澤龜　同　宅の店
櫻正宗　同　灘屋
加茂鶴　同　黒岩大連支店
忠勇　同　増屋
富久娘　同　富久洋行
澤之鶴　同　藤井商店
都菊　同　合名會社 肥塚商店大連支店
菊正宗　同　鐵谷商店
月桂冠　同　京和洋行
白雪　同　鈴鹿商店

大連綿糸布商組合(イロハ順)
伊藤忠商事株式會社 大連出張所　大連市山縣通
日本綿花株式會社 大連支店　大連市山縣通
日本蠶糸株式會社大連出張所 瑞寶　大連市山縣通
東洋棉花株式會社 大連支店　大連市山縣通
藤沼洋行　大連市紀伊町
株式會社 大信洋行　大連市監部通
又一株式會社 大連出張所　大連市山縣通
上野洋行　大連市山縣通
株式會社 丸永商店大連出張所 不破洋行　大連市山縣通
江商株式會社 大連出張所　大連市山縣通
株式會社 永順洋行　大連市大山通

大連市惠比須町一六〇
香壽美
電話三―一〇三六番

大連市老虎灘
千勝館
電話二―七〇四六番

スポーツ麻雀は定評ある
大三元麻雀倶樂部
大連市磐城町七(日活館裏)電話二―二〇一九番
宮崎仙三

吉林

吉林省公署
省長 李銘書
總務廳長 三浦碌郎
民政廳長 趙汝楳
警察廳長 河内志郎
實業廳長 羅振邦
教育廳長 張書翰

永吉縣公署
縣長 李科元

吉林大同林業事務所
村岡元市
木下秀教

吉林金融組合
吉林精米所
理事 金世元

カフェー
日滿會館
吉林怡春裡
電話二八四三

吉林税務監督署
署長 劉紹衣
副署長 早借喜太郎

㋩株式會社 林兼吉林冷凍販賣部代理店
陸軍諸官廳御用達
若葉温泉
昭和アパート
若葉食堂
桝田良男商店 吉林支店
本店 安奉線連山關

吉林警察廳
廳長 孫仁軒
外職員一同

丸重洋行吉林支店
岸原兼次郎
吉林驛前

吉林市政籌備處
處長 徐桓家

石炭販賣業
南昌洋行
吉林商埠地

日滿印刷社
大高和三
吉林驛前

協和會吉林事務局
事務長 高須祐三

滿鐵吉林事務所
所長 野中時雄

吉林阿片專賣所
所長 吳世澤

書籍文房具
滿洲日報販賣店
大和書店
吉林新開門

滿洲國立
吉林戒煙所
職員一同

喪中に付き年賀缺禮仕り候
新京鐵路局吉林駐在員事務所長
本田立靜

國際運輸株式會社吉林支店
支店長 宮本登

滿鐵吉林東洋醫院
院長 齋藤源次郎

吉林旅館組合
名古屋ホテル
松屋旅館
金水旅館
初音旅館
大阪旅館
東京旅館
日清ホテル
近江屋旅館

吉林日本小學校
校長 寺田政吉

吉林同文商業學校
校長 佐久間弘雄

滿鮮坑木株式會社吉林支店
支店長 前田利則

吉村劇場
吉林大馬路
電話二九〇〇

吉林料理店組合

土木建築請負業
大内組
吉林新開門

吉林朝鮮民會
民會長 姜老永

吉林木材興業株式會社
吉林東大灘

平和アパート
吉林七經路

新京鐵路局吉林駐在事務所
職員一同

喪中に付年賀の儀缺禮仕り候
富吉號 吉林新開門
今村知光

喪中に付年賀の儀缺禮仕り候
吉林驛長
山本澄江

金森洋服店
吉林大馬路

松村齒科醫院
吉林商埠地五經路
富士ビル内

吉林日本人居留民會
民會長 堀井覺太郎

吉林新聞電報局
局長 荻沼英雄

二葉パン店
店主 長岡清五郎
吉林商埠地六經路
電話三六〇一

賀正

西暦・1935・

大連

大谷藤七支店 大連市浪速町三丁目 電話二─七〇四一番

榮商會蓄音器店 大連市伊勢町五二 電話二─八三九〇 大連市連鎖街心齋橋通 電話三─二二〇七 大連市大正通り 電話四九九六二

日滿通信社 社長 津上善七

三島屋洋服店 大連市岩代町八 電話二─六五四九番

マツヤ洋服店 大連市連鎖街常盤町通 電話二─八八八八番

露西亞毛皮商會 大連市大山通り三十六番地(林洋行隣) 電話二─一八一八番

諸官衙御用達 三陽疊店 土居三二 大連市近江町三三番地 電話二─三二七三番

夏木瀬印刷所 大連市岩代町四三 電話二─六三三七番

和洋雜貨 野崎洋品店 大連市浪速町三丁目 電話二─三二七九番 大連百貨店内 十番洋品部

山本運動具店 大連市伊勢町九四 電話二─五九七九番

活版、石版、印刷、紙、文房具、印刷材料 小林又七支店 印刷部 大連市若狹町三三 電話代表二─六一六一番 販賣部 大連市大山通六三 電話二─六二二七番

日清石油株式會社 大連市寶町三 電話二─四一六五番

藥種賣藥 石川萬壽堂 大連市信濃町一二三 電話二─四三四四番

亞細亞毛皮商會 大連市大山通(正隆銀行前) 電話二─七五六一番

吉野洋服店 大連市山縣通一二九 電話二─四九四六番

大連西崗商會 會長 周子揚 副會長 王文川 麗睦堂 電話三─四五八八番

礦油、酒精、金物、機械、保險 出光商會支店 大連市山縣通八〇 電話代表二─六一九一番

電池器具販賣並に工事請負 佐藤電氣商會 大連市伊勢町浪速町角 電話二─六七六七 二─七〇三九番

寫眞機械材料、活動寫眞機械、材料直輸出入 橋詰洋行 大連市大山通 電話(長)二─六〇五五番 振替大連三一四二番 電信略號(ハ)(又)(ハシ)

諸機械器具農具商 蘆田洋行 大連市山縣通六三番地 電話(長)二─三四〇六番 振替口座大連四二三〇番

株式會社 三共藥品販賣所 大連市山縣通一八一番地 前川郁夫

溝上洪盛堂藥舖 大連市伊勢町 電話二─七〇八〇番

袋布向春園 大連市浪速町四丁目 袋布要太郎

ニチロパン 日露洋行 大連市浪速町四 電話三─六六六一番 連鎖街小賣部 電話三─二一三二番

イワキホテル 大連市監部通吉野町角 電話代表二─七一六一番

伊勢屋寢具店 大連市伊勢町五二番地 電話二─四六五五番

栃木農園販賣所 大連市伊勢町 電話二─四四〇九番

果實商 ミノルヤ果物店 大連市西通一一五 電話二─三八七三番

鰻料理 黑松 大連市浪速町一七七 電話二─四四四七番

大連飲食店同業組合聯合會

吉川組大連支店 大連市西公園町四三番 電話二─三二九一番 二─六三九三番

不動產管理處分 株式會社 鴻業公司 大連市山縣通一四二 電話二─三六二九番

轉ばぬ先の杖、不慮の災難にこの保險 大連火災海上保險株式會社 大連市常盤橋中央ビルヂング 電話(長)二─五四一二番 二─三五六一番

日本ペイント滿洲販賣株式會社 大連市山縣通二一 電話二─三八二三番

東亞土木企業株式會社 柳生龜吉 大連市東公園町二一番地

日本タイプライター株式會社 大連支店 大連市山縣通 電話二─八四七一番

輸出入、土木建築、倉庫、保險 機械類一切自轉車、鑛油、揮發油其他 建築、土木一切、諸雜貨、食料品類 保險會社代理店 福昌公司 大連山縣通 電話代表二─七一七一番

大連埠頭構内 福昌華工株式會社 電話代表二─四五一〇番

取扱主要品目 特產雜貨 大豆、大豆粕、大豆油、雜穀 米、小麥、麥粉、砂糖、鑵詰類 機械其他 金屬、石炭、鑛油類、一般機械 並電氣機具及化學肥料其他 三菱商事株式會社大連支店 大連市山縣通一六五 電話代表二─八一五一番

株式會社 宅の店 大連市大山通 電話代表二─五一九九番

大連製氷株式會社 大連市常盤町二三 電話二─四八七三・二─五四八〇 電話二─六三一三番(信濃町)

王子製紙株式會社代理店 鴨綠江製紙株式會社一手販賣店 株式會社大同洋紙店 大連出張所 大連市山縣通百貳拾五番地 電話(大連)(長)二─八五八〇番 (大連)二─三九八五番 本店 大阪市東區安土町二丁目三十七番地 支店 東京、名古屋、京都、福岡 出張所 上海、天津、香港、青島 新京、門司、熊本、臺北

在大連 社團法人 滿洲土木建築業協會 大連市山縣通一五八番地 電話二─二三四三 二─四六二三番

遼東ホテル 大連市大山通 電話代表二─三一七七番

日本航空輸送株式會社 大連支所 大連營業所

滿洲內燃機株式會社 大連市入船町 電話二─一八六〇 二─三三八番

株式會社 安宅商會大連出張所 大連市山縣通一五五 電話二─四四六〇番

株式會社 山田商店 大連市奥町 錢莊部 二─五一三五番 證券部 二─六一六八番 株式市場 二─四四七七番

滿洲石油株式會社 大連市外海猫屯會甘井子 電話四─〇二八三番

滿洲煖房衛生同業組合 事務所 大連市東公園町三五番地 技術會館内

久保田寫眞製版所 武藏町六六 電話二─八六三一番

門松のいはれ

莫也生

津々浦々の、それこそ賤が伏屋に至るまで、正月に門松を立てゝ祝ふのは内地の慣らはしであるがその門松には松ばかりを立てる家もあれば、また松に竹を添へて立てる家もあることは誰しも知つての通りである。

そんなら門松は何の意味で立てるかといへば、それは無論芽出度いから立てるに極まつてゐるが、同時にまた邪氣を祓ひ災厄を除くといふ意味をも含んでゐることを知らなければならない。

一體この松や竹はいはゆる十長生のうちに數へられてゐる。十長生とは不老長生と考へられる十物を指したもので、日、山、水、石、雲、松、不死草、鶴、龜、鹿といふとの說もあれば、日、月、山、水、松、竹、靈芝、鶴、龜、鹿といふとの說もあつて、區々で必ずしも一定してゐないやうであるが、とにかくも松や竹はその一に擧げられてゐることは疑ひない。

日、月、山、水、石、雲などは別に說明を加へるまでもないとして、不死草は卷柏即ちいはひばのことで土氣もないやうな石の上にも育ち、鉢植などにして碌に水を與れないでも四時青々として容易に枯れない草木、滿洲にはハリガネヒバといふ一種が殊に多い。靈芝はまんねんたけと名づけるところのこしかけと同じ類の硬菌の一つ普通の蕈と違つて年を經れば經るほど石のやうに堅くなつて漆光りがして、ちよいと珍なものであるから風流の人がよく床飾りなどにする。鶴は千年、龜は萬年の諺を保つといはれるむかしから芽出度いもの、鹿は遠く塵界を隔てた山中に靈氣を吸つて育つ仙獸とあつて、ちやうど冬至の頃から生え始めるその袋角は不老不死の壯陽劑として知られてゐる。

松や竹はこれらと共に十長生に並び稱せられてゐるくらゐであるから、縁起をかついでこれを祓禳に用ひるわけでがなあらう。内地では神官がお祓ひの際に用ひる玉串は榊と極まつてゐるが、朝鮮の庚申樣には松を用ひるし、朝鮮では松や竹を神將杖（シン・チヤン・グ・シ・ティ）と稱して現にこれを内地の榊ところに用ひ、巫女が降神の行をする際にそれでお祓ひをする慣らはしである。

して見れば門松はつまり舊年内の邪氣を祓ひ淨める一方來年中の災厄を攘ひ除く爲に立てるので、かくてわれ〳〵は心身共に神の御前に出たやうな穢れのない清々しさとなつて、芽出度い新玉の年の始めの喜びをことほぐわけなのである。

▽……△

門松はひとり我が内地の俗であるばかりでなく、吉林と寧古塔との間に散在する純粹の滿洲人の新年の行事でもあるので、その起源はいづれも薩滿教（シヤマニズム）から出發してゐたことは疑ふべくもない。

滿洲は支那を征服したが滿洲人はあべこべに支那人から征服されて了つた、といふ諺もある通り女眞の餘蘖たる愛親覺羅氏はいはゆる白山黒水の奥區より龍興して清朝を樹立し、支那四百餘州に君臨すると同時に統治の必要上、同族を擧つて四百餘州の重地に分駐せしめたが、これらの滿洲人が支那人の爲に忽ち同化されて了つたことはいふまでもなく、發祥の郷土にその儘居殘つた滿洲人も亦、封禁の制度を無視してドシ〳〵入込んで來た支那人の勢ひに押されて改易を餘儀なくされた。

そこで純粹の滿洲人といへば今日は最早吉林省の山間僻地にしか見られぬまでに逼塞して了つた。純粹の滿洲人の家は大抵切妻風の木造草葺で屋根の上に千木がしつらへてあり、屋敷のぐるりには杭を並べて打込んだやうな垣根を繞らし、門は内地の鳥居そつくりの恰好をしてゐる。敦化即ち敖東城、額木索、寧古塔あたりの滿洲人の家はすべてかうした作りで、わが古代もかくやと偲ばれるのである

この鳥居に似た門構へは朝鮮の咸鏡道あたりにも見るところで、女眞の遺風であるとは論るまでもない。實にこの門構へは單に出入口の裝飾に過ぎない、と解釋するには餘りに無意味である。といふのは現に咸鏡道から北間島へかけての僻地へゆくと、峡氓の侘田郞七屋敷は柤（こゝでは萩と訓む）や柳の枝をおろし、それを編んでほんの囲ひをした丈のことで、北塞記略に

「垣墻なし、繞らすに籬を以つてす。柤を織り或は柳を編みてこれを爲くり、門扉を設けず。」

とある通り、その出入口には特に門といふほどの設けはない。かういふのは北滿の僻地にもざらに見られるところで、これでも濟まして濟まされぬことはないのに、どうして態々鳥居に似た恰好の門構へをしつらへるのであらうか。そこには何等かの特殊な意味がなければならない

▽……△

そこで端なくも思ひ合はされるのは紅箭門（フング・サル・ムン）である。京城見物のプログラムの一として見落してはならぬものに西大門を數丁北寄りの舊義州街道に縁うて獨立門が聳えてゐる。この門はずつと古いころ紅箭門といつたのを明使の送迎をそこでするに因んで迎恩門と改め、日清戰爭後韓國の獨立を記念して改築の上更に今の名を呼ぶやうになつたものである。紅箭門にもかうした堂々たる石造の立派なのがないではないが、普通は二本の細長い柱の間に二本の欄を横に渡しその下欄から上の欄を突貫いて束を幾本となく列め、額束の上の欄を抜いたところが、火焔を形取つたやうな恰好になつてゐる。大抵は木地のまゝであるが、中には總體朱塗りにして束だけを青緑に染めたものもあつて、ちやうどお寺の仁王門と同じ思考と見れば可い。

この紅箭門は城里とか陵墓とか寺觀とか書院とかの見付に立てられてゐるもので、一名を除厄門と呼ぶ通り災厄除けの爲めである。

前に述べた咸鏡道の朝鮮人や、吉林省の滿洲人の特殊の門構へは畢竟これと同樣のもので、更におしひろめていふなれば、内地の人家の門構へも、お寺の山門も、神社の鳥居も、元をたゞせばいづれも紅箭門即ち除厄門と別段の變りはない。形こそ違へ、鳥居には七五三繩を張り、山門には仁王樣が目を剝いて力んでゐるし、家門にはわれ〳〵が縁起を擔ぐ場合に淚の花を盛る、その心は同じこと——邪氣を祓ひ災厄を除く意味に他ならぬのである。

それであるから、滿洲人の門構へが鳥居に似てゐるのではなくして、實は鳥居そのものなのである。

て中には門構への外に紅箭門を立てたのを咸鏡道邊りでも好く見かけることがあるが、これは馬鹿丁寧なわけでその家の主人も恐らく何の意味か分らずにゐるのではなからうかと思はれる。序ながら迪化の烏梁木齊は蒙古語で赤寺の義であり、以前朱塗の大刹があつたのでその名を得たと聞くが、もしさうとすればこれも何となくお稻荷さんの赤い鳥居と、前に說く朝鮮の紅箭門とに由縁があるらしく思へる。

▽……△

かく突き止めれば正月に門松を立てる意味はハッキリとして來るわけで、薩滿教の神事に基くものであることは推測に難くあるまい

薩滿教といふのは今日では、

ベーリング海峡を挾む極北海岸に住むエスキモー族

アレウト及モレントル諸島に住むアレウト族

黒龍江から樺太の北部に住むギリヤーク族

わが北海道、樺太の南部等に住むアイヌ族、勘察加の南部に住むカムチヤダール族

アナチル河から北氷洋の間に住むチユクチ族

アナチル河から勘察加の中央にかけて住むコリヤク族

アナチル河の上流から中流にかけて住むチユヴアンチス族

ヤナ河の下流からコルリマ河の下流にかけて住むユカギル族

エニセイ河の流域に住むオスチヤク族

ウラル山からトボルスク間に住むヴオグル族

西伯利亞の北極地方に住むサモエデス族

西南西伯利亞に住む土耳古族

西部蒙古のカルムック、喀爾喀族

北部蒙古のブリアートを含む蒙古族

東部西伯利亞一帶の地方に住む通古斯族、即ち純粹の滿洲人を始めとしてマネグル人、ゴルヂ人オロツコ人、ラムト人、オロチヨン人、チヤポギル人、索倫人等の間に餘喘を保つてゐるに過ぎないが、ずつと大むかしは廣く歐亞に亘り普及してゐたもので、支那、朝鮮、日本内地も亦固よりその教化に洩れなかつた、さうして老荘の流を汲むいはゆる道教はその匂ひのプンと來るもので、こんなことをいつてはお叱りを蒙るかも知れないが、わが神道はその最も進化したものに他ならない。

薩滿教の教理は善惡二元論から出發してゐて、從つてその最も重きを措くところは善神を迎へて惡鬼を逐ふ祓禳の儀式であり、新年の行事はその一に屈せられる。そこで

門松や神代のことも懷はるゝ

といふ十八字がわれ〳〵の胸にピンと來るわけである。

正月に門松を立てるのは日本内地と北滿の片田舍とに限られてゐて、薩滿教に近い原始教が未だに流行つてゐる朝鮮には、不思議とさうした習慣はないやうであるが、しかし巫女が度厄神祀（アイク・マク・イ・クッ）と稱して、毎年正月の十五日に一年中の厄祓ひをする際に松や竹を用ひることを思ふと、萬更由縁がないともいへまい。

新年に因んで門松のいはれを繙けばざつとこんなものである。

（をはり）

サラリーマンの正月日記

春

前田夕暮

空に新しい友情を感じる。空は私の上に青い翼をなげる

季節の色感が私のこころを新らしくする。みやくみやくとして來る春！

○

楢の梨いみづきの上の空からくる哀歡は春でしかない

さかき、青木、冬青などのぬれた葉つ葉の上に、翳もたぬ空。春でしかない

私は空をみてゐる。空は私をみてゐる、はつきり春を意識して

賀正

大石橋・四平街・蓋平

四平街

四平街地方委員(順不同)
稻川淺二郎
富田登二
伊藤新八
田中佐重郎
添田澤三
竹村石次郎

趙漢臣
林寛一

四平街地方事務所
所長 下田一夫

四平街市民協會
會長 鶴見次世

處長 韓景堂
副處長 飯村憲吉

四平街驛前
植半旅館
電話三〇番

四平街驛前
小松屋旅館
電話一二六番

四平街
信和洋行 電話一九番
松昌公司 電話八番

四平街
火曜會

四平街滿洲日報支局
櫻井敎輔 電話一三三番
滿洲日報販賣店
菊池洋行 電話三二一番

營口縣警務局第二區警察署
署長 王再春 電一三三番

大石橋高等小學校
校長 孫金凱 外職員一同

營口縣第二區長 協和會大石橋分會
副區長 孫廣迂

大石橋長記精房
經理 崔興發 外職員一同 電一一三番

信愛菜士圖
經理 吳樂三 電一一六番

大石橋滿洲街商務會
同豐號經理
會長 王玉階 外職員一同 電一四九番

大石橋鎭商務會
福興和經理
會長 張香九 外職員一同 電七一番

大石橋鎭商務會副會長
大信永銀號
經理 郭子陞
總記 上野武次郎 外職員一同 電一一五番

營口縣第四區
聖水寺村長
陳振民

大石橋鎭商務會董事
東永興經理
高耘綾

經理 高振東

大石橋朝鮮人民會長
鄭在龍 電一四一番

大石橋東成學校
校長 金演 外職員一同

大石橋

大石橋
三浦貞三

大石橋地方事務所
所長 松田進

大石橋郵便局長
杉田萬

大石橋電信電話局長
重信二郎

大石橋滿鐵病院長
醫學博士 仁科泰

大石橋高等小學校
大石橋家政女學校
校長 蘆田養藏 外職員一同

大石橋地方委員
議長 小林才治
副議長 山下義明
委員 赤倉龜次郎
伊藤諫次郎
愛甲直剛
川西重作
藤井正一
尾藤龜松

大石橋機關區員一同

大石橋保線區員一同

大石橋列車分區員一同

大石橋保安分區員一同

大石橋檢車分區員一同

大石橋會館組合
理事 高梨源三

大石橋輸入組合
理事長 小林才治

大石橋圖書館
土山觀一 外職員一同

滿洲硝石商會 電一〇六番

大石橋電燈株式會社
專務取締役 愛甲直剛

海城昌平街三五
日滿合辦 滿洲硝石股份有限公司
董事 孫富蓍
專務 小林克 電一二番

蓋平電業股份有限公司
總經理 侯顯談
專務 愛甲直剛

南滿鑛業株式會社 大石橋工場

大石橋
白川洋行

御旅館
梅廼家 電七番

末廣旅館
荻野十太郎 電四三番

雜貨洋行
西島常次郎

マグネシヤクリンカー製造販賣
福井組
藤井正一 電六二番

陸軍御用達
石川洋行 電四一四番

間島省延吉縣延吉市
延吉洋行 電三〇二番

間島省延吉縣明月溝
明月溝出張所 電五八番

間島省汪清縣百草溝
百草溝出張所

南滿三角地帶蚰巖
蚰巖出張所

マグネシヤに關する工業
滿洲產ピキラガ手工材料
大石橋福元號
福元伊六
電話一〇四番

滿洲殺粉工業合資會社
大石橋迷鎭街工場 電一三七番

陸軍御用達
遼陽石川洋行大石橋支店 電一四三番

御料理
福住 電一一番

カフエードン 電一一九番

御料理
日本館 電一〇番

御やすい
梅月旅館

御料理
滿洲館 電一〇九番

乘店
古原幸政 電一四五番

御仕出し
福住庵 電五一番

松島牧場 電六三番

諸新聞取次 代書業
細野芳枝 電四四番

大石橋商店協會

圖書文具 印刷
石文堂 電二八番

和洋雜貨 蓄音機
かぎや商店 電五九番

吳服商
みすみや 電一二五番

和洋御菓子 陸軍御用達
日新堂 電三〇番

履物商
木村洋行 電三七番

吳服商
旭商行 電七四番

世帶道具 式金物商
高田商行 電五八番

製靴商
內藤靴店 電二九番

食料雜貨
永井商店 電五六番

時計 貴金屬商
川崎時計店 電四六番

陸軍御用達 和洋御菓子
三河屋 電五七番

和洋御料理 御仕出し
扇家 電一五〇番

カフエーリリー 電一二四番
フサ子・キヌ子 ユリ子・ケイ子 ヤス子・コシイ子 サトミ

カフエー中央亭 電一二八番
園子・美子 澄子・千鶴子

蓋平

南滿驛長
松橋秀造 外驛員一同

海城驛長
木村鐵次郎 外驛員一同

他山驛長
高木正甲 外驛員一同

分水驛長
松田敬次 外驛員一同

太平山驛長
田坂富藏 外驛員一同

蓋平驛長
鈴木松太郎 外驛員一同

大石橋驛員一同

ツンドラ應用滿布藥帶本舖
廣津三角堂 電一二〇番 振替大連六一八〇番

井上齒科醫院
井上竹二郎 電一二四五番

大關信之助
大石橋錦街三番地 電一五一番

營口洗布所支店 電一一二番

大石橋洗布所

御料理 御仕出し
いそはま
ひでこ さるこ 電五三番

白米商
滿一洋行
主 李鉉世 電長一四六番

伊藤煤炸局 電一一二番 電七七番

和昌公司 電七七番

貿易商 雜貨商
池山當
店主 池山國藏
主任 楊乃彬
外店員一同
大石橋石橋大街九九

シーガーミシン
大石橋分店
田口一男

北美屋洋服店
主 富光 電話出一四二番

竹內文藏

天津毎日新聞大石橋支局
荒木峰太郎

西島寫眞館
影撮 藝術寫眞 夜間撮影
主 西島幸男
大石橋富士街

大連新聞大石橋支局
石飛榮三郎

守代寫眞館
館主 守代新陽
(大石橋小學校前)

海城縣公署
縣長 陳蔭魁 外一同

蓋平縣公署
縣長 辛廣瑞
總務科長 閻鳳鈞
內務局長 楊翮彬
警務局長 高學本
財務局長 馮履謙
教育局長 楊慶春

海城々內商務會
會長 辛德潤 外職員一同

海城縣農務會
會長 趙慶南 外職員一同

蓋平城內商務會會長
蓋平縣農務會會長
候顯謨

特產雜穀陸軍御用達
株式會社 大矢組海城支店 電海城一六番

海城
大東旅館
福崎大吉 電二九番

海城
海城ホテル 食堂附
國政十七平 電四一四番

海城御旅館
國政鑛業部
海城大街一ノ二 電一一四番

海城
出雲屋
主 奥新一 電二二番

海城
中原食堂
主 中原ハルエ 電四五番

御料理
靜廼家
主 中原次郎 昌平街四三

海城地方委員議長
岩崎鶴松

海城地方事務所主任
平岡猛

海城小學校長
小井澤庫造

海城實業協會長
飛田年尾

カフエー湖月
信子 モト子 ヤス子 銀子 節子
海城大街一五番地 電八一番
主 古木重吉

松月
五郎 一か ほ 小る 都 若 清子 梅子 電二〇番

食堂
千歳
主 白土ハツエ 川野ユカ 電一三番

滿洲日報海城支局
藤田善松

滿洲硝石特約販賣
成和公司
笹山卯三郎
蓋平城門東大街 電話八五番

盛記號藥房
木村圓太郎 電話長六四番 振替大連二二八番

土木建築請負
白川洋行出張所
山內稠
蓋平城內通り

振元當
總理 黃振武
經理 郭子元

蓋平滿洲中央銀行支行
行長 張鴻序

蓋平南關福泰湧油房
總理 喻鑑塘

蓋平料理業
慶昇平飯店

東關福瑞盛
經理 林輪章

南大街源發成
經理 惠錫三

蓋平城料理業
鴻德園

蓋平城
鄭長青

德成棧
李蔭堂

南關福興昌
經理 王烈堂

蓋平酒局
德聚福

經理 宋錫三

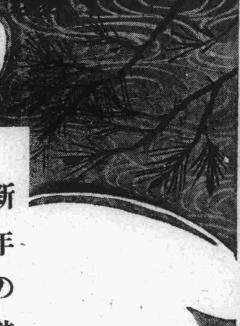
南門
經理 梁鏡波

滿洲日報
大石橋支局
省時座美 電話長五八番

滿洲日報

新年の辭

赫々たる昭和の大御代も、年を重ぬること正に一旬、茲に第十年の元旦を迎へたのはめでたい限りだ。何よりも慶び祝ひまつるべきは、我が皇室の御揃ひ壽康にいますことである。時はおぐるまの端なき糸を繰るやうに無始から無終へと續く、そこに日を刻み年を劃して記錄は作られ、盛衰起伏の人事は織られ行くが、その中に我が國史ほどこの變遷の經路の正しく筋附けられたものはない。それは時の流れと同じく一系の統治者が、無始無終に大權を掌握して皇謨を發揮し給ふからである。

君德天の如しとは昔から言ひ馴らされて居る。それは總ての君主が天の明命を享けて國家民衆を統治するとの意だ。又た如何に知識は開け世態は進んでも、人間父子の親みは毫末も增減變改することはない。然るに世界いづれの國家を觀ても、天命による皇權の樹立、民意に本づく元首の推戴は行はれるが、父子の自然理法を如實に象徵する國史の所有者はない。唯だ我が皇室の太古よりこの天意を昭明し、父母の慈愛を垂示して渝らせ給はぬあるのみだ。隨つて他の史蹟に散見する前朝の忠良が後朝の敵臣であるなどの矛盾なく、眞に萬世不變、聖々相傳へて君父の大道を宣揚し、國民忠孝の則、古今を貫通してその揆を改めぬ。所謂神ながらの國の姿である。

かうした國體の眞價は、畏くも昭和の御代に至つて益々鮮明になつた。これ固より今上陛下英邁の御乾德、能く民心の嚮ふ所を指導誘掖し給ふ結果であるが、而もまた皇祖皇宗の大謨を承遵し給ふ陛下の大御心を體し、宛かも河川の萬水を湊合して洋海の廣を成すやうに、昭和の大御代を維れ新にし、益々國運を偉化ぜんとする國民信念の現はれでもある。さるにても一國の進歩發達は決して偶然でない。必ずや之に伴ふ幾多の試煉があり、一難を克服すれば更に他の一難に逢着する。限りなき進歩には限りなき努力が必要だ。況んや人類の繁榮はその間孤立獨善を淮さぬをやである。

かうした使命の遂行に於て、日本は過去八十年の奮鬪を續け來つたが、その奮鬪力は自國の繁榮基礎を强化すると共に餘澤を周圍に波及し、又波及ぜしめずんば已まざる信念を益々强められた。正義の發揚と公論の實現、それには歪曲されたるものの矯正と、不公平なるものゝ整調とを期する勇氣が必要だ。而してこの勇氣の迸發した處動もすれば他の誤解を伴ひ易い。最近善隣滿洲國の獨立に現はれた經緯の如き、聽てその間の消息を語る實證であつて、之が爲に日本は東洋平和に對して大なる光明を投げたが、同時に紛々たる他の誤解裡に奮鬪力を續け來つた。言ふ迄もなく帝國の皇謨は大和にある。東洋平和は竟に世界大の平和を齎す基とならねばならぬ。併しそれだけ日本は今や一層勇氣を要する國際問題に直面して居る。吾人は茲に元旦を迎へて遙に聖壽の萬歲を三唱し、新春劈頭の覺悟をこの一點に置かんと欲するものである。

萬民協心戮力して國家の康福增進

内閣總理大臣　岡田啓介

年又維にして茲に昭和十年の新春を迎ふるに當り、謹みて聖壽の萬歲を壽ぎ奉ると共に、國運の愈々進展ぜんを祈るものである。私は新年においては我國が日に日に前進しつゝある姿を殊に明かに認め得るやうな氣持がする。恐らく何人もさうであらう。私は茲に國民全體が夫々更始一新の氣分を以て各自の職務に更に一層精勵ぜられんことを希望する。

最近兩三年間における我國は正に一つの大なる轉期に直面してゐる。卽ち我國は躍進の情勢にあるのであつて、之は實に我が國力の充實を如實に示すものであると信ずる。國が躍進するとき國の内外に色々の問題が生ずるのは固より當然であつて世上所謂非常時といふのはこの狀態を稱するものと思ふ。滿洲事變の勃發、國際聯盟の脫退以後における諸の問題、又我商品の世界進出に伴ふ經濟的國際關係の推移殊に海軍軍縮會議を目前にする現在の國際事情は今更說明する迄もない。國内的には農村問題、中小商工業問題等の益々重きを加ふるに至りたる上に、更に昨年は全國各地に各種の災害が相次いで起り國の内外において政治的に、經濟的に、社會的に適正に解決せらるべき問題が山積して居るのである。

併しながら我等の向ふべき途は三千年來毫末も變りはないのであつて、我等は上に萬世一系の皇室を戴き其の大御教の下に萬民協心戮力して内にしては國家康福を增進し、外にしては國際大義を顯揚するに渾身の力を捧げねばならぬ。國民の一人一人が夫々その職分に應じて務め勵まねばならぬ。之が幸にして生を我國に享けた者の光榮ある使命である。年頭に際し我々は我々のこの重大使命に對する自覺を新にし、日日新又日新の意氣を以て奉公の誠を致さんことを期せねばならないと信ずる。

自力更生切望

大藏大臣　高橋是淸

最近における國内經濟界の大勢を觀るに此の二、三年景氣恢復の道程を辿りつゝあるけれども國内全般を通じていへば景氣の進行は聊か跛行的狀態に在りといふを免れない、殊に昨年は不幸にして各種の災害が殆ど全國に亘つて起り、孰れもその地方の農村に多大の損害を與へたのみならず、繭價の下落に因る養蠶地方の打擊亦輕からざるものがあつたことは洵に遺憾に堪へざる處である。政府は此等の地方農村に對し適切なる救濟施設を行ふ方針であるが、國民に於ても今回の如き災害に際しては益々不屈不撓の精神を發揮し所謂禍を轉じて福となすの覺悟を以て進まねばならぬと信ずるのであつて、災禍の爲めに意氣沮喪し前途の希望を捨てるが如きことなきと同時に、又他人の同情惠施に狃れて自力更生の精神を忘るゝが如き事なきやう切望して已まない。

而して特に此際私は農村の眞の立直りは農村の團體自身が克くその窮乏の原因を究め、之を除去するの方途に向つて先づ團體的協力を以て奮鬪するに非ざれば之を期待することは困難なる事を强調したいと思ふ。先づ一つの農村の病がどこに根因があるか、それを診察して根本的な救濟策を立て、而して病人自身がよく醫者のいふことを聽いて養生に努めなければならぬのである、卽ち地方農村の人達が緊褌して一生懸命にやつてゐるといふ時に於て始めて國の力を貸し與へて之が生返ることが出來る譯である。

行けるものではない。換言すれば農村の立直しに對するこの根本義を咀嚼體得せず、その自省がないのに金を費すといふことは唯その時だけの膏藥貼りに過ぎない。それた每年々々續けて行つたらその前途は果してどうなるか、寒心に堪へぬといはねばならぬ。私は地方農村の諸君が此點につき充分の考慮を拂ひ以て政府の諸施設をして最大の效果を收むるやう努力せられんことを切望する。

尤も此頃地方の靑年團より團員の奮起努力の狀況等につき報告を受けることもあるが、其際最近農村における雄然なる自助的精神の勃興並に協同的奮鬪に關する

新日本への躍進

陸軍大臣　林銑十郎

皇紀二千五百九十五年の新春を迎へ謹みて、皇室の彌榮を壽ぎ奉ると共に國運の彌々隆昌ならん事を祈る。

顧るに友邦滿洲國は我國の義助によつて世界注視の裡に建國の理想具現に精進し、驚異すべき建設の成果を擧げつゝあるは慶賀に堪へない所であつて、特に昨春三千萬民衆の熱望により天意に則り帝制を布き、國礎益々鞏きを加へ、更に秩父宮殿下親く御名代として新京に御使し給ひて、建國以來特殊不可分關係にある兩國の親善いやが上にも敦厚を加へたのみならず、世界列强も漸くその實相を正視して、その認識を是正ぜんとするに至つた事は東洋平和の爲め慶賀の至りである。

然しながら滿洲帝國のため最も緊要なるべき經濟建設は漸く其第一歩を踏み出したるに過ぎない。創業は容易なるも經邦は困難にして其成否は一に今後の努力如何にあるのであつて、我國の責務一層重且つ大である。此時に當り奮臟在滿行政機構を改革せられて我國の對滿國策の遂行に一大進步を劃するに至つた。吾人は此際對滿觀念を更に向上し、統一せる指導精神を以て國家總掛りにて治安に國防に産業に財政經濟に交通に其他

今や所謂一九三五、六年の危機の門に入りたるも、然しこの危機たるや靑年日本の興隆に伴ふ當然の情勢であつて毫も悲觀の要はない。我等は恰も三十年前皇國の興廢を賭した日露戰役當時の如き擧國的緊張を以てすれば充分これを打開し得ると確信する。要は國民の決意如何にある。

新年は亥の年、我等は亥の如き勢ひを以て擧國一體となりて外、國策の貫遂に邁進すると共に、内、一切の私心を放棄し、對立抗爭を淸算し行懸りに墮せず舊慣に泥まず、茲に皇道精神を基調として世界の進運に先んずる新日本への躍進に努めねばならぬ、これ我等が新春への抱負でなければならぬと信ずる。

わが使命を認識し萬邦協和に努力

外務大臣　廣田弘毅

昭和第十年の初頭に當り吾人は帝國外交七十年の推移を回想し、新興日本の使命と立場とに想到して新なる感慨を覺ゆる帝國は東亞における最も力ある安定勢力として世界平和の確保と文化の向上に對し重大なる責任を負擔することは現在帝國の地位に基く當然の使命である。

然るに諸外國中には往々この重大使命に對して認識を異にする者があつたので我國の外交は此兩三年來遊らずも鮮かなざる難關に遭遇した、去りながら帝國官民一致の努力は漸次難關を突破して今や盟邦滿洲國は東洋平和の礎石として磐石の重きを成し更に駸々の勢ひを以て成育しつゝあり、我國際關係も亦漸次親善を增しつゝある。

然しながら隆々平たる帝國の進路には自然幾多の難關あるを覺悟せねばならぬ、曩に我國は東洋の恒久的且現實的平和維持の爲には滿洲國の出現に基く國際的新秩序の生成を必要としたが、當面の軍備縮小の問題に於ても當然淸新にして公正なる新秩序を世界に設定する必要がある、而してこの目的を達するには帝國自身に於いて確乎たる信念に基く不斷の努力を要するは勿論、一面友邦列國に於いても現世紀の活狀勢に順應し世界安定の大道に立脚して大局的に協力一致せんことを痛切に希望せざるを得ないのである。

擧國所信を斷行

海軍大臣　大角岑生

茲に昭和十年の新春を迎ふるに當り先づ喜悅の極みに堪へざるは九千萬臣民景仰の中心たるわが皇室の彌榮に榮えますことであつて國運の興隆民生の繁榮益々以て期して俟つべしと信ずる次第である、さりながら本年に於て吾人の最も嚴肅なる覺悟を要することは昨年來帝國の當面しつゝある海軍々備縮小問題である。いふまでもなく今回の軍縮會議は實に帝國々防安危の岐るゝ所であつて國民全般が多大の關心をもつて注視して居る次第であるが、抑々帝國の主張たるや軍縮の三大使命たる各國々防の安固と國際平和の促進と、各國軍費の節約とを達成せんが爲め實情に即せざる既存條約に代ふるに公正妥當なる新條約をもつてせんとするものであつて、帝國の生存權を確保すると共に世界の平和、人類の福祉を目的とする正義の獅子吼である。

吾人は列國の公正なる理解により帝國の主張が本年の軍縮會議に於て完全に達成せられることを希望して已まざるも、萬一列國の贊同を得難きに於ては、帝國は已むなく既存條約の拘束より脫し徐ろに事態の推移に善處すべきである。我等海軍々人はこの重大時局に於て倍々その責務の尋常ならざるを痛感し彌々操守を固くして軍人たるの本務に專念し、上下一致護國の大任を果すに遺算なきを期しつゝあり。國民一般に於ても確乎不拔の信念の下に冷靜に事態を大觀し、國内諸種の難問題を克服すると共に、軍縮に對する宇内の動向を嚴に注視し、軍民一致上下戮力所信の斷行により軍縮事業の達成を期し、以て國運の伸張を圖り國家を泰山の安きに置かんことを祈つて已まぬ次第である。

聯盟脫退實現と軍縮本會議

擧國、此非常時を突破せよ

横須賀鎭守府司令長官　末次信正

日滿提携の緊密期待

兒玉秀雄

昭和十年の新春を迎へ滿洲に於ける同胞相倶に聖代を壽ぎまつるを得るは洵に欣慶の至りである。滿洲に於ける我國統治の狀況を觀るに、文化、産業、その他各般の方面に於て治績年と共に擧がり同胞の福利和樂益々增大を加へつゝあることは洵に同慶に堪へぬ。

元正首祚　景福維新　康德二年歲首　謝介石

天壤無窮　康德二年元旦　鄭孝胥

湯の盤の銘に曰く

國務總理大臣　鄭孝胥

新年の海

中河幹子

池邊鶴　旅順偕樂園にて

“滿洲を語る”座談會 (一)

滿洲國民の國家觀と日滿兩國間の不可分關係

山崎支社長　御繁忙の折からにも拘らず滿洲關係の權威たる各位多數の御參會を得まして感謝に堪へませぬ、今や滿洲は二位一體たる南關東軍司令官のもとに機構も人心も一新されて居ります、この機會に在滿同胞の一層の奮起に資したく存じますので、各位の滿洲に對する御造詣を傾けて忌憚なき御意見を拜聽致したく、從つて題目も別に掲げて居りませぬから在滿同胞に親しく御呼びかけなさる御氣持で御意見なり、御希望なり、何かと御思ひつきのまゝ腹藏なく御話し下さるやう切にお願致します。

眞方大尉　本夕は滿洲國指導に關し公職を有ち又は過去に於て有せられた方がおありであるが本會日に於ては全くプライベートの立場からのお話にして頂きたいと思ふ。

片倉少佐　私は御指名によつて日滿關係を明にして度いと存じますが、その前に滿洲國は如何なる形式と目的を以て結成されてゐるかを聊か述べてみたい、それは大同元年三月發布された建國宣言に委曲を盡されてをり、第一に滿蒙の庶民が舊政權の暴政を排除せんとすれど力足らず、會々九月十八日日本軍の自衞權發動を見たので、手を隣師に借りて醜類を一掃し滿蒙五族が協力し王道樂土の建設に邁進することになつたのである、由來滿洲は滿漢蒙三民族のみの國かの如く考へる向がないでもないが歷史的、民族的、軍事的、政治的、經濟的等凡ゆる角度より内鮮兩民族を度外視することは事實上絕對に出來ないのであつてこの見地において日系官吏存在の合理性は充分認めらるべきものである、この思想を最も端的に把握してゐたのは文治派の巨頭だつた故于沖漢氏であつて、彼の根本思想は五族協和に鑑じ滿漢蒙民族性に鑑みて滿洲には武力は要らぬ、それは武力を濫用しない日本に纏めばよいといふので、その旨日本の要路に建白し大經綸を說いてゐる。

これを要するに滿洲における國家觀は日本における國家觀とは餘程異つてゐることを前提として日滿關係を考慮すべきだと思ふ、卽ち滿洲國は完全なる獨立國たることはいふ迄もないが、事變前後を問はず、國防上、經濟上、兩國は不可分の相互倚存關係にあるため、日滿議定書において日滿共同防衞を國際的に公式化され血緣狀態にあることを宣明されたのである、從つて内鮮兩民族は滿洲國に入つて自國の繁榮を圖るべき義務と資格の要素を有つものであるが、それはどこ迄も切つても切れぬ日滿不可分關係より來る當然のことであつて、若しこれがため滿洲國を我國の屬國視したり、保護國視したりするものがあれば思はざるも甚だしいものである、自分は日滿朝野においてこの滿洲國の構成を充分檢討して哲學的、科學的に理論づけて行かれんことを切望して已まぬ。

林毅陸博士　滿洲國のやうな日本と不可分關係にあり、國防……

時　昭和九年十二月二十四日

場所　東京丸の内中央亭

出席者　陸軍省新聞班眞方勳大尉、參謀本部々員今井武夫少佐、同上片倉衷少佐、陸軍大學校教官遠藤三郎中佐、海軍省軍事普及部柴田中佐、同上酒井廣三少佐、外務省情報部矢野征記事務官、拓務省森重千夫企畫課長、滿洲國協和會小林鐵太郎駐日代表、至誠會長永田秀次郎氏、慶大教授林毅陸法學博士、法大教授高木友三郎經濟學博士、東京工大教授木下正雄工學博士、中大教授三輪末彥氏、農大教授住江金之農學博士、早大教授天川信雄氏、慈大教授中村爲男醫學博士、立大教授松下正壽氏、帝大配屬將校大谷淸譽大佐、拓大配屬將校藤懸末松大佐、農大配屬將校森知虎少佐、駒大配屬將校福田康明少佐、至誠會員久保勘三郎氏、(以上順序不同)本社支社側—山崎東京支社長、能勢、八田、岡本各記者

その例を知らぬ、獨立國にしてこれまであつた國家機能がこれだが、自分は寡聞にしてかといふお質ないかと思ふ、從つて新國家がどういふ風に發達して行くかは全世界が非常な興味を寄せてをり國際政治學上よりも好箇の研究對象なれば、健全なる發達を遂げしめて國際政治學に愉快な實例を提供したいものである、嘗て朝鮮において保護國として保護指導するに當り、國分雅は折れたが外國にも例があり……方は大體見當がついてゐたが、滿洲國は獨立國にして而も不可分關係にあるといふ複雜な事情にあるので、これを健全に發達せしむるには非常の努力と手腕を要するのはいふまでもなく、我々は日本人の腕試しだといふ立派にもりたて、その結果日本の政治家や軍人や實業家等の手腕が卓絕してゐることを世界に證明したいものだと思ふ。

松下教授　林先生のお話に蛇足を加へるやうですが、私は私と同じ人間が居るかといへば、居ないにきまつてゐるが、私に似たやうな人間が居るかといへば居るだらうと思ふ、日滿關係に似たやうな事例も同樣であつて、この廣い意味において例を擧ぐれば先づアメリカとキユバの關係はプラット修正案によつて共同防衞の言葉はないが、アメリカの陸軍はある程度迄キユバの内政に關與する事が出來ることになつてをり、パナマがコロンビアから獨立した時にもアメリカ政府當局は最もフランクに「パナマを取つた」といふ言葉を使つた程で、共和國特殊の關係において國防上も共同責任を有つてゐる、またテキサスがメキシコから獨立した時には矢張アメリカ人がテキサスに行つて獨立運動を援助し、その資金も大部分アメリカから出てゐる、それからポーランドが獨立した時にもフランスの資本、技術、新聞等が非常に援助した。以上の例はいづれも日滿關係と同じとはいへぬが、何等かの點に於て一脈相通ずるものがあり今日の國際關係においては他國の領土を武力で併合することは合理的有利的方法でない事が客觀的に認められてゐる、かやうな見地から滿洲國自身の利益のため並に日本の生命線を護るため滿洲國が日本の力を借りて益々獨立を確保してゆくことは取りも直さず世界の大勢に順應しまた大勢を助長促進して行くもの……

今井少佐　滿洲國最近の治安狀況についてお質ねがあつたが、申す迄もなく滿洲の治安は建國以來軍が最も力を注ぎ來つたところであつて、漸次成果を擧げ本年に入りては熱河、黑龍江省などの匪賊も非常に數を減じ昨今匪賊が居ると思はれるのは東邊道東部や吉林省東部位に局限されてをり、この狀態で進めば近き將來には産業開發などの上からいつても餘程樂な狀態になると思ふ、事變後遠藤中佐と一緒に渡滿し、その後四回行つたが治安が恢復してゐることは全く隔世の感がある。一昨年秋は奉天郊外に匪賊來襲し重ても散步出來なかつた附近に、昨年秋は女子供でも散步してゐたし、本年になるとどしどし住宅が建築されてゐる、一般に一昨年迄は政治的背景を有つた集團的匪賊が跳梁したが、昨年には政治的背景を有つたものが無くなり、本年に入ると集團的のものが跡を絕ち多くは四、五十名以下のものである、吉林省東部に近い所では共產的色彩のものも多少あるが、その他は衣食に窮した結果強盜團となつたものである、今後滿洲國の警察が整備されるにつけ治安は益々改善されるであらう。

……のであつて人類の平和增進に貢獻するものだと私は考へてゐる。

日本人の土地商租は今後無制限、自由

滿洲國政府と交涉成立

【東京三十一日發國通】滿洲國における日本人の土地商租に關する交涉については從來各方面に種々の誤解の起るを警戒し、當局では記事揭載を禁止してゐたが、今回同問題に關する一切の交涉が一段落せるを以て今迄の揭載禁止を解除した、同交涉の内容は左の如くである

一、從來張作霖政權の下においては奉天省においてのみ日本人の土地商租を許してゐたが、滿洲國では吉林、黑龍江兩省の北滿に對して自發的に商租權を認めることゝなつた

一、滿洲國成立當時は日本人の大資本家の進出を惧れ、十五萬町步以上の商租を許さぬが如く傳へられてゐたが、今回は斯る制限を附せず、日本人の商租權を無制限自由となした

右の如く日滿商租權交涉の圓滿完全なる解決により、日本人は滿洲國で土地を商租し、三十年(工業農業のために期限を更新することを得るものとす)を限りとなし、土地を商租し得ることゝなり、今後移民その他の自由なる經濟的活動をなすことを得るに至り、將來日滿經濟の緊密なる聯絡發展をなすことを得るに至つたものである

我國際的地位を列强は確認

比率軍備廢棄の影響

【東京特電三十一日發】華府條約廢棄通告は差等比率主義を不當とし新なる軍備平等權要求を明示したものであるが、同時に過去において英米兩國が直に國際的優越を主張し來つたのに對し、最早かくの如き優勢は世界平和を永遠に保持する所以に非ずとする我見解を條約廢止により率直に闡明したものである、從つて今回の措置は我國際的地位に新紀元を劃した歷史的事實であつて、廢止通告をなすまでに帝國政府は之に依つて發生することあるべき國際的新事態につき愼重なる研究を遂げたのは勿論であるが、特に廣田外相は今後帝國が困難なる國際的立場におかるゝが如きことは全然なかるべく、寧ろ英米佛伊の締約國はもとより其他の國家に於ても帝國の海軍問題に對する主張並に國際的地位を確認するに至るべしとの確信と決意をもつてゐる

支那紙論評

【天津三十一日發國通】華府條約廢棄に對し當地支那紙は何れも大々的に取扱つてゐるが、三十日の益世報は左の如き社說を揭げて支那の輿論を喚起してゐる

廢棄通告は第二十三條の規定により行つたもので吾人の關知する所でないが、之に依つて生ずる東亞の國際形勢は益々逼迫するであらう、今後支那として考慮すべき事はワシントン條約附屬條約とも見るべき四國條約並びに支那の領土保全を建前とすべき九國條約も當然廢棄される結果となるべく吾人は今日より準備せねばならぬ

と結び大公報も亦社說を揭げ日本のワシントン條約廢棄は日本の既定方針であつて吾人は別に驚きもせぬが、こゝ十有年來太平洋の大勢を支配して來た歷史ある海軍條約は終末を告げた九國條約と同じ運命に陷るとはいへないが、日本の執つた態度は精神上九國條約の失權を宣告したものである

と論じてゐる

三、四日頃細目交涉

北鐵交涉好轉

【東京三十一日發國通】ソ聯代表カズロフスキー氏は三十日正午本國政府よりの回訓に接したので同日午後六時より外務省で東郷局長と會見、ソ聯側は前回より更に誠意を示し支拂保證、退職手當、物品支拂保證の三難問題についても全面的に讓步し來つてゐるが、なほ我方の主張と一致せず不滿足な點がある爲、東郷局長は更に步み寄りを希望した所、カ代表は至急本國政府に請訓することになつたが、北鐵細目交涉も三十日の交涉によつて俄然好轉し來る三、四日頃行はれる豫定の細目交涉により細目條件の協定成立する觀られる

起債の最高記錄

昨年の概算は十四億

【東京特電三十一日發】本年の起債市場は下期金融異變のため一時減少したが、上、下兩期を通じて異常な活況を呈し殊に社債發行高は興銀調査によれば本年度概算十四億三千七百五十萬圓に達し、昭和三年の九億七千萬圓を突破して最高記錄をつくつた……てその中新規發行高は四億……圓に過ぎず、殘り十億二千……借替發行で低利借替が極めて……であつた

滿鐵會社監督權分轄論の理由

事務の性質により

【東京特電三十一日發】在滿政治機構改革に伴ふ滿鐵の監督は對滿事務局官制第一條第四項と關東局官制第三項とに規定され、現地においては關東局が、中央においては對滿事務局が行ふことになり、從つて認可事項は全權大使(關東局總長)を經て總理大臣(事務局總裁)へ廻附されるやうなといふ觀測が專ら行はれてゐる……

滿洲における本年の重要な政治・外交

素晴らしい跳躍を待望

昭和十年、一九三五年は國際氣壓が急激に低下すべく約束づけられた年だ、しかもこの低氣壓を發生せしめた原因の最も有力なるものゝ一が滿洲國成立である以上、今年の滿洲國が如何に注目すべき地位に立つてゐるかを知ることが出來やう、しかも滿洲國内部においても滿洲事變後四年を經過しただけに政治的にも經濟的にも漸く新しき秩序が確立し素晴らしい跳躍が待望されてゐる

新機構實施

政治的に最も興味あるのは二位一體制による南軍司令官時代が如何に展開して來るかである、滿洲事變後の滿洲の日本側政治機構は本庄、武藤、菱刈時代を經て南時代となつたもので南軍司令官は前期二代に見ざる强大、廣汎な權限を持つてゐる從來の三位一體制は尙拓務大臣の監督下にあつたのだが二位一體の南軍司令官は内閣總理大臣に直屬し、在滿政治機構に對する指揮監督は一元化し直截簡易化した、總理大臣の直屬スタッフとして對滿事務局が設けられてその總裁は林陸軍大臣だ、又二位一體行政的補助機關として關東局が設けられその總長は日本の新進政治家として知られた長岡隆一郞氏だ、關東州には州廳が置かれ、その長官大場鑑次郎氏は關東局の監督下に立ち組織は整備した、人の和は得た、昭和十年はこの組織と人とを持つて最も力强い政治が行はれるだらう

滿鐵の改組

滿鐵がどうなるかは今年の滿洲の最も大きな宿題である、滿鐵改組論は事變直後に起り、昭和八年の春から進展し同年秋に具體化して所謂改組騷ぎを起したが、滿鐵内部および内地財界政界の反對論のため立往生して今日に及んでゐる、しかし滿鐵を改革せねばならぬ理由が消滅したわけではなく否、事變前の機構たる滿鐵を事變後の新情勢に順應せしめねばならぬ理由はますます强くなつてゐるのだから二位一體の整備した今年こそ何とか目鼻をつけねばならぬと……の氣運が濃厚となりつゝある、ただ注意せねばならぬのは、日本の財界方面には依然として現制における滿鐵を信頼してこれに投資せんとする風があることで、滿洲が日本資本に倚存してゐる今日ではこの方面の意思を無碍に沒却するわけには行かぬことだ、卽ち改組するとしても昭和八年度に傳へられたやうな拔本塞源的な改革は行はれず、經濟界にも大なる反動を反感を起すことなく、たゞ二位一體の指揮監督を十分にすることによつてその目的を達するであらう

日滿不可分

對蘇聯關係

對歐米關係

滿洲關係の朝鮮總督府豫算

金融界靜穩

【東京特電三十日發】本年の歲末金融は正金に對するコール回收、日銀の貸出增加等によつて需要みたされ格別の波瀾なく順調に推移し、コール翌日拂レートは最高一錢に止まり、全國を通じて無事平穩なる越年をみる

國策を遵奉して州政に奮勵努力

關東州廳長官　大場鑑次郎

昭和十年の新春を迎へ國運の長久と聖壽の無疆を祝することを得るは我等帝國臣民の最大の幸福であり無二の誇りとする所である

皇室におかせられては兩陛下を始め奉り皇太后陛下、皇太子殿下、內親王殿下御打揃ひ御機嫌御麗しく御健かに渡らせられ竹の園生の御繁榮洵に御芽出度極みである、殊に皇太子殿下には同年御三歲を……

人事

▲西尾壽造中將(關東軍參謀長)三十一日朝あじあにて新京へ
▲河本大作氏(滿鐵理事)同上
▲林少佐(關東軍參謀)同上
▲石丸志都磨中將(滿洲國……官)同上
▲松原信助氏(哈爾濱鐵路……科調度股長)三十一日午……着列車にて來連
▲松村久兵衞氏(關東軍……)……十一日正午發はとにて新……
▲品田芳夫氏(陸軍三等軍……〇〇〇隊司令部附)同上
▲阪谷希一氏(滿洲國國務……廳次長)同上
▲長山七治氏(滿鐵經理部……長)同上熊岳城へ
▲楊井勇三氏(正隆銀行常……役)卅一日入港うらる丸で……
▲國松文雄氏(元大阪朝日……派員)今回滿鐵經濟調査會……社大阪駐在員として滿鐵……張所勤務

不振を一蹴する各社の製作方針

松竹、日活、新興の勢力伯仲

35年の日本映畫界打診

第一映畫社一黨の日活脱退、協同映畫社一黨の蒲田脱退、日本映畫配給會社の設立、關西大風災によるスタヂオの破壞、俳優爭奪戰等々昭和九年度の日本映畫界は混亂につぐ混亂、それが爲各社映畫の內容は一方ならず低下不振の狀態を誘致し、この影響は遠く滿洲にまで波及して大連を始め各地共に日本映畫不振、外國映畫、殊に歐洲映畫全盛の有樣であつたが、昭和十年度における日本の映畫製作會社は如何なる態度をもつて事業に當るか、各映畫社撮影所幹部の意見を聞いて見る

藝術的赤字克服待望

新興撮影所長　白井信太郎

昭和九年度の混亂が日本映畫の品位を低下せしめたことは否めない事實である、わが新興キネマはこの點に深く留意して十年度こそはりよき優秀映畫の製作をモットーにして進みたい、トーキーへの進出、東京撮影所の設立と完備、遲くとも三月頃には東京大衆撮影所と京都太秦撮影所が相呼應して日本映畫界の王座をめざして活躍を開始するであらう

特作本位に

第一映畫撮影所長　永田雅一

第一映畫結成第二年を迎へるに當り同志が手を更に強く握り合ふことを誓ふと同時に、從來の製作方針たる特作本位に一層の拍車をかけ文字通り優秀大作を製作、昭和九年度に於ける映畫配給に一大エポックを劃した日本映畫配給會社の一分野として活躍する

今年に爲さんとするもの

松竹京都撮影所長　井上重正

一番親密でなければならぬ映畫同業各社が俳優を拔いたり拔かれたり喧嘩ばかりしてゐるのでは日本映畫は何日までたつても發展しない、我が松竹では東京においてこれに關する對抗策を研究中で今春中には實現しやう、本年の製作方針は東西兩撮影所が協力大いに大作を發表することに決定した、なほ從來は興行のみを考へたきらひがあるが、今年からは月一本乃至二本は民衆をよき方面に誘導する映畫を作る、然しこれも文部省の所謂教育映畫の如きものではなく興行價値を忘れぬ報國映畫として製作する豫定である

海外に撮影隊

エトナ映畫社々長　田中伊助

スタヂオの設備は九年度で終つた今年は大いに飛躍する心算である上半期は全發聲一本、サウンド一本、サイレント二本の四本を製作する外二ケ月に一本の割で南洋、或は南アフリカに撮影隊を派遣し他社の企て能はざる映畫を作る

一陽來復

日活常務取締役　杜重直輔

三四年度に於ける日活は實に多事多端であつたが、內訌的のものは舊臘を以て一擲されたから現在では何の心配もなく舊前の日活魂を揮つて三五年度は善戰する、映畫は商品であるから大衆顧客から歡迎されるものでなければならない幸ひに日活の時代劇は一大勢力を持つてゐる、この一大勢力に乘つて大衆と相携へて行く、勿論現代劇もゆるがせには出來ない、三五年度は日活現代劇にも相當の力を入れる準備はさゝのつてゐる、とも角季節ばかりではない、日活にも一陽來復だ

異色篇製作と配給の確立

太秦發聲社長　池永浩久

會社設立第二春を迎へて作品の上に獨得のカラーを置くことを決定した、我社映畫は各社のプログラム・ピクチユアーと異つたカラーを持つた大作品とする方針である、準備は既に舊臘出來上つてゐるから新春早々着手する、配給網の確立擴大も考へてゐるが先づ増資を行ふつもりだ

トーキー時代へ躍進するスター

三五年の榮冠誰に（上）

日本のトーキーも漸く本格的となつて來た、例へば日本のトーキー列車は漸く軌道に乘つて走り始めた、然し全部が全部進行してゐる譯ではない、僅に進行したものがあるかと思ふと、途中で故障を起し引き返したものもあり、立往生をして跪いてゐるものもある、トーキー列車に乘つた俳優達、豫期した程危險でないとホツとしたスターもあれば、乘つただけで怖れをなして引き下つたスターもあり又全然乘らずに思案に暮れてゐるスターもある、然し三五年になれば彼等は當然一度はこの冒險を敢行させられる運命にある、乘るかそるか、正に生活權を賭ての大試驗だ。

花を欺く美貌麗姿も、匯菊の地下の眠りを覺ますやうな素晴らしい演技も、トーキーの世界ではスクリーン・ボイスに支配されることゝなつた、或る外國のトーキー大監督は「スクリーン・ボイスは自由で氣持の良い且つよく響く聲でなくてはならない、そして聲を良くする唯一の方法は耳をよくする事と、よくしようと努めることとの二條件である」と論じてゐる、この條件によつて三五年度の輝かしきスターの位置に就くものは誰か三五年度のエクラン第一線に活躍を期待される最も有望なスターを拾つて見やう。

新興　霧立のぼる

松竹　三宅邦子

日活　嵯峨みや子

下加茂　堀江清子

正月一週映畫

（1）日活館上映の千惠蔵映畫「新風三尺劍」の片岡千惠蔵と絹川京子（2）映樂館上映、新興特作オールトーキ「唐人お吉」の水谷八重子（3）帝國館上映日活現代劇「嚴頭の處女」の右から近松里子、水久保澄子瀧口新太郎（4）常盤座上映、伊太利陸軍映畫「征空大艦隊」（5）寶館上映の大都映畫「次郎長身代り旅」の阿部九州男（6）中央館上映の蒲田オール・トーキー「春江の結婚」の藤井貢と三宅邦子

賀正

旅順

旅順郵便局長 富永國治

新旅順郵便局長 新旅順電報局長 三阪善四郎

旅順電報電話局長 野村廉治郎

旅順高等公學校長 横佩章吉

旅順中學校校長 今井順吉

旅順高等女學校長 平田芳亮

旅順市會議員一同

旅順公議會

旅順要港部參謀長 海軍大佐 久保田久晴

旅順要港部司令官 海軍少將 濱田吉次郎

關東廳高等法院檢察局 檢察官長 下田勝久

旅順要塞司令官 陸軍少將 田中稔

關東廳旅順醫院長 醫學博士 樋口修輔

旅順民政署 署長外職員一同

旅順市長 米岡規雄

旅順市八島町 竹森病院 電話一四二番

旅順市鎭遠町 成田醫院 電話一〇九番

旅順市乃木町 井上醫院 電話六三五番

鎌倉保育園旅順支部 旅順市新市街旭川町 電話五五四番

鎌倉保育園 旅順支部大連分園 大連市老虎灘 電話六九九三番

旅順市富士町 滿洲蠶絲株式會社 電話五六七番

各種銘茶 茶器類一式 丸山茶舗 乃木町一丁目 電話一六八番

電機販賣 修理釣具 金澤屋 旅順市乃木町(郵便局前) 電話五〇八番 浦波窯業工場 旅順市桃園町(電話二四〇番)

千藏倶樂部

旅順市外楊樹溝 林農園 林源一郎

日本赤十字社 滿洲委員本部

陸軍憲兵中尉 旅順憲兵分隊長 龜井眞清

關東廳内 關東州水産會 電話四七番

旅順市嚴島町 關東州水産會 旅順魚市場 電話六二九番・六五番

旅順金融倶樂部 朝鮮銀行旅順支店 正隆銀行旅順支店 旅順無盡會社 旅順輸入組合 旅順金融組合

旅順工科大學談話會

旅順市助役 岸田愛文

關東海務局旅順支局 支局長 枝野丈右衛門

旅順刑務所長 典獄 宮崎德安

大連稅關旅順分關長 星野金之助

旅順市乃木町三丁目 本田商會 本田治三郎 電話局二七七番・振替大連一五四九番

自動車部分品販賣及修理 旅順市乃木町 德永商店 電話四七五番

(いろは順) 鮫島町 稻富藥店 電話五八七番 乃木町 田中藥舗 電話三三六番 青葉町 萬代號藥房 電話四二八番 青葉町 宮竹藥店 電話一七〇番

銘酒金正釀造元 三勢商會 廣垣治助

卸小賣部 釀造所 土木建築請負業 果樹園經營販賣 廣垣治助 舊市街忠海町二八番地(電話三〇七番) 新市街中村町八番地(電話二八四番) 旅順市忠海町二十八番地(電話三〇七番)

石炭商 滿昌洋行 旅順八島町 貯炭場 電話一四七番 一六六番

滿鐵石炭 本溪湖煤鐵公司特約代理店 千代田生命保險相互會社代理店 朝鮮火災海上保險株式會社代理店 日本麥酒鑛泉株式會社特約店 海軍糧食品御用達 石炭商 矢幡商會 倉庫所在地 旅順市八島町 朝日町一丁目(電話三一番) 出張所 滿鐵貯炭場構内 電話三〇六番

製鹽業 矢原商會 旅順市嚴島町 電話八一・四四六番 矢原重吉

大日本優等清酒 神代 銘酒神代、清酒福鶴、熟酎並味淋 備後屋 神田商店 旅順市乃木町 電話三三三番

土木建築請負業 石井組 組主 石井本一 本店 旅順市名古屋町九番地 電一一三番 出張所 大連市惠比須町二五番地 電六七一三・九三四七番 出張所 奉天春日町一三番地 電三三一三番

建築請負 旅順市朝日町 水間又吉 電話三八一番

▲營業所旅順市橘立町一 電話三八四番 ▲營業所大連市榮町二 電話六八〇〇番 常盤運送 眞田公松(電話二七二番)

旅順市名古屋町六 仲野齒科醫院 電話一二九番

旅順市青葉町 電話四七六番 深川齒科醫院 院長 深川二郎 小船不二男

陸海運送 旅順市乃木町三 大六運送店 電話四六七番

和洋御料理 仕出し 旅順市敦賀町角 食堂きむら 電話三〇五番

海産物商 花鰹削節製造元 旅順市敦賀町十五番地 淺田商會 電話六一四番

建築請負 左官材料販賣 旅順市名古屋町(電話七五二番) 大谷組 大谷組大連出張所 大連市能登町七三 電話七七五九番

旅順市乃木町 靴、馬具 其他 能井洋行 相阪千代吉 電話六七番

旅順朝日町 さくら温泉(魚菜市場横)

陸海軍御用達 洋酒、洋煙草、洋菓子 T A K A 旅順市乃木町三ノ七 高澤又猛 電話五二八番

旅順市朝日町 貸舟 ボート サ、キ商店 電話六七九番

旅順市鯖江町(警察署隣) 代書 吉安克道事務所 電話四〇四番

旅順市鯖江町 代書 福永新七事務所 電話三九〇番

旅順市嚴島町 水産業 木野村間太郎 電話四九五番

和洋雑貨 ふたば屋 旅順市乃木町 電話六一一番

食料雑貨 山口屋 山口清輔 市場内 電話五四一番

旅順煉瓦及煉瓦土管製造 小林治作 金比羅殿町八 電話五二五番

銘酒菊正宗 櫻正宗 金水商會 乃木町 電話一〇六番

旅順市乃木町 中山洋服店 電話三二九番

旅順市敦賀町 島村洋服店 電話一七九番

旅順市大迫町 高田洋服店 電話二二七番

旅順市乃木町三ノ二〇 齋藤洋服店 電話六五六番

蓄音器 旅順市乃木町 櫻井時計店 電話一九五番

旅順市乃木町 福岡時計店 電話七七九番

旅順市新市街(鎭遠町) 小梨齒科醫院 電話六五一番

電氣機械器具 旅順市乃木町三ノ二〇 津田電氣商會 電話四六四番

乃木町三丁目 ゑびす屋呉服店 電話一三〇番

近江屋呉服店 乃木町三丁目 電話七九番

諸官衙御用達 食料品雑貨 齋藤商店 電話一七六番

表具商 原榮年堂 旅順市敦賀町 電話五三三番

土木建築請負 山村組 乃木町十九 電話五八九番

土木建築請負 前西熊市 大津町四一 電話三四三番

土木建築請負 旅順市大津町 木下豐一 電話二二五番

土木建築請負 築島組 築島米藏 旅順市乃木町二丁目 電話三九七番

建築請負 家具製作 旅順市敦賀町 清水洋行 電話六七五番

諸官衙御用達 旅順敦賀町 久野商店 久野儀一郎 電話一四九番

旅順市乃木町三 宮地疊店 電話一九四番

疊製造 奥石商店 奥石久作 大津町一六 電話三六〇番

旅順市大津町一八 宮澤疊店 宮澤猛雄 電話四九二番

土木建築請負業 旅順市忠海町 礒谷捨吉 電話六〇六番

土木建築請負業 清住泰一 鯖江町一一 電話五三四番

トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 旅順市金比羅町 石井榮一 電話三七番

土木建築請負 旅順市乃木町二丁目 和田武吉 電話五八八番

土木建築請負業 森谷吉五郎 旅順市乃木町三ノ二八 電話四八三番

井町商店 朝日町魚市場 電話三三二番

旅順市八島町 井上釣具店 電話六〇四番

旅順櫻泉社 サクラ印サイダー、シトロン製造所 那須梅吉 電話二一八番

和洋雑貨 藤井洋品店 新市街松村町 電話五七番

書畫骨董、貴金屬寶石、毛皮家具類 後藤勇太郎 末廣町二 電話四三九番

陸海軍各官衙御用達、船具、金物 機械、綿糸布、タオル其他諸納入品一式 センターストーブ特約販賣店 岳南公司 旅順市乃木町三ノ六六 電話三八二番

旅順質屋組合

旅順市乃木町 ガクブチ、アルバム、文房具 マルゼン商店 電話六〇九番

旅順市乃木町 電話八二四番 文房具、額ブチ、繪はがき マツチ 松尾傳吉

新市街大迫町一三 マスヤ文具店 電話三〇四番

旅順市青葉町七二 電話二五四番 紙、文具、印刷、帳簿、毛糸小間物 鮎川洋行 江里口吉太郎

旅順市敦賀町(婦人病院前) 滿洲タクシー 電話二六二番

旅順市乃木町(滿電前) 旅順タクシー 電話五六〇番

滿電驛前タクシー 電話五二三番

旅順新市街松村町(圖書館隣) 日高タクシー 電話四七九番

旅順市乃木町派出所前 新古自轉車並に修理 富永商店 電話四〇一番

乃木町 電話五四番 諸官衙御用 山田活版所 山田李次

旅順市乃木町三丁目二 各社映畫上映並ニ各種興行 旅順映畫館 電話一七五番

旅順市乃木町 濱田洋酒店 電話七八八番

旅順市朝日町 川上陽樹園 川上虎次郎 電話七八七番

旅順市敦賀町 支那料理 德興樓 電話四三七番

宏記 呉服店 電話三一八番 精米工場 電話六六一番

旅順市新市街松村町二 成松寫眞館 電話二五九番

寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影 南滿公司 旅順寫眞館 乃木町三丁目交番横 電話四七二番

旅順市鮫島町二 寫眞出版 印刷出版 玉井寫眞工藝所 玉井紫水 電話三九九番

旅順市新市街 寫眞 齋藤寫眞館 電話六六三番

銘酒姫鶴釀造元 銘酒白鶴、白雪特約店 西本商店 旅順市青葉町四五 電話一八五番 振替大連二四九五番 釀造場 旅順市鮫島町十番地 電話三二四番

旅順市月見町 月見農園 旅順驛前(電話六二〇番) 月見賣店 旅順通關所

乃木町交番前 京阪流行御履物 栗田商店 電話三四一番

旅順料理店組合

旅順市乃木町 御菓子司 玉の家 電話七五一番

旅順市敦賀町 製菓 東光堂 電話七七番

旅順市敦賀町 元祖藤八最中 御菓子製造 桐乃家 電話四三一番

旅順市乃木町 パン菓子製造 木村屋 電話一二六番

旅順市朝日町二ノ一 忠勇あられ 高粱しるこ 東金堂 加藤傳吉 電話五三二番

明治製菓株式會社 京城菓子株式會社 新高製菓商會 特約店 卸問屋 山岸洋行 旅順市乃木町三丁目 電話四五四番

旅順市明治町 菓子製造 老樹園 電話二〇四六番

旅順市乃木町 桃太郎菓子店 大舛時三郎 電話六七二番

聖旅順名物 なつめ羊羹本舗 海軍酒保御用達 水月堂 中牟田佐太郎 旅順市嚴島町海岸 電話五七五番 振替口座大連三一六〇番

旅順市鮫島町 饅頭製造 松岡商店 電話三五九番

旅順市乃木町 陸海軍御用達 精肉 金太屋 電話二七五番

旅順市土屋町四 電話三三八番 食料雑貨 飲食店 伊勢屋 芝田新太郎

旅順市忠海町二 御料理 千代乃家 野田千代 電話六四五番

旅順市敦賀町 電話六九八番 銘酒福美人 醤油味噌販賣 食道樂、香道樂 藤田商店 藤田安兵衛

純生そば キシメン うどん 旅順末廣町 更科本店 電話二五五番 旅順 更科本店 電話六七一番

御料理 辨當 仕出し 旅順市鮫島町 大阪屋 電話二七八番

御料理 會席 辨當 仕出し 旅順市千歳町 千歳倶樂部料理部 電話六二二番

御料理 仕出し、生そば 旅順市名古屋町 つぼみ 電話二八一番

御壽司 仕出し 旅順市鯖江町 奴壽し 電話七六番

飲食店 旅順市松村町 文化亭 電話五六六番

和洋御料理 旅順市乃木町 睦食堂 電話三六四番

和洋、麺類 飲食 旅順市川端町 富之家 電話二六一番

乃木町(田村自轉車商會隣) 簡易食堂 ㋑食堂 電話五一〇番

鐵材、金物 電氣、鑛油 旅順市乃木町 村上信二商店 電話一〇四番

陸海軍御用達 大西商會 旅順市乃木町二丁目 大西重次郎 電話二五三番 食料雑貨 大西商會食料部 朝日町市場内 電話六三一番

材木、建築材料 西野商行 旅順市乃木町 電話六八番

御旅館 寶來館 乃木町電話 五六番 御旅館 防長館 青葉町電話 二八二番 御旅館 旅順ホテル 青葉町電話 三六七番

旅順カフエー組合(イロハ順) 乃木町 海月 敦賀町 萬兩 乃木町 ヨシノ 敦賀町 コンパル 敦賀町 太樂 名古屋町 スパロー 敦賀町 松金

青葉町街燈維持會(いろは順) 池田洋行 電七四 御菓子 泉屋 原田時計店 電六六七 早瀬商店 電一六四 新見時計店 電四八〇 岡女庵 電五〇三 大阪屋號書店 電二五一 吉野洋服店 電一八六 谷壘店 電五八四 高治洋行 電八七 中野日界堂 山口商店 電二四九 やまと軒 電四九三 山本商店 松崎紙店 電一二八 文英堂書店 電二〇七 松竹 電一六一 射越屋支店 電四五 瑞章堂印房 電六三 喫茶店スヾラン 電六八一

旅順料理屋組合(いろは順) 西町 一力 同 蛤亭 柳町 濱名館 西町 東洋軒 川端町 吉田屋 同 旅島屋 十年町 松葉 川端町 滿月樓 同 京城樓 西町 榮福樓 同 吾妻樓 朝鮮町 堺樓 遊樂 西町 新世界 同 新萬歲 川端町 笑福樓 東町 春海館 川端町 昭和樓

敦賀町共榮會 井上玩具店 カフエー松金 電一三六 玉屋モスリン店 電九二 熊井洋行 電六七 カフエーコンパル ヤマ一履物店 電五〇二 小森運動具店 電五〇一 食道樂きむら 電六一二 三笠堂 昭和クラブ 久富商店 電四二九

(イロハ順) 御履物 栗田商店 乃木町 電三四一 御履物 ヤマ一號 敦賀町 電五〇二 みやこ履物店 乃木町 電六五九 村瀬履物店 乃木町

旅順市乃木町 新鮮第一 渡邊果物店 電話四三二番

滿洲記念品 支那土産品商 東京堂 本店 旅順市乃木町三丁目 電話六一番 振替口座大連一六六七番 支店 大連市銀座通本町角 電話三一二二九五番・振替大連四〇五番

旅順市乃木町 本田與市 電話四一一番

撞球 旅順市乃木町 朝日クラブ 電話二二二番

豪壮新春第一の興味篇

新興キネマ東京撮影所第一回作品

オールトーキー

唐人お吉

水谷八重子主演

早川雪洲・澤村田之助・伊井友三郎

米津左喜子・村田みね子・西條靜子・宮島啓夫・高梨俵堂・武村新・他大共演

原作村川花菱・監督冬島泰三・悲戀お吉の波瀾の生涯を描く八重子の十八番劇

花咲く樹

前中篇 十五巻

市川春代 第一回入社・小杉勇・島耕二

志賀曉子・鈴木澄子 五大スター競演

村田實監督

東朝・大朝大好評連載

なみ子の巻 オールサウンド版

傳統の美を誇るなみ子・新時代を呼吸するエマ子の辿る多難の路を描く五大スター競演の名作

コロムビア社提供・どなたにも面白いトーキー映畫

特選發聲漫畫大會

俄然大好評

午前十時より晝夜三回入替なし

賀正

映樂館

中央映畫館 三日まで公開

松竹發聲ニュース

俳優御挨拶

スクリーンでお馴染の松竹男女優連が中央映畫館の銀幕より新春の御挨拶を申上ます！萬年娘絹代や・好太郎及び新スターの感激の聲が飛び込むですぞ

春の結婚

松竹オール・トーキー明朗篇

藤井貢・三宅邦子・坂本武主演

浩將ウジが池田忠雄の快作を映畫化す近代明朗新鮮篇！新スター三宅邦子の異常な性的魅力が銀幕せましと躍動する

蒲田超大作・野村浩將監督作品

毆られた河内山

市川右太衛門主演

尾上榮五郎・小林十九二・突貫小僧・高堂國典・高尾光子・野寺正一特別出演・志賀靖郎・小笠原章二郎・助演

坪井哲・上田吉二郎・田村邦男・山路義人・澤井三郎・井上久榮・中村吉松・葛城文子・風間宗六・廣田昂・

『オール讀物號』に連載された陸直次郎氏の傑作を映畫化す右太衛門最初の主演發聲映畫・一代の梟兒河内山の人間的苦惱と戀愛を描く畢生の繪

半年に一本でもと心頼みに待つてゐたトーキーの傑作がこれだ

全ニッポンを掩ふ映畫藝術の堂々たる凱歌

巨匠衣笠貞之助監督會心のオール・トーキー

晝夜三回興行

十一時開演

賀正

本年も相變らず御引立の程

館主他從業員一同

新春映畫界の話題
日活館の超豪華陣
千惠藏の斬風三尺劍に 大河内の新選組併映

大連映畫界各館の正月第一週番組中最も壯觀を極めたものは、大河内傳次郎主演映畫さ、片岡千惠藏主演映畫さの時代劇界兩巨頭の作品を並列した日活館の番組であらう、由來千惠藏、大河内もの、併映封切さいふ事は東京、大阪、京都三大都市封切館の正月興行以外には絶對に行はれなかつた事で今度日活館が大連に於いて三大都市封切館さ同じく大河内の「新選組」さ千惠藏の「斬風三尺劍」さを併映し、更にその上に、岡讓二、杉狂兒、逢初夢子、水久保澄子、山路ふみ子等現在邦畫界最大の豪華キャストに成れるW・E式オールトーキー「わたしがお嫁に行つたなら」を追加上映するさいふ事は大連は勿論、全國的にその比を見ぬ大壯擧さもいふべく、日活館が天下無敵の陣容さ誇るも亦むべなるかなである

新選組 は千惠プロの名監督稻垣浩が始めて大河内傳次郎さ組んで製作したもので、千惠藏を驅使して「旅は青空」「彌太郎笠」「一本刀土俵入」等數多くの傑作を發表した稻垣が、如何に大河内傳次郎を扱ふか?——全映畫人が環視の中にある問題篇で、この一篇だけでも充分に一見の價値はあらう

斬風三尺劍 は是又、日本のバプストさ呼ばれ、ブドフキンさ謳はれた時代劇監督中の異色小石榮一の監督になるもので、和製ブドフキンの重厚なイデオロギーが明朗千惠藏に如何に反影するか?蓋し近來の興味篇さして期待さるべきであらう、兎に角この三大作品を揃へた日活館の番組は空前の大豪華番組さして全映畫街を壓倒し、驚倒せしむるであらう

その後に來るもの
第二週の名畫
協同映畫多情佛心と千惠藏の雁太郎街道

新春第二週封切映畫中最も期待さるゝものは「多情佛心」さ「雁太郎街道」さであらう

多情佛心 は、日本映畫を愛好する人のすべてが、永い間夢みてゐた——若し日活さ松竹さの二大映畫會社の代表的スターが合同して一本の映畫を作つたら——さいふ理想が茲に實現した第一回の作品さもいふべきもので、前松竹蒲田の大スター岡讓二、江川宇禮雄、逢初夢子それから黒田記代さ日活の花形杉狂兒、高木永二、大原雅子、星玲子等が一丸さなりジャック阿部豐が監督して完成されたもので、この豪華なキャストは日本映畫始まつて以來、未だかつてないこさで、恐らく今後さても、このメムバー以上のものは出來得ないであらう、それ丈にこの一作は何人も見逃すこさの出來ぬ代表的なものであらう

雁太郎街道 は、是こそ日本中のあらゆる映畫人が待望して止まなかつた本邦時代劇監督界の第一人者山中貞雄の第一回監督になるオールトーキーである、恐らくこの一事だけでも此の映畫は萬人に見らるべき價値がある、而も演ずるは、名畫「旅は青空」以來始めての片岡千惠藏さ伏見直江の顔合せである——帝都封切以來、全國のファンを唸らせ、嵐の如き絶讚を浴びたのも當然の事で、日本映畫を語らんさする者は是が非でも一見すべきである、この二大映畫は四日より三日間、日活館にて同時上映さるゝ由であるが公開の日が待たれてゐる

金比羅神社 開運御守贈呈
日活館の大奉仕

日本一の强力番組さ自他共に許す三大映畫の併立を敢行して大衆奉仕に邁進する日活館は更に、正月第一週(元旦より三日まで)に限り、先着入場者一萬名に、特に金比羅神社開運御守を贈呈して日頃の恩顧に酬ゆるさの事であるが、金比羅神社は人も知る海の守り神さして海港都市大連の人々には因縁淺からぬものあり、殊に先般の南部線匪賊拉致事件に際しては、義人村上久米太郎氏の深き信仰によつて拉致者全部無事なるを得た事は周知の事であるから、滿蒙の門戸をなす大連の人々にさつては新春に相應しい絶好の贈り物であらう、日活館では昨年十月下旬四國の金比羅神社に注文を發し、去臘二十五日到着するや直に當地金比羅神社に納めて奉祭し、元旦よりの入場者に頒つべく館員一同齋戒して準備を完了せる由である

日活館の懸賞
正月番組豫想投票當籤者發表

日活館が昨年末懸賞募集した正月番組豫想投票は正解番組及び當籤者左の通りである

◇第一週 斬風三尺劍、新選組前篇、わたしがお嫁に行つたなら
◇第二週 多情佛心、雁太郎街道
◇第三週 クレオパトラ、新選組後篇、日像月像
◇第四週 商船テナシチー、アルプス大將、利根の川霧
◇第五週 黒騎士、乃木大將、國定忠治

當籤者氏名

一等(日活館一ケ年定期入場券)市内桑町一神原市太郎、同東公園町吉丸芳子、同錦町八の四三山下美智子

二等(日活館九ケ月定期入場券)市内臥龍臺日笠八重子、同甘井子新西晃一、同八幡町四北村和夫、同壹岐町一野田茂、同伏見町二六高田まき

三等(日活館六ケ月定期入場券)香取亨、上田正道、萱原朋一、野田玉子、萱原房子、臼井千代子、入賀しげ子

四等(日活館三ケ月定期入場券)大江靜、新田壽男、小山田志慈子、粟田操、濱畑榮二、内野宮種美、石原有章、關靜惠、今村登志夫、山本芳登

五等(日活館一ケ月定期入場券)加藤健太郎、河波國雄、新井紫光、中村茂、富田伯一、後藤豐、板屋春子、福永春子、軍神貞一、中野秀夫、緒方一光、杉村長次、俵動一、藤本功、林田峰喜

等外(日活館入場券)小竹明、坂本樹一郎、小森ツキヱ、江頭猛、白井正吾、中橋義信、山部寅雄、西尾武典、秋元愛助、辻茂男、松本太郎、山本清一、吉田一郎、井口俊彥、三井美年子、田浦兼一、小島豐三郎、青柳秀敏、谷田峰子、萩原正夫、森本猛、遠藤昌俊、新美一喜、山川文子、山本登里子、田中博、近藤久夫、吉田丈夫、眞鍋次朗、佐藤きん子

日活館の 吉例早朝興行

日活館は正月興行の間、例年の通り早朝興行を催す由であるが、今年は午前九時開場九時半開映さし、午前十一時までの入場者に限り特に各等三十錢引さする由

寫眞は上「多情佛心」の逢初夢子さ江川宇禮雄、下「雁太郎街道」の千惠藏さ伏見直江

めでたき新春は皇太子様から
御三歳の春を迎へさせられて 益々御健かな御近狀

日嗣の皇子繼宮明仁親王殿下御三歳の新春は御誕生初の晴れての新年である、昨年宮中は御喪中にて初の新年も御靜かに過ごさせ給ひ側近者一同恐懼申上げたが、今日こそは

晴れの

朝儀も輝かしく殊に大奥におかせられてはめでたき春は皇太子殿下よりさこそ拜されたが

皇太子殿下には御肥立彌々勝れさせられ、既に御三歳を重ねさせ給ふも御風邪一つ召されず、御見事に御成育、舊臘廿三日第一回の御誕生には御體重二貫五百八十八匁、御身長二尺四寸四分に在はし、天禀の御英資は日と共に勝れさせ給ふと承はるが天皇、皇后兩陛下の深き御慈愛の程はまた格別にて、御誕辰近くまでの御授乳は勿論、御召物から御髮の御手入れなども長くも皇后陛下親しく御心を注がせ給ふさの御ことである、宮中の御團欒は常に皇太子殿下が御中心さならせらるゝ趣であるが、殿下には御物わかりあらせられてからは御兩親陛下や御姉宮樣方が御近く成らせられるさいさも御嬉しげに片言交りの御言葉など遊ばされて御慕ひになり、又最近ではおんもに出でさせ給ふ折には御乳母車に召されて非常に御可愛らしく拜され、又

御喜び

遊ばすさ承はる皇后陛下には天禀御豐に御成長遊ばす御模樣を御日誌に記されつゝ御將來の御多幸を祈らせ給ひ、また御養育に就いては特に御留意遊ばされ、御幼少の御時から御召物なども御質素を旨させられる畏き思召にて、やんごとなき御身體に滲らせられ乍ら木綿の御襦袢に、御服は白の富士絹を用ひさせられ御靴下なども御母陛下御手づから御編みのものを用ひさせられるさ承はるは畏き極みである、既に御離乳遊ばされた皇太子殿下にはお粥、果汁、牛乳、野菜の裏漉しなど召される由に承はるが、御齒も段々

御揃ひ

遊ばすことゝて御飯を召されるも御近きことゝ拜される

御尊體の御力づきも目について勝れさせられ、御可愛らしい御洋服に御靴を召されて兩陛下や御姉宮樣の御手々に御縋り遊ばされ、御ひろひにて御內苑を御散策遊ばさるゝのも、冬着を脫がせられて合着を召される春から初夏の頃かさ拜察申上げる次第である

嚴かな歳旦祭

【宇治山田發國通】常盤の綠も濃き神路高倉の山々に初春の黎明さしそめんさする一日午前四時神宮に於いては神の森に莊重なこだまを繰り返す第一鼓を合圖さして祭主三條西、苑田神宮大少宮司以下神官總員、內宮齋館に參集し、第三鼓の合圖にて白張奉仕の松火を先頭に純白の祭服に身を固めたる諸員は威儀を正し靜々と皇大神宮內院に參進、中重の版に着き伶人の妙なる奏樂裡に正宮大御前に神酒をはじめ海山種々の幸を獻進して嚴かな歳旦祭を執り行はせられ新しき年の始めを祝ひ、寶祚の無窮を祈り奉り、國運興隆、五穀豐穰、商工賑盛を祈念して三條西大宮司恭しく祝詞を奏上した、ついで同九時豐受大神宮に於かせられても同樣御祭儀を進めらる

滿支をつなぐ郵便 新春輝に復活
普通郵便は一月十日から 先づ賀春のたより
通郵問題解決

【新京電話】關東軍司令部發表＝永い間の懸案であつた滿支間の郵便業務回復に關する問題は、今回愈々關東軍側と上海郵政總局側との間に圓滿解決を見、先づ一月十日より普通郵便を、次いで二月一日より爲替、小包郵便の取扱ひを開始される事となつた、之に伴ひ滿洲側より中國宛て郵便料金は次の如く決定した

（イ）通常郵便物

書狀　二十瓦毎に料金四分

通常葉書　二分

業務用書類、書籍、印刷物、盲人用點字印刷物又は凸字書籍、商品見本、新聞紙の料金は現行國內郵便に關するものに同じ

【備考】從量制限は國內郵便に同じ

特殊取扱料金

書留料金　八分

快信（速達）料金　八分

書留郵便物に限り快信（速達）取扱ひをなすものについては快信（速達）郵便物取扱ひ料金一角六分となる

到達書料金　四分

△郵便物差出し後は八分

其の他請求料

△取戾し又は名宛變更、蹤跡取調△取戾料金八分　差立郵便着手前△名宛變更料金一角二分　差立郵便後△蹤跡取調料金八分

（ロ）鐵道郵便物

料金一瓩まで四角

國內遞送について二單巡費を要するものは一單巡費、三單巡費を要するものには二單巡費を上記の料金に加へ、又鐵道、汽船の通ぜざる地域に於ける郵便物引受けの場合は更に特別料金を徵收す

重量制限　は十瓩までとす

十瓩超過の場合は一瓩又はその端數毎に二角、但し右料金の外雲南省內各地宛て小包郵便（四川省經由を除く）に付いては左の特別料金を差出人より徵收す

重量一瓩まで七角、二瓩まで八角五分、三瓩まで一元〇五分、五瓩まで一元二角、七瓩まで一元七角、十瓩まで一元九角

特殊取扱料金

△代金引替郵便料金　代價金額の百分の二

特別取扱料金

通關料　一角

保管料　到着報知通發行日より十日間、十一日目より一日（但し二元を超ゆるを得ず）小包一個に付き五分

其他請求料金

△取戾し又は名宛變更　取戾し料金八分（郵便差立前）

△代金引替金額取消し又は遞減一角二分、名宛變更一角二分（郵便差立後）

△蹤跡取調べ料金八分

△價格表記郵便物、通常郵便物、代金引替、課金別納郵便物は取扱はず

（ハ）郵便爲替料

十圓まで一角五分、二十圓まで二角五分、三十圓まで三角五分、五十圓まで五角五分、百圓まで一元、百五十圓まで一元五角、以上五十圓又はその端數毎に四角を課徵す

僅に二ヶ月にて 重大懸案解決
關東軍代表　藤原保明氏談

今日發表の通り永い間の懸案であつた中華民國との通郵問題が全く解決され双方の爲何より慶賀に堪へない、今回の協議に際して私は關東軍代表として北平に參り技術家の一人として之に參加したのであるが双方の代表者皆公衆の便益增進に專念し誠心誠意和衷互讓の態度を以て協議を進めた結果事務的技術的に多くの難問があつたにも拘らず順調に進行して九月廿八日第一回の會合を催して以來二ヶ月餘を費したが十二月十四日に遂に圓滿なる解決を見たのである、本會議は通郵の事務的技術的の連絡方法を研究する協議會であつた爲、初めより政治的意味を有する問題には全然觸れない諒解の下に協議を進めたのである

×

斯る複雜多樣なる問題が斯の如き短時日に於て議了されたのは在來の諸種の協議の經過と比較して聊か滿足に思ふ次第である、然し一面これは民衆の熾烈なる要望が反映した當然の結果であるともいへないことはない

×

顧れば昭和七年七月二十四日滿洲における中華郵政當事者が全滿における郵局を悉く閉鎖し南方に引揚げたのでその後を承け我々は直に郵政接收を爲し、一面內國郵便機關の建直しをなすと同時に對外通信連絡の完璧を期することゝしたのであるが諸外國に對する關係は日本を初めとし歐米各國とも當方の郵票を以て當初より完全に對外通信を行ふことが出來たのであるが、只中華民國との關係のみは前述の如き次第で一時短時日ではあつたが、通信が全く杜絕したこともあつたのである、其の後人類社會生活の必要上徐々に通信數量の增加を見、最近では滿華間の郵便は山海關を通過する郵便だけでも發着とも各々一日三萬通に達するの狀態になつたのである、併し乍ら中華側に於ては當方の切手を承認せず、名宛人から倍額の不足稅を徵して居るのである、無論之は通常の書狀葉書などに限られて書留、快信などは今尙その取扱ひが出來ないのである、其他小包爲替などは初めより全く取扱ひを停止して今日に及んだのであり斯くの如く郵便關係の圓滿を缺いた爲め今まで社會生活の各般に亘り頻繁なる交涉關係をもつてゐた滿華双方の一般は多大の苦痛を感じて居られたことゝ思はれる、殊に商取引關係などは通信連絡を缺く爲に著しく支障を來たし中華側よりの對滿貿易は激減して中華側の損失も多大なものであつたかさ想像される

×

斯樣な通信交通上の一大支障が取り除かれ一月十日からは愈々書狀葉書、書留、快信等通常郵便物の交換が開始され、又二月一日よりは今迄全然停止されて居た小包爲替等の取扱が開始さるることゝなつたわけで、今後は南方に於ける名宛人が不足稅を徵收せらるゝことも無くなり感情上も非常に良い結果を齎す事と思はれる、なほシベリアを經由して中華民國に發着する郵便物も當方を通過することとなるから歐洲各國と中華民國との通信も著しく敏速になることと思ふ、之を以て當方の郵便業務は對外關係に於ても他の獨立國と同樣世界各國との間に完全なる連絡が出來ることゝなつた譯である

人類の福祉 增進の爲
高中華代表談

【北平三十一日發國通】通郵問題を鮮かにやつてのけた支那側の立役者高主席代表はホツとした面持ちで語る

實際の外交に當つたのは今度が始めてです、私は汪行政院長に此の役を仰付つた時私は郵政のことに關しては全く門外漢ですし、家族や友人は擧つて反對しましたので斷らうと思つたのです、併し汪氏が「君のやつた仕事の一切の責任は自分が引受ける」と言はれた一言に「人生意氣に感ずる」心境で此の大役を引受けたのです、問題解決に對し相當毀譽褒貶もあるのでせうしかし私は此の問題を解決することは人類社會の福利增進を圖る事であると言ふ道德的觀念と國のためには一身を犧牲にしてとの固い決意の下にやりました

【寫眞は藤原氏】

【寫眞は高氏】

淨めの雪に…… 理想的なお正月
寒氣は相當烈しい

舊臘中は滿洲に邦人が來て以來の暖かさで、大連などは水も張らずこのまゝ正月に入るのではないかと疑はれたが、流石に三十日の夜半から北風が吹くと共に氣溫がぐつと下り、大晦日の朝は

全滿　各地は次のごとく一齊に嚴寒となつた

△大連零下四度△營口零下十度△奉天零下十三度△四平街零下十七度△新京零下二十度△哈爾濱零下二十五度

かゝる氣候の激變は北滿に久しぶりに七百七十八粍といふ高氣壓が發生し、これに對し東支那海に七百五十六粍の低氣壓が起り、北東に向つて進行し出したためで、從つて北支那、遼東半島から朝鮮にかけて雪となり、大連でも正午近くまで淨めの雪が續いて大晦日にふさはしい情景を呈した、しかしながら

三日　間くらゐは天氣が續くから、正月奉天以北は高氣壓の圏內に入つて快晴で、南方の低氣壓も日本海から北海道方面に進路を取つてゐるが、たゞ寒氣は相當嚴しい豫想だが、興安嶺方面に天蓋のやうな大高氣壓が立つて全滿の妖雲を追ひ拂ひ理想的の正月日和となるだらう

二百万圓の重荷を負うて
密輸の首魁河田氏歸る

日滿兩地を結ぶ金塊と寶石の大密輸を敢行し、その罰金と追徵金百九十三萬圓に上るといはれる密輸團の首魁として一件書類を神戶地方檢事局に送られてゐた大連市三淸洋行河田淸二(四)同水明莊近藤三禰(四)の兩氏は身柄不拘束のため三十一日入港うらる丸で約四ヶ月振りに大連に歸つて來た、上陸に際して同氏は語る

今は何も話す自由を持つてゐませんが、密輸事件から、大連市民の名譽を汚したことは衷心申譯ないと思つてゐます、今回引つかゝつた密輸は三年程前のもので、その後ずつと止めてゐたのです、大體金塊十二貫、寶石六萬圓程度で、この罰金追徵金約二百萬圓といふやうな莫大なものは到底一生かゝつても拂へません、然し分納が出來ることになつてゐます、西川君が取調べを受けたに就いてこの事件に關係があるかどうかは私の口からはつきりした事はいへません

東北大生ら 十名遭難す
短艇遠漕中の椿事

【東京三十一日發國通】仙臺第二高等學校短艇部員七名は先輩東北帝大ボート選手三名と共に宮城縣鹽釜港で冬期練習中だつたが、二十五日午前十時遠漕のためスライディングエイトに乘込み鹽釜の艇庫を出發、石ノ卷に到着三泊二十八日午前九時石ノ卷を發し歸路についたが、午後三時の豫定時刻に鹽釜に到着せず、二十九日に至るも手掛りなく二高、東北帝大では各方面に調査を依賴し松島灣內一帶を搜査したところ、顚覆せるボートとオールを發見、十名全部遭難した事明かとなつた、廿九日は夜に至る迄搜査をなしたが吹雪のため一名の死體をも發見出來ず三十日は幸ひ快晴に惠まれ早朝より三百隻の漁船に依り大搜査陣を張り灣內を隈なく搜査の結果、先づ午後一時三十分一名、次いで四時迄に七名の死體を發見した、遭難者氏名左の如し

△東北帝大醫學部四年松本篤△同二年石井五郎△同一年伊藤直淸△二高理科二年靑山勉△同文科二年鑓川忠男△同加賀山俊雄△同高橋眞治△同理科三年持田達也△同一年佐藤眞逸△同石井鐵造

旅順の初春興行

新春の旅順興行は依然映畫陣を以て臨まれ市民待望の〃立物〃には全く接する事が出來ない

▲映畫館　元日より二日間日活オールトーキー「花嫁寢臺列車」大河傳次郎映畫「水戶黃門」三日より「海底の暴君」日本語トーキー新興現代劇「熱風」其他

▲昭和園　新春と共にパール・サウンドシステム機トーキーを常備し煖房の完備とお菓子制を廢し元日よりオールサウンド栗島すみ子、藤井貢共演の「夢のさゝやき」右太衛門、白石明子主演の「腰返り仁義」を競映

東北凶作義捐金

▲八十五圓三十六錢新京室町小學校自治會▲二十圓住友大連クラブ▲計百五圓三十六錢

けふのメモ

▼元日祭　午前八時より大連神社沙河口神社に於いて執行

▼新年祝賀式　午前十一時半より大連神社にて

▼市役所祝賀會　午前十時半より市會議場にて

▼民政署拜賀式　午前十時より擧行

▼本社年賀式　午前十時半より三階講堂にて

▼各學校拜賀式　午前十時より

▼旅順開城三十周年記念祝賀式　午前十一時半より昭和園にて

▼旅順要港部拜賀式　午前八時司令部に於て

▼關東州廳拜賀式　午前十時會議室に於て

天氣豫報（元日）

北西の風 後晴れ曇

各地溫度（三十一日午前十一時）

大連零五　奉天零九　旅順同三　新京同十三

ラヂオ
全滿各局三ケ日の綜合プロ

一日

◆午前の部◆

六・三〇（東京）「明治天皇御製謹話」樞密顧問官子爵石井菊次郎

七・〇一　春の鳥（札幌、仙臺、東京、名古屋、大阪、廣島、熊本）

八・三〇（全滿中繼）奉祝歌一、君が代（大連羽衣高女生）二、滿洲國歌（大同女子技藝校生徒）三、年の初（大連羽衣高女生）指揮伴奏村岡樂童「年頭の辭」電々總裁山內靜夫、滿語通譯內藤亥三郎

九・二〇（東京）謠曲（一）梅（二）勅題「池邊鶴」觀世左近

一一・五〇（東京）雅樂平調音取一、嘉辰（朗詠）二、鷄德（唐樂）三、延喜樂（高麗樂）宮內省雅樂部

◆午後の部◆

〇・二〇　長唄「操三番叟」田中秀石他四名

〇・五〇（東京）管絃樂一、序曲「獻堂式」二、交響曲ハ長調ジユピター（日本放送交響樂團、指揮近衞秀麿）

一・三〇　箏と管絃樂（大阪桃谷演奏所より中繼）一、鶴の聲二、春の曲（大阪放送交響樂團、指揮宮原禎次）

五・〇〇（東京）子供の時間、童話劇三部曲「輝く日本」第一部「建國日本」作並演出東京童話劇協會、解說指揮秋山龍司

五・二五（東京）講演「年頭所感」內閣總理大臣岡田啓介

六・三〇（東京）詩吟一、富士山二、乙亥新年三、恭賦勅題池邊鶴四、富士山（大廊博之）

六・四五（東京）長唄「連獅子」芳村伊十郎外

七・一五（東京）常磐津「子寶三番叟」常磐津松尾太夫外

七・四〇（東京（舞臺劇「伽羅先代萩」（足利家御殿の場）中村歌右衞門外

一一・五〇（大阪）掛合義太夫「七福神寶入船乘合藝廻の段」豐竹古助外

◆午後の部◆

〇・三〇　獅子舞の地方色（仙臺）陸前獅子舞（東京）多摩川等々力の獅子舞（名古屋）嫁獅子勢州阿漕浦平治住家の段（大阪）播磨甘地の獅子舞（廣島）宇和島の八鹿踊（福岡）筑前香椎宮獅子舞

一・二〇（東京）彈初め一、長唄「新曲可祝の柳」二、ピアノ獨奏「ヘンデルの主題による變曲と遁走曲」三、清元「名寄壽」四、ハープ・ソロと二重奏

二・四〇（東京）尺八と箏の合奏「松竹梅」名和榮次郎外

五・〇〇（東京）童話劇三部曲「輝く日本」第二部「開國日本」作並に演出東京童話劇協會

六・三〇　笑の夕（東京）落語「二番煎じ」三遊亭圓生（大阪）二人漫談「僕の家庭」エンタツ、エノスケ（東京）新作漫談「ジヤズ小唄漫談」榎本健一外（同）落語「啼の猪」柳家三語樓（大阪）漫才「芽出度く目が出る」林田五郎、柳家雪江

二日

◆午前の部◆

六・三〇（東京）「明治天皇御製謹話」海軍大將有馬良橘

七・〇一　千羽鶴實況（鹿兒島縣出水郡米ノ津町荒崎鶴見亭より中繼）

八・三〇（東京）子供の時間お話「日本國民として何が大切か」陸軍大將荒木貞夫

九・三〇（新京より全日滿）年頭の辭關東軍司令官南次郎

一〇・〇〇　謠曲「鶴龜」觀世流景泰一郎「草紙洗」寶生流片桐敏博

一〇、四五　清元「四季三葉草」世の春駒」木村富太淨瑠璃淸元延榮加津、三岩碌淸元榮造

三日

◆午前の部◆

六・三〇（東京）「明治天皇御製謹話」陸軍大將男爵奈良武次

八・三〇（東京）子供の時間「池邊鶴」大阪童話劇協會

九・〇五　特殊講座（二元放送）俳句の初旅「神詣」（關東）高濱虛子、高安風生（關西）松瀨靑々、塚本虛明

一一・五〇（東京）小謠「御謠初儀式實況—上野東照宮より中繼一、四海波二、老松三、東北、四、高砂五、弓矢立會、觀世左近外

◆午後の部◆

〇・〇〇（東京）管絃樂（日本放送交響樂團、指揮尾原勝吉）

一・三〇（東京）尺八「楽獅子」荒木古童外

一・五〇（東京）俚謠と端唄一、ぴよく\節二、おけさ三、立山節四、切島田（勝太郎）

二・〇〇　琵琶「旅順口國の御柱」萩原秋彥

五・〇〇　子供の時間童話劇「輝く日本」（三）東京童話劇協會

六・三〇（東京）「淸元女婦酒替ぬ中仲」（鞍馬獅子）淸元喜久太夫外

七・〇〇（東京）歌謠物語「女の友情」岡田嘉子

七・五〇（東京）浪花節「牧野出

號外發行

滿支間の通郵問題解決に關し三十一日號外を發行しました

淨めの雪に莊嚴の極【きのふ大連神社にて】

由比正雪 (134)

悟道軒圓玉演　武田一路畫

家光公薨去

漸くに追捕を遁れて牛込の邸宅へ戻つた由比正雪は、戸村丹三郎金井半兵衛の兩人に對ひ、

「伊豆守を刺止めたか」

と問ふた。すると丹三郎が、

「殘念ながら爲損じたやうに思はれます」

「さやうか、コレ金井、其方は何う思ふ、銃を發したが刺止めたか」

「何等の手應へも無きところより察するに、甚だ遺憾ながら爲損じました」

「さても殘念。それにしても伊豆守は好運であるナ、斯道に達せし其方共が打洩せしは、未だ伊豆守の命數の盡きざる事と思ふ」

と申して歎息した。

併し此の上は伊豆守の下城致すを待つて鐵砲にて刺止めんと其隙を窺つたが、好い機會を見出す事が出來なんだ。

すると慶安四年七月二十日徳川三代の將軍家光公薨去、年四十八英雄ではありましたが五十に成らずして世を去つたは洵においたはしき事。尤もこの方は幼年の頃から多病でした。

將軍薨去に就いて歌舞音曲は停止、市中は憂ひに閉ぢられてさながら水を打つたやうに靜寂です。

四代將軍家綱公は此時十一歳、それですから此後は何うなるかと譜代の家臣は大いに心を苦めた。

此の虚に乘じて正雪は大事を擧げんと決心して玆に協議を重ね、將軍薨去の翌二十一日に僅少の供を伴れて江戸を出立して駿府に行き、彼の地にて江戸から參る兵を待受けて久能山へ籠ることにした。江戸の大將は丸橋忠彌、その參謀は柴田三郎兵衛、江戸の市中諸方に火を放ち此の混雜に紛れて葵の紋の付いた高張の提灯を高く掲げ紀伊大納言殿御登城と揚言して城に入り家綱公を捕虜として駿府に連れ行く事にいたしてある。恐ろしい事を考へたものです。サテ是が脚本通りに滅つた日には大變ところが意外に早く此大事が發覺した。

それは二十二日の夜の事、牛込の正雪の屋敷に集會した將校七、八名、反旗を擧げるに就て再び協議を致し、萬に一つも手落の無きやうと用心の上にも用心をした。

此事終つて後に酒宴を開く事になつたが、時に忠彌がそれに居る奥村八郎右衛門に對ひ、

「奥村、いよ〳〵我々の志望を達する時節が到達した。就ては明日にも戰ひを開けば當分好める圍碁を樂しむ事もなるまい。何うだ一局參るか」

と言はれて奥村も好める道さて

「敎へてやるかな」

「失禮な事を申すな。敎へてやるとは此方より申すことだ、さア參れ」

次の室より盤を取寄せた忠彌は

「さア出ろ」

「何だともう一度申せ」

「先手に出ろ」

これを聞くと奥村はアハヽヽと打笑ひ、

「ナニ、先手に出ろと、先手に出ろと申す以上は黑石をおれが取るのか」

「さやう、何時も貴公は拙者に負けるではないか、然らば黑を取つて先手に出ろ」

「よし。その高慢の鼻をヘシ折つてくれる、參れ」

と、これから烏鷺の戰ひを開いたが、奥村の石が大分優勢で丸橋の石が亂れて來た。それを見て忠彌が、

「これは意外な事をしたナ、小敵と見て侮るなとはこれだ。聊か油斷いたせし爲めに大事の一角を破られたか、コレ奥村、此の一目を待て」

「卑怯なことを申すな」

「イヤさうでもあらうが是は拙者の過失だ。これだけ待て」

「イヤならぬ。こゝを待てば、貴公には利益があらうが、おれには大の不利益だ。こゝ生死の境。それを待てとは怪しからぬ」

「そんな事を申すな、コレ奥村、貴樣はおれの部下ではないか。さすれば大將の命令には從はずば成るまい。今にも砲火を擧げる時は拙者の指揮に由つて貴樣は奔走いたさねばなるまい」

「默ンなさい」

と双方の語が荒くなつた。

モダン小咄
お父さんのお正月

子供「お父さんお屠蘇つて何に」

父親「お屠蘇つてお酒の一種でお正月にのむものだよ」

子供「ぢやお父さんはいつもお正月なのね」

父親「どうして」

子供「だつていつもお母さんに、お屠蘇のつもりだつていつてるんですもの」

王道樂土の迎春

瑞雲たなびく紫禁宮

三日にわたる新歳典禮

◇帝政の新春慶びに明けて、滿蒙の天地は聖天子仁政の光洽く、三千萬蒼生は均しく惠澤に浴して王道樂土の聖代を壽ぎまつり、地平線上に射し昇る眞紅の太陽も歡喜と平和に充ち滿ちた黎明を迎へる此の佳き日、仰ぎ見る紫禁宮上瑞雲たなびき、皇帝、皇后兩陛下には御共に寶算御三十歳の新歳をいと御健かに迎へさせられた。

◇建國の大業成りて四星霜、帝政布かれて茲に二歳、皇帝陛下には晝夜を分たせ給はず順天安民の大旨により五族協和の力強い建國理想の具現に御精勵遊ばされるを拜承するだに畏多い極みである。

◇けふしも皇帝陛下には早旦御潔齋あり國運の隆昌萬民の安居樂業を御祈念遊ばされ、午前十時御正裝にて勤民樓式場に出御遊ばされ、在京文官簡任以上、武官少將以上の朝賀を受けさせられる次第で、明けて二日は正午より文官簡任以上、武官少將以上に賜宴の御儀あり、三日は午前十時より文官薦任一等より四等まで、同十一時より武官上校より上尉までの朝賀を受けさせられ、賜酒の御儀を行はせらる。

◇かくて目出度く三日に亙る新歳典禮を終へさせられる御模樣である、この間なほ政務、軍務を御親裁遊ばされ、王道のひらくところ、五色旗のひらめくところ、三千萬蒼生の多幸を念願遊ばされる大御心は拜し奉るだに畏れ多い極みである。（寫眞は興運門）

順天應人の聖業

國務院總務廳長　遠藤柳作

毎年大晦日の夜私は眞山氏の詩の一句「一年也是等間過百歳只消如此看」を念頭に思ひ浮べ感慨の轉た愴然たるものが有つたが、特り昨年の除夜のみはまだ午夜の鐘も聞かぬうちから同じく眞山氏の詠んだ「陽和忽轉氷霜後元日還如天地初」とある歡喜の情が胸一杯に湧き起つたのである。

卽ち去年三月一日には　聖上陛下が天の明命を南郊に奉若し給ひて登極の大典を四海歡呼の中に擧げさせられ、萬世動きなき國基を世界列强の間に奠め給ひたることは、書經商書に謂ふところの「天我が有商に私するに非ず。惟天一德を佑く。商下民に求むるに非ず惟民一德に歸す」と其軌を一にするもので、今更に順天應人の聖業と頌し奉るも畏多く、然も全國の津々浦々より奉祝の賀表未だ禁門に達し切らぬうち早くも六月には御名代宮秩父宮殿下の御臨滿を忝うし、親しく日滿兩國永久渝らざるの盛德を盛戴せしのみならず、平和の祥瑞が東亞の大空より全世界に照曜する餘光を拜して感激の極只涙あるのみであつた。身乏を總務廳長の職に承け、一片の丹衷を天日に捧げ、同寅各位の協力を辱うし此の曠古の大典盛儀に駑駘の任を盡す事を得たるは、生涯の光榮として「一年也是等間過」きざりしことを深く肺肝に銘して居る。

十二月一日から實施した新省制度は、年來研究の成案を實行したもので、その實績如何は問はずして明かであるが、古來「民は其始を圖るべからず、其終を樂しむ」といふのが爲政者の心得になつて居るから、更始一新の事業には民をして其終りを樂しましむ可く、其始めに大努力を要する事は勿論である。幸ひに兩國の濟々たる多士一致團結して新なる春王の二年の希望に踊躍邁進しつゝあれば、私も不肖を鞭撻し畢生の心血を傾注して皇化の萬一を裨補すべく天地の神明に誓ひまつつた次第である。

興民更始
康德二年正月　孝胥

萬物生光輝
乙亥王春　柳作

康莊大道に進み 既に庶く且富む

實業部大臣　張燕卿

我滿洲は建國以來最早三年になるが、この間に内閣の總ての政治施設並に各部主管業務の措置は如何に偉大なる成績を擧げたかは敢て説明を用ひない、要するに艱難險阻の中より康莊大道に進み、繁盛に趨き此の途に循つて往けば論語に所謂「既に庶く且富む」と謂ふ國家に必ずや到達することゝ思ふ。先づ

實業部に　就ていへば鑛業法の制定は着々進行し各地鑛業監督署も既に成立を看、農林方面に於ては農村救濟、種籽改良等の如き皆確實なる方法を以て處理しつゝあり、又農林技術員養成所を設置して人材を養成し更に龍江、克山等偏僻の地方には農事試驗場を設け各省區には森林事務所を分設し、漁業局の改組、牧畜場の籌辦等諸事業の發展指導の能力を發揮して居る、又臨時産業調査局の如きは全國の富源開發の先驅であり權度局や商標局は各國の瞻望の標的となつてゐる。一方之に加ふるに工商方面に於ては諸企業を提唱し電業の統一、糧石交易所の等順次實現せられ更に自動車、採金、炭礦、棉花、石油、計器各株式會社の協助經營を看るに至つたこの豫定方針に基き各方面皆勉勵し日一日と

富源開發　資産の增…來する樣職員一致協力して年…に進みたいことは私の最も…る所である。又私の最も感…のは日本が明治維新以後數十…出てざるに民智の向上、科學…備、工商各業の發達一日千里…ひて歐米各國に比べて所謂…より出づるの觀があることで…私は過般東京、大阪其の他…に再遊し朝野の名士に接し、…名論卓説を敬聽して裨益する…大なるものがあつた、殊に各…工場等を縱覽しまして十餘年…留學當時に比べると驚異すべ…歩と廣大無限な企圖の存する…めて實に驚佩した次第である…や我滿洲は建國後僅かに三年…らざるも幸ひに友邦の協助を…に浴して今日の盛觀を呈した…後共榮國同心奮至を脱して…順應して行けば彌々隆盛に…

寸蹤に始る　「萬里を行く者も一歩一歩が肝要である、…歩に始まり蹉差を積む者は…

冀くば共に此協力合作の精神に基き徒らに安逸を貪らず遊惰を戒め奮勵努力以て野に曠土なく、邑に遊民なきの境涯に達し豐亨の福利を享けんことを祈るもので所謂「日計足らず月計餘りあり」の通り國民一致協力事に當らんことを望むものである。

天清く地寧

沈瑞麟

皇上御登極の元年、王道の治績を成ふ、人民の康樂甫めて一年に及べり、此の一年中皇上日に幾多の業務を勤め、未だ一日の安きに遑あらず、十月間爰に師旅を整し、親臨して容風凛冽中に…

茲に於て政府は地方制度調査委員會を設立し、愼重に考察を經て、客年十二月一日地方制度の改革を實行し、以て施政に利す、原在の四省を以て地理の形勢及歷史の沿革に依り分ちて十省となす中央既に統轄し易く、地方亦政治…

其尤も歷史上の重要の一頁を占むるは地方制度の改革となす、我滿洲國建國以來、一切の法制は殆ど尙舊政權時代の舊規に據れり、新國家の施設に對しては殊に適せざるなり、而して亦新國家の立國精神にも反するなり。

…基礎々鞏固たり、日本帝國に繼きて南米サルバドル共和國は、ローマ法王亦特に滿洲帝國を承認し、又外交方面の重要事件たる北滿鐵道買收交涉は相互折衝紆餘曲折を重ね幾度か決裂に瀕し、善隣日本の斡旋の力を藉り談判を繼續し日に接近に趨けり、其他米國記者觀察團、英國産業調査團等相繼いで來り實地に新國家の眞相を觀察す、ドイツは卽ち經濟代表を派し貿易の開始を提議し、佛國は卽ち滿鐵と合資して、物產を經營せんとす、此れ皆過去一年間における我國の好現象なり。

希望の新春

齊默特色木丕勒

元旦題詞

臧式毅

遺型舊制消滅

謝介石

亥年生れの滿洲國の名士

文教部次長　許汝棻氏

訪滿の某貴族院議員が許氏の印象を「進士華やかなりし頃の清朝の大官を髣髴させる」と語つたことがあるが、しかし許氏の態度は古典的である、一度次長室を覗いた者は堆く積まれた書類を丁寧に見てゐる簡素な老人の姿をそこに流れる靜寂な空氣に觸れ直に許次長の存在かいきり立つ青年官吏の多い滿洲國の中に異色ある存在であることを發見する、鄭國務總理が大臣を兼務する文教部に於ては許次長が事實上の首腦者だが、同氏の一日は滿人の大人に有勝な尊大ぶつた生活と異り表も裏もない興醒的官吏の生活であつて、文教部の空氣は常に清新て、鄭總理が滿洲國に最も大切な第二國民の育成を同氏の人格を見込んで託してゐるのも宜なる哉と云へやう。

同氏は本年七十三歳、同治二年十二月江蘇省丹徒縣に生れ、若くして進士の試驗に及第し、清朝に仕へること十年、天津湖北造幣廠會辦、福建大清銀行總辦宣統元年福建財政管理官を最後に清朝に殉じたが以來清節を守つて仕途に就かず滿洲國の氣運漲るや鄭氏に從つて渡滿し建國運動の裏面に在つて誠心以て事を處理しその功勞顯著なるものがあつた。

大同元年七月文教部次長（簡任一等）に任ぜられ今日に及んでゐる。

奉天省警務廳長　三谷清氏

三谷氏は亥年生れではあるが決して猪武者ではない、その證據に滿洲事變勃發當時の奉天憲兵隊長として氏の採つた措置は細心大膽頗る機宜を得て、今尙ほ在留邦人の繰返して感謝するところとなつてゐる、又同氏は建國運動を側面から援助し、東奔西走、眞に建國の功勞者といふべく、今日の地位に在るは偶然ではない。

氏の略歷は明治四十二年士官學校卒業、少尉に任ぜられ憲兵に轉科し、姬路、大阪、横濱、名古屋各地憲兵隊長を經て昭和二年奉天憲兵隊長たり、事變後衆望されて退き滿洲國入りをなしたのであるが、新興國警察制度確立は當り氏の手腕に俟つ所多大とされてゐる。

第四軍管區司令官　于琛徵氏

昨秋から暮へかけての吉林北區の大討伐に第二軍と協力し…下軍隊を活躍させた于琛徵…武名は餘りにも有名である…省雙城縣出身の生粹の滿洲…本年四十歳、幼にして軍人…北洋陸軍速成學校騎兵科を…北軍入りをしたが、黑龍江…官を振出しにトン〳〵拍子…して吉林軍第十旅長、吉林…第十六師長及陸軍副軍長、…軍剿匪司令官を歷任、滿洲…

品川主計氏

尹祚乾氏

張文鑄氏

賀正

奉天省公署
省長　葆康
總務廳長　久米成史
警務廳長　三谷清
教育廳長　韋煥章
實業廳長　曹承宗
民政廳長　劉貢初

滿洲國第一軍管區司令　陸軍上將　于芷山

奉天市政局　市長　閻傳紱

奉天稅務監督署　啓彬　阪田純雄

兒玉常雄

稻葉逸好

美濃部俊吉

吳恩培

中央銀行　高木鐵二

山本盛正

向坊盛一郎

澤田鍬治

後藤英男

根本富士雄
趙壽芳
中村富士太郎
釘宮松三郎
金丸富八郎
香取眞策
下田文一
池田龍雄
遠藤眞一
推名義雄
岩本宗太郎
中島俊雄
米村甚次郎
吉田正雄
董毓舒
道滿讃吾
野田九郎
野口多內
小杉洋行　小杉與治郎
小松稔介
花井脩治
錦織足喜代
庵谷忱
藤井重郎
西尾一五郎

齋藤寅吉
森和一
今村榮松
上田利一
上木仁三郎
久保田伊平
田實大次郎（舊名久次郎）
森眞三郎
近藤繁敏
石本力藏　奉天稻葉町四〇

奉天地方委員（いろは順）
磯邊浪治　伊東善吉　岩本宗太郎　伊藤長次　伊東祐丘　鎌田正暉　金丸富八郎　高垣信郎　那須要　中田卯吉郎
菊地秋四郎　小森清次　鯉沼忍　荒木馨　安倍袈裟男　佐伯直平　佐竹武志　齋藤邦造　室川隆　鹽尻彌太郎

奉天學校長團

滿洲醫科大學　僚友會

奉天七日醫會

日本赤十字社奉天病院

瀋陽縣公署

奉天稅捐局

喪中ニ付年始ノ禮ヲ缺ク　先川喜代次

寺島寫眞部

賀正

大連・營口

大連市山縣通市場內　山縣通市場事務所　電話二―七二三五番

大連市紀井町六二　大連起業倉庫　電話二―八三六七番・二―八三六八番

大連市濱速町一四六　小間物商　今中洋行　電話二―五四〇九番

大連市西廣場三九　土田寫眞館　電話二―四〇三三番・二―四二四六番

大連市若狹町三五番　西田內科醫院　院長　西田英雄　電話二―七五七五番

大連質屋業組合　電話二―七三九八番

新炭米穀　三十里堡林檎　卸小賣　大連市吉野町三十番地　村上寅造商店　電話(二)二―四九三七番　振替貯金大連一三三二番

食料雜貨商　朝日屋　大連市越後町六　電話二―三九一一番

旅館　鎭西館　大連市信濃町六一　電話二―七一四六番

關西料理　濱作　大連市濱速町幾久屋隣

大連市山縣通大倉ビル　泰東洋行　田中知平　電話二―六三四七番

大連市信濃町五一　花屋ホテル　電話二―七一八四番

大連市能登町八十一番地　緒方洋服店　電話二―三三五六番　工場　大連市能登町六九番地　支店　新京千鳥町一丁目一三番地　電話二―六三五一番

大連市老虎灘　嘯月園　電話二―六四七九番

大連市惠比須町二〇四　大連西檢番　電話三―三二二一番

滿洲日報社　社長　村田愨麿　外社員一同

大連市山縣通大倉ビル　東裕錢莊　首藤定　電話二―五一五七番・二―一二一八番

大連海運業聯合會

大連市磐城町五〇　御料理　琴月　電話二―七五六六番

營口商業銀行　電話一六六・一六四・三二一番

營口水道電氣株式會社

滿洲電業株式會社　營口支店

海邊警察隊　隊長　宮部光利　外職員一同

營口縣公署　縣長　楊晉源

營口稅關　稅關長　會田常夫

營口商業銀行　總經理　宮城正一

營口水產局　局長　沈崇祺

營口水產高級中學校　校長　趙誠恕

營口檢疫所　所長　木村勝喜

營口稅捐局　局長　張經緯

營口專賣署　署長　馬仲援　外職員一同

外交部駐營辦事處　職員一同

營口鹽務署　職員一同

營口水產股份公司籌備所　代表　松下街次郎

營口興業株式會社

營口土地建物株式會社

營口石炭商組合

國際運輸株式會社營口支店　支店長　一寸木政藏

大連汽船株式會社出張所　所長　久保三郎

株式會社　營口百貨店　營口老爺閣前　電話一四六三・一四六四・一三三二・一四六五

大連村田商店營口支店　營口南本街

營口銀行團　橫濱正金銀行營口支店　朝鮮銀行營口支店　正隆銀行營口支店　振興銀行

營口水道電氣株式會社　社長　松本員男

滿洲電業株式會社營口支店　支店長　阿部覺磨

營口地方事務所　所長　武田胤雄

商事部營口販賣所　所長　衛藤亥吉

營口商業實習所　所長　關野惣平

營口郵便局　局長　奧石敬彰

營口驛　驛長　長谷川銀一

古川醫院　地方委員　院長　古川米吉

營口紡績有限公司　野口三郎

水先　山本土岐彥

水先　石橋三郎

奉天稅務監督署營口出張所　所長　長谷沼兵庫

營口印刷所　片山賴衛

成世慶

營口採運局　局長　周鳴塵　副局長　浦田中造

盛興號　田中廣一

株式會社　盛進商行

營口海陸運輸合資會社

平本洋行　電話二九番

近江洋行　電話二〇七番

寶石時計　ラヂオ　蓄音機　サービス商會　三田村宗一郎　電話一七六番

旅館　營口ホテル　驛前

營口地方事務所　高橋儀時　甲斐正治　宮崎精一　川島梅吉

營口小學校　校長　近藤朝雄

東亞煙草營口工場　場長　有福和一

營口圖書館　館長　笠原芳雲

營口電報局　局長　片桐壽八

日本赤十字營口支部　主事　村上唯次

東和公司　三島輝善

營口商工會議所　理事　日下清癡

營口輸入組合　理事　佐々木正章

營口金融組合　理事　石田禬助

津田醫院　院長　津田久堅

營口普通學校　校長　閔常基

地方委員　乃美熊太郎

英茂洋行　寺田五作

營口金融會　理事　朴宗照

清林館旅館　山本彌市

羽村洋行　羽村義

松田洋行　隈部廣泰

山住洋行建築業　山住市藏

柴田寫眞館　木田楢

土木建築業　柿崎組

錦戶式ペチカ代理店　土木建築請負　中谷組　中谷英太郎

東京吉田時計店營口駐在員　本間久義

新流行洋服　丸美屋洋服店

夏目洋行　夏目茂

永井自轉車店

丸萬呉服店

辻呉服店

御菓子　山內堂

食料雜貨　岩田商店

食料雜貨　三井商店

和洋雜貨　熊谷商店

百貨店　重田屋商店

和洋雜貨運動具　田口商店

文具商　大鹽洋行

陶器食料雜貨　戶倉洋行

諸雜誌運動具　西田大衆堂

疊商　馬村商店

船舶業　酒井壽太郎

旅館、カフエー　靜の家

御料理、食道樂　環の家

御料理、食道樂　城山食堂

營口料理屋組合
武藏野　電一五〇番
みはらし　電六六〇番
松月　電一二三番
芙蓉樓　電一五一番
品川館　電二三九番
濱の家　電一五二番

賀正

西暦・1935・

瓦房店・撫順

瓦房店

復縣公署一同
松樹商務會
萬家嶺商務會
蘆家屯商務會
得利寺商務會
田家商務會
瓦房店電燈株式會社
白龍正宗釀造場 電一一一番
關東廳滿鐵指定 土木建築請負業 井上組 電話七六番
地方事務所長 中根信愛
警察署長 末光高義
醫院長 佐藤良治
國境警察隊隊員一同
地方事務所 山田吾市 島瀨一郎 眞鍋繁德
警察署署員一同

滿洲炭礦株式會社 復州炭礦
地方事務所 工務員一同
列車區員一同
瓦房店醫院職員
萬家嶺石材業 吉田連
萬家嶺石材業 多田工務所
許家屯商務會
許家屯製糸業 和記號 李偉東
田家商務會長 王向周
田家 慶來盛
田家 那文卿
瓦房店新市街 義盛東 局電三三番
郵便局長 女池賢純
電報電話局長 末武時太郎
小學校長 雪本一智
公學校長 伊藤德布
保線區長 三宅善平
瓦房店驛長 渡邊與作
電燈會社支配人 齋藤喜一
東區長 森田彦三郎
撫順炭礦囑託 竹中鉚三
瓦房店保線區員一同
撫順炭礦炸事窰炭礦
金融組合理事 加藤喜市
復縣金融合作社 理事 丹上義勝
王家 落花生取引 林廷春
滿洲果樹組合
池田青龍園
復州鑛業株式會社 川上眞水
間組 神車松太郎

(順位不同)
土木建築請負業 松浪捨吉
建築請負業 近藤俊一
御料理 筑紫館
カフエー キング
王家 雜貨商 吳東邦
さんば 大河原ヒロ
蓋復製鹽輯私局
綢緞百貨呢絨店 懋盛東
雜貨商店 慶順德 白輔廷
惠豐厚經理 劉仁峯
福順厚經理 曲宴清
許家屯商務會長 陳溪泉
許家屯商務副會長 陳寶書
許家屯消防隊長 王錫三
許家屯 吉順東 郭培芝
許家屯 義盛興 王育亭
洋酒雜貨 德裕商店
田家商務副會長 宮子安
萬家嶺商務會長 張向午
萬家嶺商務副會長 王助山
萬家嶺 隆興裕 丁熙元
明治生命保險代理店 驛貨物積卸 和洋小間物雜貨 深草商店 電話三三番 大連振替九七三二番

松樹郵便電々局長 宗藤宇一
松樹公學校長 北川稔
田家驛長 鶴薗勇吉
王家驛長 川口見藏
得利寺驛長 竹澤富久治
松樹驛長 齋藤貞治
萬家驛長 若林彥一郎
許家屯驛長 小林光威
松樹地委課長 東慶太郎
西區長 小川政次郎
社司 森上枝
消費組合主事 瀨尾益美
圖書館長 板垣一二三
貯炭場主任 平山恭二郎

淺田幸吉
白土宏文堂
和洋酒食料京染 巴商行
御料理 初音
食堂果天金 中島スミ
檢察廳長 曹鵬飛
法院長 哀希懋
典獄長 伍光曦
瓦房店警察署長 宋恩錚
警察隊長 顧慶善
稅捐總局長 呂振邦
復縣瓦房店商會會長 孫履廷
昌隆洋行
雜貨商 和東順

撫順

久保孚
石河積
井之上善藏
内野捨一
齋藤茂一郎
瀨戸辰五郎
田中廣吉
富岡信治
中原祥光
松井佐兵衛
寺西圭之
角德一郎
大島勇
後藤愛助
福田寅一
萩野滿次郎
蜂谷文平
中島右仲
古賀初一

撫順炭礦各課所場長 技師參事一同
菅野誠
伊藤武則
久米庚子
水野昇一
撫順神社 佐藤種德
陶山治作
大畑覺了
武内敬美
電氣鎔接業 稲葉製作所 所長 稲葉幸太郎
梅田富三郎
梅田正太郎
藤井順治
前田洋行
大松號
福島寫眞館
瀨田新聞舖
大和洋行
石原洋行
明星公司
田中金物店
和泉吳服店
撫順縣公署 趙仲達 外職員一同

撫順實業協會
撫順地方委員
撫順體育協會
土建協會支部
撫順教育會
牧野商會
岡田ビルブローカー
佛教聯合會
撫順公司
三榮公司
救世會
大谷洗布所
小川炊事
山口タクシー
撫順會社銀行團
撫順競馬倶樂部
撫順雜炭組合
松田土產店
渡邊琥珀堂
土產商 隅田商店
村上土產店
滿花園
福合樓
滿鐵醫院一同
撫順醫師會
齒科醫師會
料理店組合
純料理店組合
明治屋
カフエー 銀蝶
カフエー スズラン
花月堂
質屋同業組合
カフエー 赤玉
カフエー 白バラ
カフエー 精養軒

謹賀新年

皇紀・2595・

奉天

滿洲電信電話株式會社 奉天管理處

滿洲電業股份公司 奉天電業局

鐵路總局

滿洲航空株式會社

株式會社 滿洲工廠

滿蒙毛織株式會社

奉天金曜會
東拓奉天支店
横濱正金銀行奉天支店
朝鮮銀行奉天支店
正隆銀行奉天支店
滿洲銀行奉天支店

滿洲市場株式會社

株式會社 滿洲取引所

國際運輸株式會社 奉天支店

南滿瓦斯會社 奉天支店

東亞勸業會社

奉天鐵路局

奉天商埠地十一緯路第十六號 利泰洋行

奉天福栗町 吉川組 代表 永吉開藏

奉天宇治町三 奉天取引所取引人組合

滿洲煖房衛生同業組合 奉天支部

奉天取引所信託株式會社

奉天信濃町十七番地 同和興業株式會社

奉天窯業株式會社

奉天若松町七二 滿洲千福釀造株式會社

大同產業株式會社 奉天 川本靜夫

極東生藥株式會社 奉天 秋野公顯

奉天黃バス 滿洲自動車運輸株式會社 代表取締役 武田次七 代表取締役 岩崎榮二

奉天青葉町一四 碇山組

協和會 奉天支部

奉天宇治町三番地 久記證券部

奉天市商會

奉天紡紗廠

奉天青葉町一番地 天津號奉天支店

振興洋行

奉天春日町 松永自轉車店

奉天春日町 寺尾吳服店

奉天平安通八番地 滿洲窯業株式會社

七福屋

明星ダンスホール

上山證券株式會社

奉天宇治町十六 福奉公司

奉天加茂町七 大和銀號

奉天淀町十八 奉天證券公司

奉天春日町一番地 櫻屋商店

奉天平安通り廣場 平安座

奉天館

演藝館 鳥上市太郎

滿洲土木建築協會 奉天支部

奉 ―◇― 滿毛百貨店 ―◇― 天

軍部、滿鐵、關東廳 滿洲國諸官衙御指定 奉天浪速通十九 各國毛皮と洋服のデパート ㊀滿蒙洋行本店 中野武雄

奉天加茂町五 山中電機株式會社 奉天出張所

奉天 板橋洋行 電三〇九五

奉天金融組合

奉天加茂町十六 木村洋行

奉天輸入組合

奉天 小田洋行

奉天千代田通春日町角 那須藥局

奉天春日町 東榮洋行

奉天浪速通六 木村洋行

奉天浪速通四〇 大脇洋行 吉田純久

奉天春日町 近江洋行

奉天千代田通二二 松壽堂藥房

奉天浪速通 熊野商會

奉天浪速通り四四 帝國會館

奉天春日町七 岡房商店 電二九六八

奉天春日町 義道洋行

奉天春日町 大和屋洋品店 加藤佐太郎

奉天千代田通 栃木洋行

奉天春日町八 河村靴店 電二八七

美酒千代乃春醸造元 千代乃春奉天支店

奉天春日町六 大阪屋號 大谷直定

奉天千代田通三六 三省洋行

奉天春日町 やまき吳服店

奉天浪速通三二 前田整商店

奉天青葉町七 北村太陽堂藥局

奉天春日町 べら安履物店

奉天浪速通郵便局前 飯田洋品店

粋山

奉天平安通一〇 精美堂 久保田義一

奉天千代田通四〇 日滿貿易株式會社

滿洲鄉土藝術研究工廠 小倉圓平

賀正

西暦 1935

新京

宮内府大臣 沈瑞麟
侍衛官長 工藤忠
侍從武官長 張海鵬
尙書府大臣 郭宗熙
宮内府次官 入江貫一

滿洲國參議府
參議一同

滿洲國國務院
國務總理大臣兼文教部大臣 鄭孝胥
民政部大臣 臧式毅
外交部大臣 謝介石
軍政部大臣 張景惠
財政部大臣 熙洽
實業部大臣 張燕卿
交通部大臣 丁鑑修
司法部大臣 馮涵清
蒙政部大臣 齊默特色木丕勒
總務廳長 遠藤柳作

新京特別市公署
市長 金璧東
總務處長 橋口勇九郎
行政處長 董暘

長春縣長 宋德玉

滿洲國協和會
會長 鄭孝胥
理事長 張燕卿
中央事務局
局長 謝介石
次長 阪谷希一

滿洲中央銀行
總裁 榮厚
副總裁 山成喬六

滿洲電業股份有限公司
董事長 吉田豐彦
副董事長 入江正太郎
副董事長 孫澂
常務董事 小池覧
常務董事 高橋仁一
常務董事 石橋米一
常務董事 王聘之
董事 林鶴皐
董事 岡村金藏
董事 溫和
董事 古泉光男
董事 迫喜平次
董事 奥村愼次
董事 趙壽芳
常任監察人 高橋貫一
常任監察人 巴英額
常任監察人 谷川善次郎
顧問 糟谷陽二
技監 雨宮春雄

國都建設局
局長 阮振鐸
總務處長 結城清太郎
技術長 近藤安吉
庶務科長 江崎猛
計畫長 溝江五月
工地長 草地一雄
水道科長 重住文男

國道局
局長 直木倫太郎
副局長 孔世培
總務處長 大迫幸男
第一技術處長 本間德雄
新京建設處長 原口忠次郎

滿洲國財政部
吉黑榷運署
專賣公署
各科長一同

新京鐵路局
局長 金璧東
副局長 山領貞二

滿洲電信電話株式會社
新京首席駐在員
新京局所長一同

滿洲炭鑛株式會社
理事長 河本大作
副理事長 李叔平

滿洲採金株式會社

新京八島通三四番地
滿洲土木建築業協會新京分會

社團法人 日滿土木建築協會
本部 滿洲國新京八島通三四 電話④三四一番・四九〇七番
分會 滿洲國奉天彌生町三一 電話⑤三九四番・二三八七番
會長 堀三之助
副會長 榊谷仙次郎
副會長 高岡又一郎
副會長 張保先
常務理事 石田茂
奉天分會長 上木仁三郎

新京八島通
新京建築助成株式會社

新京運送業組合

新京石炭商組合
滿鐵指定販賣店
松茂洋行 電二〇四二・二五六二
裕新公司 電三一三
泰利號 電三一六九〇
仁和洋行 電三四五八一二
加藤洋行 電二〇三三
泰山行 電二一五六
大昌煤局 電三一四九
新泰洋行 電二二九七

國際運輸株式會社新京支店
支店長 宮原芳茂

新京輸入組合
理事 久末吉次

新京中央通
新京興信所
清水末一

新京市場株式會社

新京富士町五ノ六
新京賽馬俱樂部
電話 二三〇三・五五六三 賽馬場三五〇七

滿鐵新京醫院一同

新京日本橋通三十番地
新京金融組合

日本赤十字[illegible]支部

新京藥業組合員一同

馬ものがたり

滿鐵馬術部　松尾傳三郎

マホメット曰く、「地上の幸福は、美人の胸と馬の背に在り」と乘馬の興味と效果を、餘すところなく喝破してゐる。

健康さ、勇敢不屈の精神を養ひ得るもの、乘馬に如くものはない悍馬に鞭うち、あらゆる障礙を突破して、山野を馳驅するの快、蓋し想像の外だ、霜の朝、月の夕、或は花間に、馬上悠然逍遙するの風流も亦格別である。

置物の樣な四足、比類なき鬣、颯爽たる體型、將又物の眞相を悉く反映するやうな、怜悧で氣品に富んだ瞳、更にこれが原野に、數百頭集團疾走するときの、怒濤の如き躍動の美……總てが馬に對する、堪らない魅惑である。——

こゝでは、所謂日本馬か、西洋馬を想像して頂きたい。我々が街頭出會するところの、騾や驢、あれは馬では斷じてないのだから—前置はこれ位にして、馬の珍話、笑話を二つ三ツ紹介してみよう

馬歸る

昭和六年の夏のこと。宮崎縣西諸縣郡野尻村の楠田一右衛門が、ある朝早く起きて、厩に行くと、一頭の見馴れぬ馬が、さも懷しさうに傍に寄つてきて、しきりに頭をすりつける。

一右衛門は、訝かしく思ひ乍らよく〳〵見たところ、なんとその馬は、自分の家で仔馬のときから手塩にかけて育てあげ、三年前に同村の大久保某に賣渡した牝馬ではないか。

その後轉々人手に渡り、今では東諸縣郡の某村に買はれて行つてゐると、風の便りに聞いてゐたのに。……一右衛門は、久し振りの邂逅に、思はず懷舊の涙にくれたが、馬も嬉しさの餘り高く嘶いた。

さいふ樣なわけで、まことに美しい情景が描き出されたが、その後段々調べてみると、その馬は賣られて後日増しに募る生家戀しさの情に堪へかね、或夜ひそかに、飼主の許を脱け出し遠い山坂を越えて、一右衛門方に辿りついたものと判つた。

一右衛門は、動物ながらも、舊主を忘れぬその心根の可憐らしさに感じて、直ぐさま買戻し、一生養つてやることにした。

戀故に勝を讓る

人生に戀があり、犬猫に毛嫌ひがあるかぎり、馬の世界にも戀があつて然るべきだ。不幸にして人間は種族を異にすることのために其の戀の表現を理解し得ないので的確にそれが、彼女が彼氏に捧げる灼熱の戀情であるといふことを自覺し得ないまでのことだ。

だがこゝにたつた一つ、これこそ正しく百パーセントの戀に違ひないといふのに「リオンの戀」といふエピソードがある。

リオンは競馬馬の牝馬であつた大正十四年秋の福島倶樂部の新抽で各抽界にあつては、當然名馬の一に數へらるべき逸駿であつた。

その全盛時代には、名馬イワキ、ロックなどの强敵にもしば〳〵後塵を浴せたものだが、どういふものかイリタントだけは破り得なかつた。

がこれは、破り得なかつたのではなく、破らなかつたのだといはれてゐる　即ちそこに、彼女リオンの悲しい戀があつたといふのだ

イリタントは大正十二年秋、東京競馬倶樂部の新抽で、リオンに先だつ三季前すでに競走界にデビューしてゐた。ルーヂゲーアを父にイリタントを母に、そして母の名をそのまゝ、競走馬として斯界に活躍した。その成績もすばらしかつた雄駿である。

眉間から鼻端にかけて、クッキリとほつた雪白の流星、右の前肢と、兩方の後脚に、純白の靴下でもはいた樣な、見るからに浮上つた美しい三白、正に端麗な貴公子を想起せしめる瀟洒な姿、頭の先から脚の末まで、スマートで、シークで、超モダンなこの男性イリタントこそ、彼女リオンの戀の對象に選ばれたのだ。

リオンが、彼氏イリタントに初めて顏を合せたのは、その新抽の秋の十一月、目黒競馬場でのことである。優勝の元氣に任せて、一擧に古豪を屠らんものと、はる〳〵みちのくの福島の奧から、花の都の檜舞臺へと遠征したときである。それがどうだらう、イリタントの雄姿を一眼見るなり、好きになつてしまつたのである。何が何だか判らなくなつたのである。

彼女リオンの心の奧には、惱ましい影が宿つて、旅の假寢の獨り居に、しみ〴〵と武藏野の秋風をかこつ身とはなつたのである。

朝夕の運動の時はもとより、練習の際など、ちよつとでもイリタントの姿が彼女の眼に映らないものなら、彼女は妙に興奮してその都度馬丁や騎手を困らしてゐた。

思ふやうにイリタントの側によれぬ彼女は、居ても立つてもたられなかつたのである。

彼と彼女はこの時を最初に、前後六回といふもの顏を合せてレースを爭つてゐる。そして如何に出後れても、彼女は全力を盡して彼の尾端までは迫るが、それからさきといふものは、決して先へ拔け出ようとはしなかつた。彼イリタントの後尾にピタリとついて、颯爽と彼が打振る尾毛にその鼻端を弄らせながら、獨りレースを樂しんでゐた、といふ。

これは嘘の樣な眞實の話であるわけても十五年秋の目黒の顏合せなどは、彼女と彼氏と僅か二頭のレースであつたのだ。當時イリタントは、既に得勝を重ねて相當に重量苦を感じてゐる時であり、しかも彼女は、新進の鋭氣漲しく、正に破竹の勢ひにあつたのだから彼女の健脚を以てすれば、彼イリタントを仕止める位は左程の難事ではなかつたのである。

ところが、彼女リオンには自分の戀しい男に敗北の苦杯を嘗させるなど、そんなことは到底出來ることではなかつた。

健腕を以て鳴る柴田亮治騎手が如何に仕掛けても、强鞭に鞭つても、彼女は常に行ふが如く、彼氏イリタントの尾毛を樂しんで、決して拔け出ようとしなかつたのである。

何んと涙ぐましい挿話ではないか。イリタントは、見るからに惚れ〴〵する美貌の持主であつたがそれは人が見てしかく感ずるばかりではなかつたのである。そこに今に殘る繪事「リオンの戀」が存在したのであらう

落馬集

馬上の姿といふものは、古今東西誰が見ても、まことに勇ましいものだが、その代り——代りはちと變だが——落馬したときたら、これ位また哀れで、滑稽なものはないだらう、落ちるとき、落ちたあと、その樣子、その形、正に千差萬別、とても意識してはあんな恰好は出來るものではない。とにかく落馬だけは、倅や家内には餘り見せたくない圖である。

落馬と妻帶

もう十何年も前の話だが、馬術部の馬場開きが、今は亡き時の軍司令官S大將臨場の下に盛大に擧行された。

何番目かの餘興競技に旗取競走があつて、E君も參加した。審判員の手旗一振、一齊にスタートしたのはよいが、E君勢ひあまつて—といふより馬に引張られたのがほんとうらしい—場外に飛び出し道路の眞中で綺麗サッパリ落ちたその上念入りに氣絶までしてしまつた。

皆さうかといつて笑つてばかりもたれず、近所の衛戍病院にかつぎ込んで手當をするやら、一時は大騷ぎであつた。

そのうちケロリとして歸つて來たE君ツカ〳〵とS大將の前に進んで、直立不動の姿勢で曰く

「實は私一ケ月ばかり前に家內を貰つたものですから」

と、さすがの大將もこれには返事の仕樣がなかつたと見えて、破顏一笑「ウム」と答へられたきりだつたが…此の奇想天外の言ひ譯を聞いて、さあ側の者が笑つたの笑はぬのつて、腹を抱へて轉がりまはつたものだ。

後でF君に「落馬と妻帶とどういふ關係があるんだ?」と聞くと「さあ…俺にもよく判らん」と眞面目くさつた返事、これで又一しきり大笑ひだつた。

鞍上人あり

M會社にゐるT君ある晩春の日曜日、陽氣に浮かれて單騎轡をあげて遠乘したのはよかつたが、途中で腹帶が切れて鞍諸共落馬した。

馬の奴、急に背が輕くなつたので占めたとばかり駈け出してしまつた。

馬場に殘つてゐた連中が蹄の音にフト見ると、たつた今T君が乘つて行つた筈の馬が、獨りでノッソリ歸つて來たので、さてはT君「やられたな」と心配してゐるところへ、當のT君が馬にはあらで洋車に打乘り悠々と歸つて來た。

聞いてみると件の始末。そこで皆が「落馬だ〳〵罰金々々」と騷げばこれを尻目にかけてT君「馬鹿言ふな、鞍には跨つてゐるぞ」と落着いてゐるのでよく〳〵見ると、T君車の上で兩脚の間に一生懸命鞍を挾んでゐたので、一同ダアー。

落馬儲け

古い話にこんなのがある。

法性寺入道前の關白太政大臣藤原道長の家來に、下野武正といふ士がゐた。あるとき、道長の供をして天王寺詣をする途中、山崎街道で馬から落ちた。

その翌年また供をして、丁度そこを通り合せたとき、去年武正の落馬したのを思ひ出した道長が、「こゝは武正のところだな」といふと武正すかさず

「ハイ、武正の所で御座います。」といつてさう〳〵其の土地を貰つてしまつた。

普通なら、馬から落ちて砂でも摑むところを、領地をつかんでしまつたとは、武正も拔目のない男である。

×

話が落馬になつた樣だから、こゝらで初春らしく笑つて落着させることにしよう。

舞臺に上つた熊谷の馬、うつかりして前足が屁を放つたので、後足大いに慌てゝ「ヒヒーン」と嘶けば、上の直實思はず

「失敗つた、後向に乘つたか」

とは、さて〳〵粗忽者が集まつたもの……。

滿洲選手 ゴシップ

滿洲體協主事　林田學

亥歳は猪突猛進の歳に相違ない

吾人は大に猪突猛進して滿洲青年の意氣を天下に發揚しなければならぬ歳であると考へる。

滿洲のスポーツ界は年と共に進展し殊に滿洲國の獨立により極東大會は事實上解消され、東洋體育協會の創設を見るに至り、滿洲在住の青年は滿洲國の爲にも滿洲國が東洋體協の一員として恥しからぬ程度に迄進展すべく努力しなければならぬ年でもある、吾人は滿洲國旗を飽く迄固き握手の下に滿洲スポーツ界の健全なる發達の爲に貢獻しなければならぬと共に、一勢力の確立を期せなければならぬ事を年頭に當つて痛切に感ずる依つて新年劈頭より大に笑つて賑かに滿洲のスポーツ界を明るくすべく色んな理窟を拔いて與太でも飛ばして笑ひの裡に吾人の理想に猪突せんとするものである、若し吾人の執筆に係るゴシップに腹を立てる人があつたら新年の屠蘇機嫌の與太だと御赦しをこうて筆を進める。

滿洲スポーツ界の大御所で滿鐵體育係の主任を勤めてござる齋藤兼吉さん、根がスポーツ畑の育ちだけに滿洲日報の猛獸狩の記事を見て雄心彌々矢も楯も堪らなく見えるが、悲しい哉銃獵の經驗なく往きたくはあるが虎は恐い、併し虎や猪との競爭は之また得もいはれぬファイテングを唆り、三思五考頭腦を惱ます事十數日遂に「今度だけは見合はせよう」は流石の猛者も虎の威に恐れたものか?夫れでも僕が參加するといふと「虎や猪が來たら靈へ上がつて喰ひ殺されますよ」と衆勸する事夥だしいのは矢張行きたいのが山々なんだらう。

×

滿洲の陸上競技界になくてならぬ人物村上國平さん、病魔に襲はれて入院中だが今年は一日も早く病院なんかと絶緣してウンと世話して貰ひたい。この國平さん今では立派な紳士になり濟ましてござるがアレでも廣島の高等學校時代大學の連中に伍して東西對抗陸上競技の選手に選ばれ堂々と出陣した迄は良かつたが、大日本の東西對抗の選手といふので優待されて汽車は二等の寢臺車を提供されたものだ。腰に手拭ひをブラ下げ草履を穿いた村上選手、生れて始めて?の二等車に威風堂々と乘り込んだ寢臺の眠り心地も萬更でなかつたが東京驛に着く一寸手前で眼を覺まして寢臺から出て見ると自分の穿いて來た草履がない、サア大變寢臺車を隈なく探し求めたが遂に見つからぬボーイに「俺の草履はドウした」と尋ねたらボーイ曰く「餘りキタナイ草履なので誰か棄たものと思ひ掃き棄ました」に「???」一句も出ずに東京驛に下車する時は抱いて寢たスパイクのついた靴を穿いてカッチリカッチリ冷汗も流さずに歩いた元氣が今年あたり見たいものだワイ。

×

昨年の秋滿洲陸上軍が朝鮮や內地に遠征した時、一行二十六名もの大勢だのに皆の氣分が一致したのか、何等トラブルも起らず愉快な旅行が出來たが、其中には幾多のゴシップが生れた、筆者の姓名が三字の故を以て釜山や下關では警官の取調べに遭つた事などは小さい方で、今迄書かれさうで書かれなかつたものをチヨッと失敬して見ると、今滿洲の圓盤王伊藤一雄選手、京城の一戰に見事朝鮮軍を屠つたので良い氣持になり飲めもせぬのに祝ひ酒を二三杯!宿へ歸つて二階へ上る頃は家が廻つたり眼が廻つたり、ツイ自分の室を間違へて隣の野球を引率して來た朝鮮の或る中學校の先生の室へ入り込み、先生と同衾!先生却々如才ない人で伊藤選手を介抱したり餘り顏が赤くフー〳〵いつとるので今にもゲーッと吐きさうにもあるので、洗面器の用意をするやら至れり盡ぜりの厚遇に揃つて本人スヤ〳〵と先生に抱かれて安眠、翌朝眼が覺めたら髭の生えた先生と寢て居るのに驚き見ると洗面器を頭に被つて居た!コソ〳〵と逃げ出したが爾來伊藤選手は鐵兜の選手となつてしまつた、孝心深い伊藤選手「母親が心配するから之ばかりは發表して呉れるな」と手を合せて拜むあたりよく〳〵の失敗だつたに違ひない、モウ年も變つた事だから此處等で兜をぬがせても良いだらう。

×

神戶で降りた選手一同甲子園のスポーツマンホテルが宿舍であるといふので自動車を連ねて乘りつけたのは無事だつたが、神戶驛で一寸手間取つた米津選手や岡田選手スポーツマンホテルと甲子園ホテルを感違ひして運轉手に「甲子園ホテルに往け」運轉手一寸躊躇したらしいがそれでも命令に服從して甲子園ホテルへブー〳〵と乘りつけたものだ、玄關は燦々として、ボーイ三、四名の出迎へに少し面喰つたらしくそれでも圖々しく玄關を上りかけてフト間違ひに氣づいた時はモウ遲かつた。

恰も宮樣の御泊りになる事になつて居たので、宮樣の御到着まで待ち、スポーツマンホテルへ到着して曰く「少し調子が違ふと思つた、俺達の宿には良過ぎると思つたヨ」は偽らぬ告白。

×

遠征をすると兎角ゴシップが多くなるが、餘り書くと顏を赤くする連中が居るのでこれ位に止めるが今年はモッと〳〵澤山のゴシップを拵へて我々の腹の運動を活潑ならしめ、猪突猛進の英氣を養ひたいものである。

大衆小説

一本元結

土師清二

(一)

江戸では、両国がスリの稼ぎ場でござンした。

町人やお百姓を掏るのは、お茶ノ子さいさいなンで……誰もなく掏れます。

スリもお侍のふところ、下げもの—印籠巾着でございます。お侍を掏るやうになると一人前です。お侍さなると、腕ばかりぢや掏れません。度胸が要ります。

「ナニを、さんぴんを叩けれえでドウする。見てゐろよ」

狙ひつけて、侍に近付いて、ドンと侍に突當る途端に、

「氣を付けやがれ!」

と怒鳴つて、侍だと初めて氣が付いた顔をし、ペコリとあやまり踊(?)さうにお辭儀をしたかと思ふと、人混みへ逃げ込む。その時はもう紙入を抜いてゐる—といふ寸法(?)にいけば、うまいものです。

だが、さう都合のいゝ時ばかりはない。

「汝ッ掏りだな!」

氣が付かれて怒鳴られ、追駈けられる。バラバラと逃げる。弥次馬がたかつてくる。そいつらへ「怨むぞ!」「覺えてろ!」「手前の顔を覺えてゐるぞ!」なんぞと吐きかけながら豫防して、逃げ出すのは両国橋の上です。

橋まで来ると、しめたもので、欄干を飛越えて、隅田川へボチャン……。

これで助かるが、助かるとばかりは限らない。

あつしが見たのは、日本橋の伊勢松の乾兒で、荒神松といふ若え者でしたが、追はれて定石どほり、両国橋まで逃げて来た。

松の野郎、うまく欄干に手をかけやがつたな、と思つた途端に、追ひすがつた侍の抜打です。

「えい!」

稲妻が光つたと思ふ間もない。

なんでも、そのお侍は柳生流(?)の御家老だとさうでして、刀は二ッ胴試し済みの業物、腕が出来てゐたから堪りませんや。

荒神松の野郎の首が、三尺ばかりポーンと宙に舞ひあがつた。

切り口からシユッと血が、四五尺も飛ぶといふ……上り損ひの仕掛花火です。

首だけは、跡一念を遂しまして、紙入を咥へたまンま隅田川へボチヤン……と飛込みましたが、胴が無くちやドウすることもできねえといふ譯で……

侍は苦手です。

みなさんも、講釈か小説か、聞いたり讀んだりで、知つてゐなさるかも知れねえが、こんな話もありました。

場所は、ヤッぱり両国で、仲間の奴が、侍に捕まつちやつたンです。

漿ら口を叩いばくして詫びても謝つても許してくれねえ。やつとのことで、出来心だといふので、結構は許してくれることになつたのです。

(二)

その時の侍の言ひ草に、

「欄干に両手を重ねて謝れ」

といふのです。奴は、今鉱(?)がいかれえと思つたらしい。といふのは、詫びるなら土下座をするとか、なんとかありさうなものだのに、手を、かう重ねろと云つたンですからね。

しかし文句は云へねえ。奴は、欄干に右と左の手を重ねましたよ。途端に、

「えい!」

と来たものです。見物人は斬られたと思つたさうで。

「ぎやッ」と泣いた奴の手を見ると、無疵や小柄で、グサリと両手を欄干に縫ひつけられてゐやアがる。

侍は、笑つて云ひましたね。

「そちも、掏摸が稼業であらう。折角、拙者を狙つて、一物も取らいでは、稼業になるまいと存じた故、褒美に、その小柄をくれるぞ」

いゝ氣持でゐるらしいのですね。そりやさうでせう。弥次馬がワイワイたかつてゐる、芝居でしても、大向がワッと来る仕所でさ。

一芝居やつて、侍は、悠々と引揚げる。見物人は感心してゐる。かういふ時が、スリの附目、稼ぎ時です。弥次馬に混つて、同じやうに感心し、口で御詫びを吐きながら手先は電光石火の早業をやつてゐる……スリといふ奴は、そんなものです。

ところが、氣が氣でないのは、小柄を貰つた奴の親分です。早く小柄を抜いて助けてやらう。逃がしてやらうと思ふが、弥次馬のために近寄ることができねえ。

この話を聞きながら、大概の人は思ひますね。どう思ふかッていふと、小柄を刺された奴が、自分で小柄から手を抜くだらう……といふことです。

見事に手をぬき、小柄を抜いて立去つてしまふ。

(三)

半年一年と経つて、場所は同じ両国橋。

「己れ、昨年はありがたうござンした」

と云つたかと思ふと、件の小柄で侍の土手ッ腹をきつて仇を打つた……と考へるのは、講釈、小説のやうで面白い。

この話は、お氣の毒ながら、さう注文どほりにはいかなかつたンです。

聞いてゐた弥次馬は、間もなく己れのふところをやられてゐるのに氣が付いた。俺もヤラレた、俺も……ですから大變だ。

怨みは奴の一身に降りかゝつて寄つてたかつて打つ、蹴る、……[illegible]、たうとうお陀佛[illegible]村へ、わらぢをはいてしまひました。

見てゐた親方も、助けやうがなかつたンですね。

待つて、おくンなさいよ。これ愛嬌のある話をしませう。これぢや掏摸が陰険(?)の話ばかりだ。

場所は同じ両国広小路、オテヽコ芝居、女義太夫、女新内(?)、それに楊弓店が軒をならべてゐる。茶番屋がある、四六時中賑やかな盛り場です。

そこに丸竹といふ料理屋がありました。表二階で御用聞が、飯を食べながら表をチヨイチヨイ見てゐます。

丸竹の真向ひは、香具師の池鯉鮒権現の蟇除の札を賣つてゐるンです。香具師のことですから面白い言立をペラペラやつてゐます。

見物人が集つて来る。見てゐるうちに店先は見物人で一ぱいになりました。この中にお百姓が一人ゐます。青物の賣上げを取つて来たと見えて、小錢五貫文の束を縄でくゝつて天秤棒の先へ引ッかけて、肩にかついで、池鯉鮒権現の見物です。

すると、そこへ現れたのが、その頃名前を賣つてゐた小徳といふ子供上りの掏摸の天才です。天才は可笑しいかも知れねえ……が掏摸は天才ですよ。

當時小徳は十六でしたからね。上方でいへばチンピラでさ。

丸竹の表二階の岡ッ引は、どうするだらうと小徳を見てゐる。

そこへまた出て来た奴は、いゝかノ太吉といふ此奴も十七の若い奴です。

まさしく二人、お百姓の五貫文を狙つてゐる按配なンで……。

太吉の野郎は、手のうちから縄を出したかと思ふと、お百姓が擔いでゐる天秤棒に、そッと縄をかけて、そろりと押へてしまつたのです。

すると、小徳が五貫文束を取外して、ふところへ押込んだ。

お百姓は氣が付かない……といふのは、太吉が縄を押へて、五貫文束と同じ重みをかけてゐるからなンですね。

(四)

小徳が逃げた頃合ひを見計らつて、太吉の野郎が、押へてゐた縄を放したから堪りませんや。途端に天秤棒は弾みをくつて、くるりと廻つて、前にある見物人の顔を打つてしまつた。

打たれた奴は驚いた。不意に天秤棒で殴られたンですからね。

お百姓も驚いた。五貫文束が一瞬の間に[illegible]に化けてしまつたンで騒ぎになる、見物は散る。怒つたのは香具師です。お百姓を捕へて、何故稼業の邪魔をしたかと、強談判。

かうなると、香具師はなかなか強い。いくらお百姓が五貫文を盗られたの由を云つても、どうしてくれると承知しません。

始終を見てゐた丸竹表二階の岡ッ引が、小徳と太吉を捕へて来て、五貫文束をお百姓に返させ、漸くけりが付きました。

これなンざ、如何に掏摸が悪意のない、文珠菩薩も顔負けをするやうな愛嬌をやるものだといふ語り草でござンす。愛嬌があつて、いゝ話ぢやありませんか。

愛嬌があると云や、例の「下駄替へ」履いてゐる下駄を草履や古下駄とスリ替へる手ですね。

掏摸仲間で、なぐさみ半分やつたものですよ。

見世物小屋の看板を見物してゐる奴の側に近づいて、馬毛か、棕櫚かなンかで、足をチヨイチヨイ撫でるンです。

するてえと、撫でられた奴は、痒いから片ッ方の足で、撫でられたところを掻く。途端に下駄を草履に置替へる。

こんどは、片ッ方をやる。また掻く。途端に、こッちも下駄を草履に置替へる。

これで、まンまと古草履を下駄に取替へてしまつた譯ですね。

その頃掏摸は顔を見れば知れる—と云つたものです。何故だといふと、髷は必ず一本元結に結つたものです。

黒元結で一本結ひにした仲間もありましたよ。

といふと、それぢやア手前で、手前がスリだといふ看板を脊負つて歩いてゐるやうなものぢやないか。

馬鹿な話だと、お思ひになるでせうが、ソコが面白いところなンです。

看板を掛けて稼ぐ……といふところに、掏摸の意氣があつたンですね。

ほかに異つてゐたのは、羽織の紐の結び方……此奴ア背後から引くと、パラリと解ける仕掛に結びました。逃げ出す時、羽織の紐で、汝の首がしまるなンざ困りますからねえ。

着物も表は木綿でも裏は絹。此奴はスベリを良くして、仕事に便利なのと、脱いで逃げる時の脱ぎいゝためでござンした。

今日はこれくらゐで……。(完)

新年の歌

柳原燁子

冬ながら梅のつぼみもほころびて初春をまつわが部屋のうち

いづる日もけさは神代のここちして人間の罪ふとわすれたり

この年のいまだ初めと吹く風に門の若竹さやぐ音する

そそり立つ向つけやきに初春の雲のしづかに動くめでたさ

去年の夜はあけて今年をたまはこの逆の奥より電車の來る

池邊鶴

青木月斗

鶴白し池邊初東風わたるなり

庭泉に鶴の歩みや今朝の春

池の邊の鶴蓬萊の姿かな

すくと立つ池邊の鶴や初霞

初日影池邊の松の鶴の[illegible]

其二

輝かしい國都建設 康德二年の豫定計畫

國都建設局長 阮振鐸

國都建設第一期五箇年計畫は豫定のコースを順調に進つて居る、既に事業開始以來二年有半の歳月を閲した、即ち第一期五ケ年計畫はその前半を了へたのである、斯くて政府並公共廳舍、各住宅、店舖等の建築、道路の開設等諸工事も明年度は一層本格的新興を見るであらう、其輝しさと希望との交叉點上に立つて一途輝かしい生長を急ぐ康德二年に於ける國都建設事業豫定計畫を一瞥しよう

道路工事

五ケ年計畫の道路の總延長並に總面積は大約三四〇粁と五平方粁餘であるが一應計畫路線の竣工に急いでゐる

(イ)道形築造　順天公園以南、安民大路に沿ふ一帶、滿鐵線以西地域、和順郷及重輕工業地域等の十米以上に着手するが總延長約六五粁である

(ロ)道路鋪裝　これは康德元年の殘餘部分及同二年に於ける主要幹線の鋪裝をなすが總延長は約四五粁である

やがて此等鋪裝完成の曉には國都の交通網を更に圓滑ならしむると共に、飛躍的な建物建築と相俟つて瀟洒な街路樹、街燈は國都を如何に華麗ならしむる事であらう

下水工事

下水管計畫敷設總延長は約二七粁餘で其中昨年迄に既に一四粁餘を敷設したが、本年は道路築造の後を追つて約十粁餘を敷設することになつて居る

上水道工事

康德元年四月以來着工せる腰站の浄月潭並に南嶺浄水池は愈々今秋之が竣工することになつてゐる

浄月潭より南嶺に至る水道鐵管敷設は既に一部昨年着手され、その他南嶺浄水池と順天公園西端に築立せる給水塔及び市街配水管の敷設延長約二五粁が今年中に竣工さる、豫定で前記給水塔の容量は千二百噸で興仁大路以南の五ケ年計畫區域全般に亘る給水を見込んでゐる、この外和順郷及び重輕工業地域用水として該地域に三ケ所及び調査中の地點三箇所餘に水源井を掘鑿する豫定で此れに依つて國都新京は益々水に惠まるゝ事となる

公園　運動場

公園は都市生活者にとつては「原始への還歸の場所」であると共に、「生へのオアシス」でなければならぬ、當局はこの點に深く留意して新鮮な空氣を得べく生ける水を得べく潑剌の綠色を求むべく鋭意努力してゐる

(イ)大同公園は本年中には全工程の四分の三を完了すべく水の公園として益々市民に賞用せらるゝであらう

(ロ)白山公園はその三分の二の工程を完了すべく春、秋、行樂の公園として若男にまみゆるであらう

(ハ)牡丹公園は主として絢爛たる賞觀用花卉を以て其特長とするが三分の二の完成を本年末迄に見ることになつてゐる

(ニ)順天公園は廣大なる面積を背景とし淨鮮なる空氣の源泉地として綠色滴る樹木が鬱蒼として生茂ることであらうこれを目的とし本年度は三分の一を完成する豫定である

(ホ)南嶺運動場も昨年度大約完成し其の殘部と造園工事を本年中に完成しスポーツの大殿堂として新興滿洲國のスポーツに面目躍如たるものがあらう

(ヘ)競馬場は昨年に大約外走路の完成を見幾度ならずファンの血を沸かしたが本年度は第二期計畫たる内走路工事を完成せしむることになつてゐる

土地處分豫定

憲兵司令部廳舍東方地域三萬三千坪の永昌路一萬四千坪、五色街一萬六千坪、百瀬街の一萬三千坪、豐樂街一萬三千坪の小賣商店地域の公賣、興仁大路兩側三萬八千坪の商館地域の拂下、興仁大路以南及び順天大街以東の住宅地域二萬坪の拂下等此の外鐵道北工業地域約九萬坪の拂下等がある、以上の通りで在滿諸機關の本據が大部分新京に集中さるゝ結果、人口は必然的に增加する事と相俟つて本年度も昨年に優る諸工事の飛躍的進展が國都新京を舞臺に華々しく展開しよう(寫眞は國都全景)

奉天鐵西工業地實相(上)

白圖上、約百萬坪の赤鉛筆の魅力

餘りに遲い建設行進

「治安は奉天から」とはその頃の標語であつた、その治安も一段落と少くも一段落を告ぐべき見極めがついた或る時、在奉各關係方面の要人が集まつてのそこでそう、餘り奉天近郊の白圖に赤鉛筆の繩張りが出來たのである、それが現在の鐵西工業地の起りである。

・・

何しろ最初が赤鉛筆の繩張りなのであるから、いざ實行の段取となると却々むづかしいことが起つて來る、まづ一番に困つたのは「赤鉛筆」の圈内を劃定することだ、奉天城内から西方へ、商埠地を突切つて附屬地を乘つ切つて鐵道線路に突き當るがそれから越えたところから、どうやら此處は附屬地ではないらしいといふことが第一の難問となつた、練習して見ても事實は正にその通りであつて將來の奉天をどうするかといふことが話題に供せられ、いろいろ話があつた末

何はともあれ奉天は工業都市だ、やがて都市計畫もやらずばなるまいが、それにしても區畫してまアこの邊を工業區としたらよからう

附屬地外の工業區では奉鐵り仕方がないのであるが、さりとて折角の繩張りだ、その内何とか纏まるであらうではないか、相隣のことこと、さばかり三角定規が縱横に駈け出して、さて出來たのが約百萬坪の鐵西區地である。しかも來たこの百萬坪は圖上の存在から解放されてゐない、といふのは白圖の上でこそ廣漠たる奉天平野の一角に相違ないが、現地に足を踏み入れて見ると大きな的ちがひ、そこには耕地もあれば民家もあり就中目立つのは窯業の工場である、これ等を買收しなくてはならない、買收といへば金の要ることであるから今更滿洲で謂似を論ずべきではないとあつて、型の如く滿鐵がその買收の衝に當り、若しくは當らせられることになる。

滿鐵が買收の手を伸ばすに從つて、ある部分は買收可能であつても殘りの部分は不可能といふ事態が起つて來た、何しろ日本の會社が附屬地外を買收するのである、第一に買收そのものが出來ない、法律的にいへば商租でしかないわけであると同時に、地價の決定に骨が折れる、折角滿鐵がある値を提供しても地主が飛びついて來なければそれでその話は絶望である、最後に於て收用の手は封じられて居るのだから手が出せない、そこで此殘りの部分の處置方を滿洲國側に持込んだ、滿洲國からは奉天市政公署が顔を出して來た

・・

奉天市政公署の土地買收は勿論手際よくすらすらと運んだ、かうしてやつと約百萬坪の鐵西工業地なるもの、劃定は出來上つた、滿鐵商租と奉天市政公署所有との二つの原素が混合して、それでもそこから商租權利者が排斥されたところで地均しが始まり杭が打たれて一面の野原が出現することゝなつたのである、とはいへここに問題は何人が地均しをするかといふことである、もつと穿つていへば何が地均しをさせてゐるかといふことである、そこで當然「奉天工業土地會社」が生れ出でねばならぬ順序となつて來る。奉天工業土地株式會社である、資本金二百萬圓、滿鐵會社と奉天市政公署との共同出資に成る、その設立趣旨の中にかう書いてある

(前略)滿洲國建設せられ各種工業勃興の機運に際會せるを以てこれが助成及び促進を期すべき事は現下の最急務たること贅言を要せざるところなり、即ち日滿兩國當路者茲に見るところあり、各種工業を統制合理化し内外の資本を糾合して將來日滿産業の發達に資する目的を以て日滿合辦による土地會社の設立を策し茲に一大工業地區の實現を企て本年十二月本會社の設立を見たり云々

土地會社はこの意氣を以て設立せられ地區の地均しから道路の築設まで一切を完了した

一、地均工事　全地域に亘る小丘窯業工場跡等高低を平均し坦々無礙の地區とせり

二、道路工事　奉天驛の中心西方延長線の道路を中央路とし(幅員二十二米)南方に第一路より第六路まで、北方に第一路より第四路までの幹線路を開通し各所にて支線路と交叉す

三、下水工事　幹線道路網に沿ひ下水道を掘鑿し南方に長驅して渾河に放水す

四、鐵道引込線　地區内に三條の引込線を敷設し大量輸送の便に供したり、各引込線より工場に至る支線は借受人にて隨時敷設することゝせり

これが奉天土地工業會社の約百萬坪の地區に對して施設したる大要だ、併しながら右の設立趣旨を注意して讀まなければならぬ一點は、文中に會社設立の時を「本年十二月」としてゐるところである、即ち本年十二月とは實に昭和八年十二月の謂なのであつて、こゝまで滑かに運び來つた新設會社ならば爾來一年を閲したる昭和九年の末に於ては、さぞかし社長以下役員の顔觸れが決定し登記その他一切の手續も悉皆濟んで居るだらうと推定されるであらうが、それでは大いに誤る、實をいへば未だ設立登記さへも濟まず、正式書類の提出は行はれたといふが、今はそれすら行方不明で宛然宙に迷うて居る有樣なのである。

・・

奉天工業土地會社は恐らく赤鉛筆時代に於ては日本商法の規制さるべきものとして受胎されたのだつたかも知れない、併し生れ出でた時は良きにせよ惡きにせよ事實は日滿合辦の外の何ものでもないのであつた、日滿合辦とある以上は滿洲國側に向つて諸手續が進められなくてはならぬ、社長には滿鐵の、これは關屋奉天地方事務所長が據るに相違ないとして、副奉天市長は副社長たるべくその他重役中に市公署代表として久米總務處長が擬せられ、以下ズラリと各界首腦が名を列する仕組でなくてはならない、併し關屋所長は滿一年依然として發起人總代の創立委員長にして未だ社長でもなければ監事長でもなく、土地會社は土地會社で地方事務所一隅の土地係室のその又一隅に「創立事務所」の殼から全く拔け切らずに宙ぶらりんで居る次第なのである、

むろん正式書類の提出は完了したが實業部の査定が手間取るともいはれ、現に久米總務處長の重役就任といへば官吏の事業會社役員兼務となる點であるところから散々に今部内で揉めてゐる、官吏は事業會社に對して行政の立地から干涉權を持つてゐるであらう、また檢査の方面から監督權を行使するかも知れぬ、併し久米總務處長の場合は現官のまゝ會社の重役を兼ねやうといふのである、若干餘につくのは考へられることでなくてはならぬ、そこで先づその申請を上級官廳(民政部及び實業部)に提出しその許可を取りて、それから本格の會社設立願書受附に及び、それが片付いてやつと登記にまで着到するといふのであらう、曠日彌久の因由はまさにかういふところに有りて存するのである

・・

土地會社設立のことは斯うして頗る漫々的ではあるが、工場設置の方は大した急歩調でもないが着々進捗したとは否まれない、行く行くかういふことにならうとは豫じめ知る由はなく、例の「赤鉛筆」の魅力によりて一種のメスメリズムにかゝつた資本家達は續々金圓資本を懷にこの地へ由し「鐵道の西」に向つて投げる、投げるに從つて工場は建つて行く、即ち左の通り

(九年十二月廿日現在)

	工場	敷地(平米)
工事濟	一五	一五九、〇七一
工事中	一〇	二三一、八九四
契約濟	一七	二二五、四二八
詮議中	一四	一三四、九二六
計	五六	七四一、四二〇

地割が濟んで工場建設が約束されたものは七十四萬平方米である、全面積約百萬坪の約五分の一がやつとこの一年有餘の間に物になつた總量である、尤も愈々工事が濟んで作業開始となつたのは二十分の一しかないのであつて、これが大した急歩調でもないといふ所以であるが、それはともかく右計數の内容を左に於てのぞいて見る必要がある

工事濟

目的		企業者
織工場	大阪	中山悅治
塗料工場	同	日滿塗料
白鶴(酒)	大連	嘉納合名
織	奉天	田崎
窓枠	東京	日滿鋼材
鐵	奉天	本田
製瓶	同	柏內
毛皮革	同	三浦
菊正宗	兵庫	本嘉納
修繕	奉天	電々會社
製藥	濱松	三立製藥
同	東京	明治製藥
紹興酒	撫順	滿洲造酒
製帽	東京	滿洲製帽
ゴム	朝鮮	內[illegible]

工事中

目的		企業者
織	大阪	大林組
製菓	同	江崎
製釘中小型	同	中山悅治
織	大連	伊賀原組
染色	東京	康德染色
製菓	同	日滿製菓
織	奉天	弓場常太郎
製藥	同	極東生藥
ビール	東京	滿洲麥酒
織	奉天	滿洲工作所

契約濟

目的		企業者
皮革	東京	日本皮革
力正宗	靜岡	東洋釀造
精穀	大連	中島
ビール	福岡	康德麥酒
足袋	久留米	つちや足袋
冷藏庫	大阪	日本水產
味噌	大阪	伊東
自轉車組立	奉天	小島
製瓶	同	柏內
釀造	同	島屋
亞麻紡績	同	滿日亞麻
製材	同	秋田商會
同	安東	無限公司
精穀	鐵嶺	大矢組
織	安東	宮崎
白鶴	大連	嘉納純
ビール賣店	東京	滿洲麥酒

詮議中

目的		企業者
洋灰製品	奉天	滿洲窯業
織	大阪	大林組
塗料	神戶	神東塗料
染料、甘草エキス	大阪	乾卯商店
精穀	奉天	國益精糧
建築材料	同	新見
大麻子油工場	同	滿洲植物油
製油	同	中村
キスタオイル	同	日滿製油
セメント倉庫	遼陽	滿洲洋灰
製藥	奉天	鵜原
變電所	同	滿電
職工宿舍	同	奉天製麻
莫大小生地	上海	[illegible]戶

通觀して企業ヴアライエテけだし相當なものである、これが皆金圓資本の投下なのであつて見やうによりては多少壯觀でないこともない、併しながらさういふ壯觀の裏を覗いて見ると、必ずしも明朗な點ばかりはいへない、若干の憂鬱味はある、それは第一地區の法律的地位から來る、何しろそこは附屬地外なのであるから滿洲國法によりてのみ規制せられるのみならず、折角繩張りに因ふ土地會社もまだ完全に設立を了してゐないのである、何を以て外國資本たる日本資本が保護せらるゝか(寫眞は工業地區の展望)

日本化する哈爾濱
加速度的に殖ゑる邦人

ハルビン支局　神藏重勝

今から約三十五年前森林に囲まれた松花江岸の一部落にロシア人が築いたハルビン市―極東に對する帝制ロシアの侵掠の足場として建設された軍人町でしかなかつたハルビン市だがロシア革命、支那の利權回收時代、奉天軍閥時代、滿洲事變と幾變遷を經て遂に人口五十萬の大都市にならうとは誰も想像しなかつただらう、そして今は日一日と舊ハルビンが葬られて「日本化」された新しいハルビンが成長しつゝある、露治時代における軍隊及び鐵道從業員中心の發展振りに反して支那の勢力下におけるハルビンは夥だしい苦力と商人の群が殺到した、然し滿洲國成立後のハルビンは資本と技術と知識とを持つた邦人の力に依つて着々建直しが行はれてゐる、殊に治安の恢復した昭和九年中の邦人の發展振りは目覺しいものがある、

邦人二萬五千

邦人の人口は事變前においては僅かに三千人足らずだつた、それも舊軍閥の壓迫を受けて多年苦鬪を續けて築きあげた地盤は根柢から覆へされ全在留民は引揚げの時期を待つばかりだつた、それが滿洲國成立以來忽ち五千となり、一萬となり、昨一年間の増加は四千二百六十四名といふ躍進振りで現在の邦人人口は左のやうな數字を示してゐる

	男	女	計
内地人	七、八〇七	五、三七四	一三、一八一
朝鮮人	三、四〇八	三、〇四二	六、四五〇
合計	一一、二一五	八、四一六	一九、六三一

この外に屆出てないルンペンや露人滿人などの家に寄宿して調査洩れのものが四、五千はゐる見込みである、又ハルビン郊外に住む内地人百九十三名、朝鮮人四百三十二名を入れると、ハルビンに居住する邦人人口は二萬五千人近いことになる

邦人の職業別

邦人人口の内で最も多いのは會社、商店その他に勤務するサラリーマンで家族を合すると三千五百餘名である、之に次いで滿洲國官吏、同陸海軍人、鐵道、土木關係のものが約二千五百人その他は種々雜多な職業に從事してゐる、昨年渡來した天理教農村民及び從來から阿什河流域で農業に從事してゐる邦人農民男二百四十四名、女二百六十二名も大ハルビン特別市の實施に依つてハルビン市民に加はつてゐる、邦人在留民を職業別にすると約四十餘種となるが會社、商店、旅館等相當大資本を投じて事業を營んでゐるもの、外には可なり突飛な職業に從事してゐるものもあつて、木竹皮革羽毛等雜工業といふのや、傘や提灯の製造をして外人を常得意としてゐるものなどもある、他の都市に比してルンペンが少いが、自由勞働者なども相當に入り込んでゐる、

日本資本建築

昭和九年度における邦人の躍進振りを物語つてゐるものは邦人の資本に依る大小建築の續出したことで、昨年中に出來た建物の全部が邦人の資本に依るものだといつても過言でない、地段街における康德ビル、モストワヤ街の高層ビルなど高層なビルディングが續々建築されたが、その外鐵道病院、鐵路局の邦人社宅などハルビン市街の美觀を添へ本年中には赤十字病院、商工會議所などの大建築が完成する筈であるが、何れも最も新しい樣式を採用し從來のロシア式建築に比して異彩を放つてゐる、事業方面に於いても事變以來續々創立された大會社は悉く邦人の資本に依るもので大滿洲麥酒忽布會社、日滿製粉大同酒精、阿什河製糖、ハルビンセメント、日滿酒精等最も鞏固な地盤を持つて堅實に經營されてゐる、

日本語熱勃興

▲ハルビンの「日本化」は從來ロシア人の獨舞臺であつたキタイスカヤ街を遠慮なく侵蝕した、街の兩側をロシア人の男女がゆつくりした歩調で、散歩してゐた特有の情景は跡方もなくなつて活氣に充ちた足どりの邦人がめつきり増加し、各商店はロシア人や滿人の商店まで日本語の看板を揭げショウウインドには日本語の説明書がついてゐる、そして一商店に二人や三人の日本語を解する店員が傭ひ入れてあつて邦人客は少しも不便を感じない、又商品も總て日本品ばかりで却つて旅行者が土產品を買ふのに困る位である、露滿人の日本語研究熱はすばらしい勢ひで流行してゐる、各會社商店では敎師を傭つて日常會話を習得してゐるものが多く、各ロシア人書店には必ず店頭に日本語學習書が飾られてゐるのを見る

藝酌婦一千名

▲夜のハルビンはこれ亦邦人の獨舞臺のやうな感じがする、市中到る處、どんな片隅に行つてもカフエーのネオンサインの目に入らぬ處はない位である、新市街の住宅街にもカフエーが續出し從來邦人が全く住んだことのない馬家溝でさへもカフエーやおでん屋が數軒つゞく、夜の靜寂を破つて高吟して歩くものは先づ日本人だと思つて間違ひない位、又埠頭區の邦人の多いモストワヤ街、地段街などには夜店がずらりと並び屋臺のおでん屋もあるといつた有樣、ハルビンのローカルカラーはかうした「日本化」に依つて葬り去られてゆく、料理店の多いことも他の新興都市に決してひけをとらぬ、從來一面街に限定されてゐた料理屋は何時の間にか全市にはみ出し新興氣分を遺憾なく發揮してゐる、從つて藝酌婦の數も日々増加する一方で現在の數は千人を突破してゐる

邦人犯罪激増

之も一風景といへばいへやうが、邦人の増加するに從つて、犯罪數の激増したことである、たとへば昨年四月から十一月末までに日鮮人の犯罪人數は既決一千四百二十六名、その延人員一萬一千五百五十名に上つてゐる、そして刑務所に收容されたものが百六十四名、延人員四千二百八十六名となつてゐる、犯罪も從來邦人間に殆ど無かつた殺人、過失致死、強盜、強姦などの重罪犯があり益々増加の傾向にある、之などは甚だ面白くない現象だが堅實な邦人の發展につれて不良分子も亦續々入り込んでゐることを物語つてゐるものだらう。

明治四十年頃のハルビンの思出

滿鐵囑託　軍司義男

▼…私が初めてハルビンに來たのは明治四十年だが、それから一度歸つて四十二年に再び來哈した當時のハルビン在留民は二、三百名位はゐたが大部分洗濯屋、時計屋、料理店などで邦人商店の主なものとしては熊澤、梅原、松浦洋行などの雜貨店があつて日本品の販賣をしてゐた、その外には本溪湖炭販賣の竹内商店があつた位である、その後間もなく三井支店なども出來た、當時のハルビンは營口領事館の管轄で大正五年に始めてハルビン總領事館が出來川上總領事が赴任して來た

▼…在留民の多くは全く裸一貫で大陸に渡り、想像以上の苦鬪を續けて來たものばかりであるが、私の來た當時にもよく日露開戰當時のことを聞かされたものだ、何でも開戰前には今か今かと在留民は非常な不安に襲はれてゐたが、在浦鹽の一邦商からハルビンの一邦商店に米何十俵とかをすぐ送れとの電報が入つた　これは豫じめ打合せてあつたので在留民はそれとばかり一齊に引揚を開始した、浦鹽に向ふものと營口に向ふものとの二手に分れて歸國の途についたが、ごさくさ騒ぎで財產なども殆ど捨て、引揚げたさうである、熊澤洋行支配人の藤井忠次氏など一支那人に財產を預けて行つた處戰後歸つたら本人はその財產を賣り拂つて姿を消してゐた、それでロシア官憲に訴へた處、それなら同人の所有する家があるから代償にとつたらいゝだらうといふので家を持つことゝなつたが、これが邦人で不動產の所有權を獲得した最初だ

▼…ハルビン草分の在留民達はこんな苦しい經驗をくり返し文字通り惡戰苦鬪を續けて來たが、大正六、七年頃から初めてすばらしい好景氣に惠まれハルビンは日本品の洪水に襲はれ商品はいくらあつても足らぬ程の賣行で在留民も忽ち何千人となつた、大商店や正金、朝鮮銀行支店なども出來、現在のハルビン在留民の地盤を築き上げた

▼…ハルビンの市街も今では全く面目を一新したが、私の來た頃には雨が降ると一面の泥濘となり兩側に板を渡して人道としてゐた處なども多くて田地街にあつた居留民會前などはよく馬車が泥水に溺れかけてゐるのを見た　新市街の如きは今の秋林商會附近から先は郊外で商店なども此附近とグランドホテル附近に二三軒あつただけで他は東支鐵道社宅以外に家らしい家はなかつた、當時の人々は今日の繁榮が來やうなどとは夢にも想像してゐなかつた、全く隔世の觀がある

滿洲の猪

◇今年のお正月を迎へたので我々の生活に馴染深い滿洲の猪(豚)はどんなものであるか簡單に一瞥して見やう。先づ斷らねばならないことは、こゝに述べる猪は通常の猪ではないことである。即ち豚―野猪の進化したものである。猪(豚)は滿洲では同種中の絶對多數を占めてゐるから豚について語ることは強ち牽強附會ではあるまい

◇滿洲人の生活するところ、都會であらうが田舎であらうが、豚(猪)を見ぬことはない。滿洲農家の副業として最も普遍的なものは豚であらう。凡そ滿洲農民の生活樣式に最もよく合致した二つの家畜がある。その一つは驢馬で他は豚である。前者は體の割合に較べて多大な勞力を提供し、後者は野菜の如き迅速なる發育と無雜作な管理で極めて豐富な肉を提供する

◇今、滿洲在來の豚を種類別に見るに黒猪、白猪、花猪の三種に分つことが出來やう。

▲黒猪　成長はおそいが肉味は最も佳く體量は二十ヶ月位で三十貫乃至三十五、六貫に達するものもある。これに屬するのが滿洲猪の大部分である

▲白猪　性虚弱で脂肪分少く肉味も前者に及ばない、體格は矮小であるが發育は迅速で、生後七八月で成熟し滿一ヶ年位で二十二三貫になる

▲花猪　體軀最も大きく晩成である、北滿地方に多く南滿には極めて少ない

◇滿洲の豚(猪)は食用としてはバークシヤ種に劣つてゐるが、その蕃殖力の大なる點では第一位を占めてゐる。普通には一年に二產、二年に五產のものもある。一產の平均十四、五頭、多產のものは二十四、五頭に達する。この多產は他種に見られぬところで支那豚が食用として多くの缺點があるに拘らず廣く一般に飼育されてゐる證據である。

◇滿洲人の肉食は殆ど豚肉に依つて三分の二以上を占めてゐる。それは丁度日本人の魚肉を用ふる程度以上であらう。たゞこの例外に回々教徒の集團があつて、彼等は猪を極端に嫌つて絶對にその肉を食用に供してゐないけれど。

◇要するに滿洲の猪は極めて有用な動物であつて世間でよく言はれる「豚に眞珠」などといふ失禮なたとへは滿洲では差控へなければなるまい。

遼東豚と諸國

後漢時代の或る書物に「遼東豚」といふ三字が見えてゐる、遼東には白頭の豚が多い、漢人當初之を見て異となし遂に朝に獻じ將に[illegible]るとき遂といふ、後に遼東の豚は殆ど白頭にして珍奇なものでないことが判り人の少見多怪(見聞狹くして驚き易き性質)を比喩するに「遼東豚」と稱するやうになつたが、帝政施行後第一回の新年を迎へ、而も乙亥の年即ち豚年を迎ふるに方り、世界諸國は何も白頭豚の住む滿洲國より「遼東豚」の比喩を買はんとするが偶然の廻り合せとはいへ世界各國の偏狹にして少見多怪なる視眼は豚年一ヶ年間の冷笑に價するものであらう

新年雜詠

長谷川かな女

明治神宮初詣

御垣守仰ぐや森の初鴉

初鶏[illegible]杉包うて來りけり

御燈火守る少年隊に淑氣あり

悄青く滴る御手水に初明り

[illegible]の[illegible]正しく[illegible]の[illegible]

賀正

大連

大連株式商品取引所
商品取引人組合

大連市敷島町四九
大連五品代行株式會社

大連市愛宕町三九
大連錢鈔取引人組合
組合長 首藤定
副組合長 劉仙州 任召南

大連市日吉町一
滿洲製麻株式會社
井上輝夫

總本店 近江洋行
大連市浪速町二丁目
電話代表二—四四四六番
支店 青島・奉天・錦州・朝陽

奥田時計店
大連市浪速町三丁目
電話二—六七三一番

大林組
高橋誠一
大連市東公園町技術會館

復州鑛業株式會社
大連市山縣通大倉ビルヂング內
電話二—六七一五番

長谷川坂本組
長谷川甚雄
坂本泰通
大連市神明町六番地

火災生命保險
建築材料卸商
田崎建材合資會社
大連市若狹町四五
電話㈢二—四七一九番
振替大連二一〇番
電信略號(タ)(タサキ)

大倉土木株式會社
大連出張所
加藤眞利
大連市山縣通(大倉ビル)

岡組
岡常次郎
大連市東公園町六五

榊谷組
榊谷仙次郎
大連市能登町一五

高岡組
高岡又一郎
大連市紀伊町二六

機械工具各種商
杉元商店
杉元篤衛
大連市連鎖街榮町通
電話(三—三八八七 五—五七九八)番

建築材料
藤川商店
大連市入船町二
電話二—四六三九番

―營業科目―
煖房衛生水道工事
防水保温材料及工事
タイル衛生陶器建築材料
一般藥品理化學器械
松澤商會
大連市監部通二十一番地
電話(代表二—六一〇四 二—六一〇五)
店主用 二—三三五一
振替貯金大連 一一一〇
支店 奉天、新京、ハルビン

大連市浪速町三丁目
陶磁器 世帶道具
岩倉洋行
電話(二—四六〇五 二—八四八七)番

大連市浪速町一四七
横山呉服店
電話二—五二三五番

㊂ 大連市浪速町三丁目
丸三呉服店
電話(二—六五五四 二—八二〇五)番

營業品目(鋼鐵材、建築材料 諸工業機械、雜穀肥料)
株式會社 大信洋行
大連市監部通四九
大阪支店 大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店 奉天小西關大街
鋼鐵工場 大連市香取町六番地
製油工場 大連市千代田町十一番地
倉庫部 大連市東鄉町二五番地

ビクター蓄音機滿洲代理店
山葉洋行
大連市信濃町
電話代表二—四一四八番

滿洲水產販賣株式會社
大連市加賀町四番地
電話(二—四五八一 六三三四)番

藥品貿易商
株式會社 乾卯商店大連支店
大連市山縣通
電話(二—三〇一七 二—五六〇九)

カメラの店
大連 木村洋行
電話二—六七四九番

遼東百貨店
大連市浪速町大山通角

食糧品卸商組合(いろは順)
彌宜田商店
中村榮吉商店
松井商行
三星洋行
京和洋行

滿日、大每、內地各地新聞販賣
辻山洋行新聞部
大連市山縣通六四
電話(二—三七四六 五〇〇〇)番

建築材料石炭販賣
德和公司
大連市近江町二
電話二—六一八一番

滿洲金物株式會社
大連市伊勢町五五番地
奉天支店 千代田通三七番地
新京支店 永樂町二丁目一番地

月星サイダー製造
月星合資會社
大連市西通
電話㈢二—四五七二番

大連市浪速町
大阪屋號書店
電話三—五七九〇番・三—五一八八番
振替大連五五番
分店・大連市連鎖商店街
本店・東京・支店・旅順・奉天・新京・京城

東亞煙草株式會社

大連木材商組合

永順洋行
大連市大山通
電話(二—四三三九 二—四八六八)番

日本賣藥株式會社
大連支店
大連市浪速町一四七
電話二—六一三九番

大連油脂工業株式會社
大連市香取町二七
電話代表二—六一七一番

大連百貨店
大連市浪速町三丁目
電話二—四六五四番

政記輪船股份有限公司
總理 張本政
大連市監部通三九
電話代表二—四一四一番

滿洲特產輸出貿易商
瓜谷長造商店
大連市山縣通一三七番
電話(國二—四四二六番 二—三三三六番 二—七七六四番)
電略號(ウ)又は(ウリ)

關東州酒造組合

關東州辯護士會一同

文具繪書品
測量度量衡
內田洋行
大連市連鎖街銀座通
電話(三—六九二九 三—四八五九)番

株式會社 南昌洋行大連支店
大連市山縣通八八
電話代表二—六一一一番

博多屋本店
大連市磐城町八九(西通筋)
電話二—四四五三番

文具の天野
浪速町 翰墨林
電話二—四九九四番

船具金物機械、諸油塗料
岸洋行
大連市監部通二七
電話二—四三七六・二—六四二〇番

株式會社 大連車夫合宿所
大連市八幡町二番地
電話二—六〇二〇番

大連人力車
乘用馬車組合
大連市八幡町二
電話二—七〇三八番

レデーフヰンガー
花あられ・フライビンズ
タフヰー・ヌガー類
煎豆・掛物類
衛生ボーロ・罐詰・折詰
製造卸
㊍ 木村屋
大連市若狹町一九九
滿洲國部
電話㈢二—六八六八番
振替大連一三〇八番
電信略號(キ)又(キマサ)

大連市監部通五六
菊正宗 發賣元
鐵谷商店
電話二—七〇四二番

㋷
宇治茶
大連市浪速町三丁目
辻利大連支店
電話二—四七七六 三三八七

大連運動場前(不老街二三五)
歯科口腔外科 レントゲン科
芳賀醫院
芳賀善吾

品川洋行
高堂武則
大連市敷島町三
電話二—二六四五〇番

大連市浪速町四丁目
日吉商店
電話二—四八三九番
馬具販賣部
浪速町扇芳ビル前

神戸屋株式店
大連市敷島町五品ビル二階
電話(二—八五四〇 二—八八六〇)番
支店 大石橋大正街三番地
電話一一一番

糸ボタン
大連市浪速町
丸岡糸店
電話二—七二〇〇番
新京百貨店內
丸岡糸店
電話三—一六一番

池田小兒科醫院
院長 池田嘉一郎
大連市西通三六
電話二—六三六五番

尾形醫院
院長 尾形一郎
大連市若狹町
電話二—七七七六番

金子小兒科醫院
院長 金子甚藏
大連市西通七八
電話二—七六六一番

探偵小說 曲馬團綺譚

大下宇陀兒

いくつの時であつたか、ハツキリとは覺えてゐないが、その時の騒ぎだけは、未だに敬三の腦裡に、刻印のやうに刻まれてゐた。

多分、八つか九つの時であつたらう。三つ下の妹が突然居なくなつてしまつた。何でも大賣出しの赤い旗が、どこの店頭にもハタハタと動いてゐたことを記憶してゐるから、師走ももう押詰つてからの事であつたらう。

近所の子供と遊んでゐた妹が、昔話に聞いた「神隱し」のやうに突然姿をくらましてしまつたのだ。

それを知つたのは、もう暗くなつてから夕御飯に呼ばうとした母が、あの子はどこへ行つたんだらう、と、別に心配もなく言ひ出してからの事であつた。

「さつき酒倉の前で、歌をうたつて遊んでゐらつしやいましたよ。あれは確か隣のおみよちやんとでしたか……」

薪割りの爺さんは、何でもなく言つた。

さう言へば、母の耳にも娘達の歌ふ、照る照る坊主……の歌がホンのさつきまで聞えてゐたやうに思はれた。

「あの子はいつまで遊んでゐるンだらう」

母はこの忙しい時に、と言はぬばかりにブツブツ言ひながら、酒倉の前や、ごろごろしてゐる樽の中を一つ一つ覗いてみたが、娘の姿は見つからなかつた。

（隣のみよちやんに聞いてみたら……」

母は裏口から、通りに出て、隣の裏口へ首を出した。

「ひよつと家の娘はゐませんか」

「……あらッ居らつしやいませんか――いつもみよがお邪魔ばかりして」

おかみさんが、前掛けで手を拭き拭き出て來た。

「え、さつきまで、お宅のおみよちやんと遊んでゐたさうですが……」

さういふ聲が終らぬうちに、どこからかおみよちやんが飛んで來て、

「陽子ちやんは、どッかの叔父さんに、お菓子を貰つて一緒にあつちへ行きました」

母も隣りのおかみさんも思はずおみよちやんの顏を覗き込んだ。

「あつちッて？」

「あつちよ」

おみよちやんは、ちよこちよこ走りで、裏の通りまで出ると、町はづれの方を指した。

其の方面には、T市に通ずる××電車が、夕靄の中に時々ポールから火花を散らして走つてゐた。

――敬三は母の傍にくッついてゐて、この時、不安な心持を、今でもハツキリと覺えてゐる。

それから、陽子は遂に戾らなかつた。

「人攫ひに攫はれたのだらう」

それは諦め切れぬ言葉であつたが、もはや搜索の手段も盡きた。

毎日々々、三度々々、主のない膳が据ゑられて、十五年の月日が經つた。

そして、敬三はT市の醸業學校を出ると、この町でたつた一軒の造酒屋の若主人となつた。

「[illegible]さん、隣村に輕業が掛かつたさうだが、もう見物に行かれましたか」

ある日、酒を仕入れに來た小料理屋の親爺が、御注進と言はぬばかりの顏で報告した。

敬三はサーカスや輕業の類がかゝると見逃さなかつた。三里、五里といふ道程を自轉車で飛んだ。

「へえ、そいつア知らなかつた。いつから掛つたのだれ」

「今日からですよ。とても大掛りで馬が十頭ほど來て、隣村では大騒ぎです。何しろ今年は本祭ですからなア」

「――馬が十頭、そいつア曲馬團だな。ぢやア、これから一つ出掛けてみやう」

「若い女の子も澤山居りますよ」

急に親爺が手柄顏な口吻でいふのだつた。

敬三はすぐ背廣に着かへて自轉車に乘つた。

村の南端にある明神の森に近づくと、もう賑やかなヂンタの音が聞えて來る。大テントの前には幾本かの幟が立つてゐて、人が黒山のやうにたかつてゐる。敬三は自轉車を預けて、その前に立つたが、こんな大がゝりなサーカスを見るのは初めてゞあつた。さつきの親爺が言つた通り、曲馬に使ふ馬が十頭、つり下げられたまぐさ桶の中に首を突つ込んだり、地べたを足で搔いたりし、その上には、眞白に白粉を塗つた踊ッ子達が、きやつきやつと騒いでゐるのであつた。

敬三はなぜかその時、妹の顏をふと思ひ出した。

大テントの中は、もう、人でギツシリ一杯で、敬三は漸く揚飾の一ばん隅がつてゐる端のところに立たされた。足許がグラグラして底の方から埃つぽい風が吹き上げて來る。

その時舞臺では、恰度綱渡りが始まらうとして、下でシルクハツトの男が何やら口上を言つてゐるところであつた。

敬三に恰度、その綱渡りの太いロープが蟬車にかけられてゐる場所にゐたので、自然手がそのロープにかゝつた。だが、ロープはキーンと強く張られてゐるので、たとへそこへ體の重みを全部かけたところで、ビクともするやうなものではなかつた。

下の方で口上が濟んだらしく、戲巴のヒカヒカ光る緞子の袿杯に眞赤な女袴をはいた若い娘は、右手に蛇の目傘を高く捧げてそのロープを渡り出した。

やがて娘は中央まで來ると、片足上げたり、今にも落ちさうな姿態をしたりした。その度に拍手が湧き、驚嘆の叫びと、拍手に送られて、社杯の女は、だんだん敬三の立つてゐる場所に近づいて來た。

ふと氣がつくと、その女の眼はさつきから、敬三の顏にそゝがれてゐる。それはもうずつと前からであつたらしい。肢體は揺樂のやうに揺れてゐるものゝ、その眼だけは更に動かなかつた。

（俺を目標にしてゐるのかな？）

敬三は負けずに、ぢッとその女の顏を見返した。

さうして、敬三の傍へ來て、綱から飛下りるまで彼女は眼を放さなかつた。到頭下りて仕舞ふと、能面のやうな無表情な顏を急に崩して、敬三に目禮した。顏に笑ひを含んで――。

敬三は何だか身内がムヅ痒いやうに感じた。やがて、そのムヅ痒さが潮でも引くやうに冷めて行くと、敬三はハツと我に返つた。

（――妹の顏に似てゐたゾ！）

だが、それは氣の迷ひだ。そんな筈がない――と、すぐ否定した。

〇

そんな事があつてから敬三は、何となく心をひかれて、その翌日も、その翌日もサーカスに通つた。そして、いつものロープの終點に佇んで、彼女の艶に笑つて目禮するのを唯一の樂しみとした。

恰度三日目――。

ロープから飛下りた彼女は、蛇の目の傘をすぼめながら、

「毎日來て下さいますのね」

と、間近に寄つて囁いた。敬三はどぎまぎとした。

「ハア……」

それは精一ぱいの返事だつた。

「明日も來て下さいます？」

「――來ます」

「待つてゐますわ」

さういつて、こぼれさうな愛嬌笑ひをして彼女は去つて行つた。

その夜、敬三は何といふことなしに寢つかれなかつた。

（俺は、あの女に戀をしたのかしら？）

敬三は自分で自分にたづねて見た。

その翌日、敬三は待ちかねるやうに自轉車のペタルを踏んだ。

いよいよこのサーカスも明日一日といふので近在近郷から集つた見物はギツシリ一ぱいだつた。

やがて待つ間もなく綱渡りは始まつた。

敬三の眼と、彼女の眼は、もうロープに彼女が上つた時から結ばれてゐた。

敬三の心臟は拍手の起るたびに躍つた。

彼は自分の眼が、目標になつてゐると思ふと、一分でも眼を離せなかつた。若し自分が動いた爲めに、彼女の目標が狂つたならば……それは考へても恐ろしいことであつた。

漸く彼女は無事に渡り終つて、ポイと下りて、親げに敬三の傍へ寄つた。

「――また來て下さいましたのね。私はあなたが其處にゐて下さると何だか綱を渡るのが樂しみなんです。でも、もう明日が樂でお別れね」

急に彼女は眼を伏せて、蛇の目の折れ目を一節々々揃へた。

「こんごは何處へ行くのです？」

「北海道よ」

「北海道！」

敬三は鸚鵡返しに言つて、まじまじと彼女の顏を眺めた。

「お別れにどこかへ御飯を食べに連れて行つて下さらない」

敬三は今までそんな事をした經驗がなかつた。が、どうにかなると思つた。

「行きませう」ハツキリと返事をした。

〇

その夜、敬三は遲く家へ歸つた。頭がこんがらかつて寢つかれなかつた。

（彼女は俺を愛してゐる。あすの晩……あすの晩……あゝ、あゝ）

何を約束したのか、敬三はたまらないやうに、床の上に反側した。熱ばつた唇がからから乾いて、無暗にそれを舌なめづりした。

その翌朝、大テントの中に運ばれた大きな化粧鏡があつた。鏡の下方には金文字で「星の光」と書かれてあつた。いふまでもなく敬三の家で造る酒の名前で、上の方に障子紙を切つたらしい長方形の紙に黒ぐろと「尾上洋子さん江」と書いたものが貼られてあつた。

「こゝへ掛けませう」

袢纏着の男が、敬三に尋ねた。

「あそこがいゝと思ふんですが――」

指さしたところは、敬三が毎日彼女を待つてゐたところであつた。

「高いところですな……しかしまあ、あそこなら、みんなの眼について廣告にもなるでせう」

さう言ひながら男は、敬三の家から來た小僧達の手を借り、見物席の一番高い――ロープが蟬車にかゝつて、下に垂れてゐる恰度その上へ、鏡を少し俯向かせて釘付けにした。見ると、その日は千秋樂の日だつたので、きのふに增して見物人が詰めかけて來てゐる。

輕業、曲乘り、曲馬、だんだんと演藝が進んで、いよいよ彼女の綱渡りの番となつた。

敬三の眉には自ら微笑みが浮んだ。

（けふは、この鏡の中に寫る彼女を見てゐてやらう。自分の顏や眼も鏡の中に映る筈だから、それを目標とすれば間違ひはないだらう）

敬三はたゞ一人、見物に背を向けて、鏡の中をぢッと見た。

見える見える、蛇の目の傘を高くかゝげて、一歩一歩近づいて來る彼女の姿……。

その足取りには何の不安もなかつた。

中央に來て片足立ちの曲藝も濟んだ。あとはもう徐々に鏡の方へ近づけばよい。五間……四間……

彼女は終點に付いて、もう一息といふ時、どうしたハズミか、急に兩手で何かを抱かうとするやうな恰好をした。と、中心を失つたものか、二三度傘が廻つて、くれと身體が捻れたと思ふと、片足はづれた。そして、その時彼女は下を見た！

「あッツ！」

敬三は思はず叫んだ。と同時に大テントの中が一ぱい騒さなつて混亂を生いた。一瞬間際のやうな靜けさに返つて――あとには白々とした一本のロープのみが殘されていた。

――彼女は鏡のあつたゝめに恐ろしい錯覺に襲はれたのだ。同じロープの上を段々と自分に近づいて來、今にも衝突しようとするもう一人の綱渡りの女を見たのだ！

〇

そして、そして、もつと意外なことは、その彼女が、轉落死んでしまつたあとで、實は十五年前に行方不明となつた敬三の實妹であることが判つたことであつた。

彼女の痛ましい死を悲しむと一緒に敬三は、その死がなかつたらどんなに逢聞しいものになつたかと考へて、ゾーッと脊筋が寒くなつた。（了）

春聯の話

◇…滿洲國及び支那における春聯は日本でいふ松飾りみたいなもので正月になると官公衙、諸會社一般住宅等凡ゆる建物の入口や門柱、影壁等に貼るが、春聯は白樂天が「新年納餘慶」「佳節號長春」と記して門柱に貼つたのがはじまりで、其後明の太祖が金陵に都した時官民に勅して公卿士庶の門に一對の吉語を紅紙に記して貼らしめて以來支那四百餘州は勿論滿洲に於ても悉くこれを用ひるやうになつた。支那では國民政府治下になつて以來やゝ下火となつてゐるが、滿洲國では尙盛んに用ひられてゐる。

◇…春聯は普通紅紙に墨書するのが慣ひとなつてゐるが、清朝時代皇居には黄紙に墨書を用ひた。これは一般人には許されぬが、王族は綺麗に彫刻した枠の中に板を塑つて掲げてゐる。

春聯は十二月二十五日の竈祭りを終へたら用意をするが、二十八、九日頃に貼つたり掲げたりする。一般人の紅紙に書いたものは次の春聯を貼るまで殘して置くが、上流社會で用ひる枠製のものは一月十五日の元宵節に取りはづす事になつてゐる。

◇…春聯の文句は大抵吉祥の句で士農工商、官公衙、學校、會社その他職業別に相應した句を選ぶ。句は四言（四字）對句と楣に貼る横披句とがある。最も多く使はれるのは四言から八言位までゞ素晴らしい長言のものもある。

◇…春聯を貼る影壁の中央には家長はじめ一家の人々の官名を書くを慣はしとしてゐるが、官名がないものは「原任何々」と元の官名を書く、それもない者は代用として鴻禧とか延齢等と書きます。併し社會に對する警句めいたものや社會に對する憤慨、政府に對する不平の句を書くこともある。その例を擧げると刑部尙書薛允升が職を解かれた時その門に「惟康強乃逢吉」「無案牘之勞形」と云ふのと「煙雲過眼」「松柏有心」といふのを貼つたさうだが春聯としては變り種である。

◇…春聯の句は有識階級では各自に年々創作するが、一般には古來の名句を代用する。面白いのは春聯書家が出來て所謂春聯詩人とでもいふか中、下流相手に敵賣してゐる。文章の國、文字の國だけに大仰な形容で思はず微笑の出るやうな春聯があります。

新婚の家庭では「屏開金孔雀」「褥隱繡芙蓉」婦人の室には「春風來綉戸」「和氣滿香閨」新しく妾さんを娶つた家では「陰陽合配便爲歸」「喜得人間紙好逝」等如何にも穢郁たる春風に包ふものを想起して新造正月氣分に追込むのである。

謹賀新年

皇紀・2595

大連・吉林

大連市內中等學校長一同

大連市山縣通一九四
㊀丸一公司
電話二－五九五四番

大連市山縣通六八
田村商會
電話二－三九〇七番

銘酒白雪
サクラビール
丸辰醬油
鈴鹿商店
大連市伊勢町一一三
電話二－四八五八番

化粧品直輸入商
獨逸モーソン會社謹製
ベルケンワーサー特約一手販賣
高新洋行
大連市伊勢町二
電話二－八二五九番

洋服、毛皮、絹物專門
最新米國式無水清淨
寶ドライクリーニング商會
大連市彌生町四番地
電話二－八三一六番

大連市磐城町
外海洋行
電話二－四二三九・二－六三二九番

大連市伊勢町四四
パレー商會
電話二－八四〇二番
メステル毛皮商會
大連市大山通四八(久保田歯科醫院隣)

大連市大山通六四(森本醫院隣)
シベリヤ毛皮商會
電話二－三六五六番

三好野
大連市磐城町
電話二－六五一二番

大連市信濃町四四
日本橋藥局
福原勳雄
電話二－八三六二番

東鄕旅館
大連市信濃町三五
電話二－八一六七番

天津號甘栗店
大連市伊勢町九〇
電話二－四〇二三・二－八六二九番

大連市伊勢町三二番地
和洋食料品
和洋生菓子
甘味舖
電話二－七三三二番

ワイシャツ製造販賣
不倒子
大連市伊勢町一〇二
電話二－八二一〇番

大連市淡路町七
菱川大昌堂藥局
電話二－七八九三番

大連市近江町
ばら屋花環店
松原德藏
電話二－三九一〇番

大連市伊勢町九四(西廣場近)
㋫三河屋布團店
電話二－七八九九番

大連市常盤橋
みなと屋菓子舖
電話二－二六六〇・二－六八五〇番

大連市濱町一五〇
料理ほてい
弓削ハツ
電話二－八五〇九・二－八七五六番

ラクダ屋本店
大連市磐城町五二
電話二－五七四八番
支店 大山通二四 電話二－三六一九番

滿鐵特約販賣人

佐藤組	電話二－四八七八番
共同組	電話二－四三〇九番
鶴田號	電話二－六〇〇〇番
熾昌厚	電話二－四六七三番
宮崎商會	電話二－五三一九番
東華公司	電話二－五六四五番
東萊洋行	電話二－八四八四番
大宮組	電話二－五六六一番

大連石炭商組合

白鹿	發賣元 合資會社白鹿商店
白鶴	同 合名會社嘉納大連支店
澤龜	同 宅の店
櫻正宗	同 灘屋
加茂鶴	同 黑岩大連支店
忠勇	同 增屋
富久娘	同 富久洋行
澤之鶴	同 藤井商店
都菊	同 合名會社肥塚商店大連支店
菊正宗	同 鐵谷商店
月桂冠	同 京和洋行
白雪	同 鈴鹿商店

大連綿糸布商組合(イロハ順)

伊藤忠商事株式會社大連出張所 大連市山縣通
日本棉花株式會社大連支店 大連市山縣通
日本蠶糸株式會社大連出張所瑞寶 大連市山縣通
東洋棉花株式會社大連支店 大連市山縣通
藤沼洋行 大連市紀伊町
株式會社大信洋行 大連市監部通
又一株式會社大連出張所 大連市山縣通
上野洋行 大連市山縣通
株式會社丸永商店大連出張所不破洋行 大連市山縣通
江商株式會社大連出張所 大連市山縣通
株式會社永順洋行 大連市大山通

大連市惠比須町一六〇
香壽美
電話三－一〇三六番

大連市老虎灘
千勝館
電話二－七〇四六番

スポーツ麻雀は定評ある
大三元麻雀俱樂部
大連市磐城町七(日活館裏)電話二－二〇一九番
宮崎仙三

吉林省公署
省長 李銘書
總務廳長 三浦碌郎
民政廳長 趙汝楳
警察廳長 河內志郎
實業廳長 羅振邦
教育廳長 張書翰

永吉縣公署
縣長 李科元

吉林大同林業事務所
村岡元市
木下秀教

吉林金融組合
吉林精米所
理事 金世元

カフエー
日滿會館
吉林怡春裡
電話二八四三

吉林稅務監督署
署長 劉紹衣
副署長 早借喜太郎

株式會社林兼吉林冷凍販賣部代理店
陸軍諸官廳御用達
桝田良男商店 吉林支店
本店 安奉線連山關
若葉溫泉
昭和アパート
若葉食堂

吉林警察廳
廳長 孫仁軒
外職員一同

丸重洋行吉林支店
岸原兼次郎
吉林驛前

吉林市政籌備處
處長 徐桓家

石炭販賣業
南昌洋行
吉林商埠地

日滿印刷社
大高和三
吉林驛前

協和會吉林事務局
事務長 高須祐三

滿鐵吉林事務所
所長 野中時雄

吉林阿片專賣所
所長 吳世澤

書籍文房具
滿洲日報販賣店
大和書店
吉林新開門

滿洲國立
吉林戒煙所
職員一同

喪中に付き年賀缺禮仕り候
新京鐵路局
吉林駐在員事務所長
本田玄靜

國際運輸株式會社吉林支店
支店長 宮本登

滿鐵吉林東洋醫院
院長 齋藤源次郎

吉林旅館組合
名古屋ホテル
松屋旅館
金水旅館
初音旅館
大阪旅館
東京旅館
日清ホテル
近江屋旅館

吉林日本小學校
校長 寺田政吉

吉林同文商業學校
校長 佐久間弘雄

滿鮮杭木株式會社吉林支店
支店長 前田利則

吉村劇場
吉林大馬路
電話二九〇〇

吉林料理店組合

土木建築請負業
大內組
吉林新開門

吉林朝鮮民會
民會長 姜老永

吉林木材興業株式會社
吉林東大灘

平和デパート
吉林七經路

新京鐵路局吉林駐在事務所
職員一同

喪中に付年賀の辭缺禮仕り候
今村知光
富吉號 吉林新開門

喪中に付年賀の辭缺禮仕り候
吉林驛長
山本澄江

金森洋服店
吉林大馬路

松村齒科醫院
吉林商埠地五緯路
富士ビル內

吉林日本人居留民會
民會長 堀井覺太郎

吉林新聞電報局
局長 荻沼英雄

二葉パン店
店主 長岡清五郎
吉林商埠地六緯路
電三六〇一

吉林

賀正　西暦・1935・　大連

大谷藤七支店
大連市浪速町三丁目
電話二―七〇四一番

榮商會蓄音器店
大連市伊勢町五二　電話二―八三九〇
大連市連鎖街心齋橋通電三―二二〇七
大連市大正通り　電話四九九六二

日滿通信社
社長　津上善七

三島屋洋服店
大連市岩代町八
電話二―六五四九番

マツヤ洋服店
大連市連鎖街常盤町通
電話二―八八八八番

露西亞毛皮商會
大連市大山通り三十六番地（林洋行隣）
電話二―一八一八番

諸官衙御用達
三陽疊店
土居三二
大連市近江町三三番地
電話二―三二七三番

夏木瀨印刷所
大連市岩代町四三
電話二―六三三七番

和洋雜貨
野崎洋品店
大連市浪速町三丁目
電話二―三二七九番
大連百貨店内
十番洋品部

山本運動具店
大連市伊勢町九四
電話二―五九七九番

活版、石版、印刷、紙、文房具、印刷材料
小林又七支店
印刷部　大連市若狹町三三
電話代表二―六二六一番
販賣部　大連市大山通六三
電話二―六二二七番

日清石油株式會社
大連市寶町三
電話二―四一六五番

藥種賣藥
石川萬壽堂
大連市信濃町一二三
電話二―四三四四番

亞細亞毛皮商會
大連市大山通（正隆銀行前）
電話二―七五六一番

吉野洋服店
大連市山縣通一二九
電話二―四九四六番

大連西崗商會
麗睦堂
會長　周子揚
副會長　王文川
電話三―四五八八番

礦油、酒精、金物、機械、保險
出光商會支店
大連市山縣通八〇
電話代表二―六一九一番

電池器具販賣並に工事請負
佐藤電氣商會
大連市伊勢町浪速町角
電話二―六七六七・二―七〇三九番

寫眞機械材料、活動寫眞機械、材料直輸出入
橋詰洋行
大連市大山通
電話㈡二―六〇五五番
振替大連三二一四二番
電信略號（ハ）（又）（ハ）シ

諸機械器具農具商
蘆田洋行
大連市山縣通六三番地
電話㈡二―三四〇六番
振替口座大連四二三〇番

株式會社　三共藥品販賣所
大連市山縣通一八一番地
前川郁夫

溝上洪盛堂藥舖
大連市伊勢町
電話二―七〇八〇番

袋布向春園
大連市浪速町四丁目
袋布要太郎

ニチロパン
日露洋行
大連市浪速町四
電話三―六六六一番
連鎖街小賣部
電話三―二一三三番

イワキホテル
大連市監部通吉野町角
電話代表二―七一六一番

伊勢屋寢具店
大連市伊勢町五二番地
電話二―四六五五番

栃木農園販賣所
大連市伊勢町
電話二―四四〇九番

果實商
ミノルヤ果物店
大連市西通一一五
電話二―三八七三番

鰻料理
黑松
大連市浪速町一七七
電話二―四四四七番

大連飲食店同業組合聯合會

吉川組大連支店
大連市西公園町四三番
電話二―三三九一・二―六三九三番

不動產管理處分
株式會社　鴻業公司
大連市山縣通一四二
電話二―三六二九番

轉ばぬ先の杖、不慮の災難にこの保險
大連火災海上保險株式會社
大連市常盤橋中央ビルヂング
電話㈡二―三五四一・二―三五六一番

◎
日本ペイント滿洲販賣株式會社
大連市山縣通二一
電話二―三八二三番

東亞土木企業株式會社
柳生龜吉
大連市東公園町二一番地

日本タイプライター株式會社
大連支店
大連市山縣通
電話二―八四七一番

輸出入、土木建築、倉庫、保險
機械類一切自轉車、鑛油、揮發油其他
建築、土木一切、諸雜貨、食料品類
保險會社代理店
FC
福昌公司
大連山縣通
電話代表二―七一七一番

大連埠頭構内
福昌華工株式會社
電話代表二―四五一〇番

取扱主要品目
特產雜貨　大豆、大豆粕、大豆油、雜穀
米、小麥、麥粉、砂糖、鑵詰類
機械其他　金屬、石炭、鑛油類、一般機械
並電氣機具及化學肥料其他
三菱商事株式會社大連支店
大連市山縣通一六五
電話代表二―八一五一番

大連市大山通
株式會社　宅の店
電話代表二―五一九九番

大連製氷株式會社
大連市常盤町二三
電話二―四八七三・二―五四八〇
電話二―六三一三番（信濃町）

王子製紙株式會社代理店
鴨綠江製紙株式會社一手販賣店
株式會社　大同洋紙店　大連出張所
大連市山縣通百貳拾五番地
電話（大連局）二―八五八〇番
（大連）二―三九八五番
本店　大阪市東區安土町二丁目三十七番地
支店　東京、名古屋、京都、福岡
出張所　上海、天津、香港、青島
新京、門司、熊本、臺北

在大連
社團法人　滿洲土木建築業協會
大連市山縣通一五八番地
電話（二―二三四三）（二―四六二三）番

大連市大山通
遼東ホテル
電話代表二―三一七七番

日本航空輸送株式會社
大連支所
大連營業所

大連市入船町
滿洲內燃機株式會社
電話二―一八六〇・二―三三八八番

大連市山縣通一五五
株式會社　安宅商會大連出張所
電話二―四四六〇番

大連市奥町
株式會社　山田商店
錢莊部　二―五一三五番
證券部　二―六一六八番
株式市場　二―四四七七番

大連市外海猫屯會甘井子
滿洲石油株式會社
電話四―〇二八三番

滿洲煖房衛生同業組合
事務所　大連市東公園町三五番地
技術會館內

武藏町六六
久保田寫眞製版所
電話二―八六三一番

門松のいはれ

莫也生

津々浦々の、それこそ賤が伏屋に至るまで、正月に門松を立て、祝ふのは内地の慣らはしであるがその門松には松ばかりを立てる家もあれば、また松に竹を添へて立てる家もあることは誰しも知つての通りである。

そんなら門松は何の意味で立てるかといへば、それは無論芽出度いから立てるに極まつてゐるが、同時にまた邪氣を祓ひ災厄を除くといふ意味をも含んでゐることを知らなければならない。

一體この松や竹はいはゆる十長生のうちに數へられてゐる。十長生とは不老長生と考へられる十物を指したもので、日、山、水、石、雲、松、不死草、鶴、龜、鹿をいふとの説もあれば、日、月、山、水、松、竹、靈芝、鶴、龜、鹿といふとの説もあつて、區々で必ずしも一定してゐないやうであるが、とにかくも松や竹はその一に擧げられてゐることは疑ひない。

日、月、山、水、石、雲などは別に説明を加へるまでもないとして、不死草は拳栢即ちいはひばのことで土氣もないやうな石の上にも育ち、鉢植などにして碌に水を呉れないでも四時青々として容易に枯れない草木、滿洲にはハリガネヒバといふ一種が殊に多い。靈芝はまんねんたけと名づけるさるのこしかけと同じ類の硬菌の一つ普通の蕈と違つて年を經れば經るほど石のやうに堅くなつて漆光りがして、ちよいと珍なものであるから風流の人がよく床飾りなどにする。鶴は千年、龜は萬年の諺を保つといはれるむかしから芽出度いもの、鹿は遠く塵界を離れた山中に靈氣を吸つて育つ仙獸とあつて、ちやうど冬至の頃から生え始めるその鹿角は不老不死の壯陽劑として知られてゐる。

松や竹はこれらと共に十長生に並び稱せられてゐるくらゐであるから、縁起をかついでこれを祓禳に用ひるわけでがなあらう。内地では神官がお祓ひの際に用ひる玉串は榊と極まつてゐるが、朝鮮の庚申樣には松を用ひるし、朝鮮では松や竹を神秡杖（シン・チヤン・グ・シ・テイ）と稱して現にこれを内地の榊ところに用ひ、巫女が降神の行をする際にそれでお祓ひをする慣らはしてある。

して見れば門松はつまり舊年内の邪氣を祓ひ淨める一方來年中の災厄を攘ひ除く爲に立てるので、かくてわれ／＼は心身共に神の御前に出たやうな穢れのない清々しさとなつて、芽出度い新玉の年の始めの喜びをことほぐわけなのである。

▽……△

門松はひとり我が内地の俗であるばかりでなく、吉林と寧古塔との間に散在する純粹の滿洲人の新年の行事でもあるので、その起源はいづれも薩滿教（シヤマニズム）から出發してゐたことは疑ふべくもない。

滿洲は支那を征服したが滿洲人はあべこべに支那人から征服されて了つた、といふ諺もある通り女眞の餘葉たる愛親覺羅氏はいはゆる白山黑水の奥區より龍興して清朝を樹立し、支那四百餘州に君臨すると同時に統治の必要上、同族を驅つて四百餘州の重地に分駐せしめたが、これらの滿洲人が支那人の爲に忽ち同化されて了つたことはいふまでもなく、發祥の鄕土にその儘居殘つた滿洲人も亦、封禁の制度を無視してドシ／＼入込んで來た支那人の勢ひに押されて改易を餘儀なくされた。

そこで純粹の滿洲人といへば今日は最早吉林省の山間僻地にしか見られぬまでに逼塞して了つた。

純粹の滿洲人の家は大抵切妻風の木造草葺で屋根の上に千木がしつらへてあり、屋敷のぐるりには杭を並べて打込んだやうな垣根を繞らし、門は内地の鳥居そつくりの恰好をしてゐる。敦化即ち敖東城、額木索、寧古塔あたりの滿洲人の家はすべてかうした作りで、わが古代もかくやと偲ばれるのである

この鳥居に似た門構へは朝鮮の咸鏡道あたりにも見るところで、女眞の遺風であるとは蹄るまでもない。實にこの門構へは單に出入口の裝飾に過ぎない、と解釋するには餘りに無意味である。といふのは現に咸鏡道から北間島へかけての僻地へゆくと、峡依の坐田郎七座敷は柾（こゝでは荻と訓む）や柳の枝をおろし、それを編んでほんの囲ひをした丈のことで、北塞記略に

「垣墻なし、籬らすに籬を以つてす。籬を繞り或は柳を編みてこれを爲くり、門扉を設けず。」

とある通り、その出入口には特に門といふほどの設けはない。かういふのは北滿の僻地にもざらに見られるところで、これでも濟まして濟まされぬことはないのに、どうして態々鳥居に似た恰好の門構へをしつらへるのであらうか。そこには何等かの特殊な意味がなければならない

▽……△

そこで端なくも思ひ合はされるのは紅箭門（フング・サル・ムン）である。京城見物のプログラムの一として見落してはならぬものに西大門を數丁北寄りの舊義州街道に繞うて獨立門が聳えてゐる。この門はずつと古いころ紅箭門といつたのを明使の送迎をそこでするに因んで迎恩門と改め、日清戰爭後韓國の獨立を記念して改築の上更に今の名を呼ぶやうになつたものである。紅箭門にもかうした堂々たる石造の立派なのがないではないが、普通は二本の細長い柱の間に二本の欄を横に渡しその下欄から上の欄へ突貫いて束を幾本となく揃め、額束の上の欄を抜いたところが、火焔を形取つたやうな恰好になつてゐる。大抵は木地のまゝであるが、中には總體朱塗りにして束だけを青緑に染めたものもあつて、ちやうどお寺の仁王門と同じ思考と見れば可い。

この紅箭門は城里とか陵墓とか寺觀とか書院とかの見付に立てられてゐるもので、一名を除厄門と呼ぶ通り災厄除けの爲めである。

前に述べた咸鏡道の朝鮮人や、吉林省の滿洲人の特殊の門構へは畢竟これと同樣のもので、更にひろめていふなれば、内地の人家の門構へも、お寺の山門も、神社の鳥居も、元をたゞせばいづれも紅箭門即ち除厄門と別段の變りはない。形こそ違へ、鳥居には七五三繩を張り、山門には仁王樣が目を剝いて力んでをり、家門には花を盛る、その心は同じこと——われ／＼が縁起を擔ぐ場合に濁の邪氣を祓ひ災厄を除く意味に他ならぬのである。

それであるから、滿洲人の門構へが鳥居に似てゐるのではなくして、實は鳥居そのものなのである。

で中には門構への外に紅箭門を立てたのを咸鏡道邊りでも好く見かけることがあるが、これは馬鹿丁寧なわけでその家の主人も恐らく何の意味か分らずにゐるのではなからうかと思はれる。序ながら迪化の烏梁木齊は蒙古語で赤寺の義であり、以前朱塗の大刹があつたのでその名を得たと聞くが、もしさうとすればこれも何となくお稻荷さんの赤い鳥居と、前に說く朝鮮の紅箭門とに由縁があるらしく思へる。

▽……△

かく突き止めれば正月に門松を立てる意味はハッキリとして來るわけで、薩滿教の神事に基くものであることは推測に難くあるまい

薩滿教といふのは今日では

ベーリング海峽を挾む極北海岸に住むエスキモー族
アレウト及モレントル諸島に住むアレウト族
黑龍江から樺太の北部に住むギリヤーク族
わが北海道、樺太の南部等に住むアイヌ族、勘察加の南部に住むカムチヤダール族
アナチル河から北氷洋の間に住むチユクチ族
アナチル河から勘察加の中央にかけて住むコリヤク族
アナチル河の上流から中流にかけて住むチユヴアンチス族
ヤナ河の下流からコルリマ河の下流にかけて住むユカギル族
エニセイ河の流域に住むオスチヤク族
ウラル山からトボルスク間に住むヴオグル族
西伯利亞の北極地方に住むサモエデス族
西南西伯利亞に住む土耳古族
西部蒙古のカルムツク、喀爾喀
北部蒙古のブリアトを含む蒙古族
東部西伯利亞一帶の地方に住む通古斯族、即ち純粹の滿洲人を始めとしてマネグル人、ゴルチ人オロツコ人、ラムト人、オロチヨン人、チヤボギル人、索倫人等の間に餘喘を保つてゐるに過ぎないが、ずつと大むかしは廣く歐亞に亘り普及してゐたもので、支那、朝鮮、日本内地も亦固よりその教化に洩れなかつた、さうして老莊の流を汲むいはゆる道教はその匂ひのプンと來るもので、こんなことをいつてはお叱りを蒙るかも知れないが、わが神道はその最も進化したものに他ならない。

薩滿教の教理は善惡二元論から出發してゐて、從つてその最も重きを措くところは善神を迎へて惡鬼を逐ふ祓禳の儀式であり、新年の行事はその一に屈せられる。そこで

門松や神代のことも懐はるゝ

といふ十八字がわれ／＼の胸にピンと來るわけである。

正月に門松を立てるのは日本内地と北滿の片田舍とに限られてゐて、薩滿教に近い原始教が未だに流行つてゐる朝鮮には、不思議とさうした習慣はないやうであるがしかし巫女が度厄神祀（アマク・イ・クツ）と稱して、毎年正月の十五日に一年中の厄祓ひをする際に松や竹を用ひることを思ふと、萬更由緣がないともいへまい。

新年に因んで門松のいはれを繙けばざつとこんなものである。（をはり）

サラリーマンの正月日記

石川進

①オットー 今日は珍しく早起きだー
②早く仕度をして出かけ様っ
③天氣は明朗 氣は輕イ 會社めざして イチニッ ニ
④ハテナ いやに電車がこむが
⑤いよいよ今年は張ってみるは
⑥オヤ／＼ 誰れ 來てないな！
⑦ワァッ そう今日は一 正月だ
⑧あら！ へらつしやら一！

春

前田夕暮

空に新しい友情を感じる。空は私の上に青い翼をながける
季節の色感が私のこころを新らしくする。みやくみやくとして來る春！

○

梢の冷いみづきの上の空からくる哀歎は春でしかない
さかき、青木、冬青などのぬれた葉つ葉の上に、翳もたぬ空。春でしかない
私は空をみてゐる。空は私をみてゐる、はつきり空を意識して

賀正

大石橋・四平街・蓋平

四平街

四平街地方委員(順不同)
稲川淺二郎
富田登二
伊藤新八
田中佐重郎
添田澤三
竹村石次郎
趙漢臣
林寛一

四平街地方事務所
所長 下田一夫

四平街市民協會
會長 鶴見次世

四平街鐵路事務處
處長 韓景堂
副處長 飯村憲吉

四平街驛前
植半旅館
電話三〇番

四平街驛前
小松屋旅館
電話一二六番

四平街
信和洋行 電話一九番
松昌公司 電話八番

四平街
火曜會

四平街滿洲日報支局
櫻井敎輔 電話一三三番
滿洲日報販賣店
菊池洋行 電話三一一番

營口縣警務局第二區警察署
署長 王再春 電一三三番

大石橋高等小學校
校長 孫金凱 外職員一同

營口縣第二區長
協和會大石橋辦事處
副處長 孫慶汪

大石橋長記糧房
經理 崔興桑 外職員一同 電一二三番

信孚當土糧
經理 吳樂三 電一一六番

大石橋滿洲街商務會
同聚源經理
會長 王玉階 外職員一同 電一四九番

大石橋驛商務會
副興和經理
會長 張香九 外職員一同 電七一番

大石橋驛商務會副會長
大信永銀號
經理 郭子陞
憑記 上野武次郎 外職員一同 電一二五番

蓋平縣第四區
梨水寺村長
陳振民

大石橋驛商務會董事
東永隆經理
高耘拔

振東客土糧業事處
處長 高振東

大石橋朝鮮人民會長
鄭在龍 電一四一番

大石橋東成學校
校長 金濱 外職員一同

大石橋

大石橋
三浦貞三

大石橋地方事務所
所長 松田進

大石橋郵便局長
杉田萬

大石橋電信電話局長
重信二郎

大石橋滿鐵病院長
醫學博士 仁科泰

大石橋尋常高等小學校
大石橋家政女學校
校長 蘆田養藏 外職員一同

大石橋地方委員
議長 小林才治
副議長 山下義明
委員 赤倉龜次郎
伊藤謙次郎
愛甲直剛
川西重作
藤井正一
尾藤龜松

大石橋機關區員一同

大石橋保線區員一同

大石橋列車分區員一同

大石橋保安分區員一同

大石橋檢車分區員一同

大石橋金融組合
理事 高梨源三

大石橋輸入組合
理事長 小林才治

大石橋圖書館
土山觀一 外職員一同

滿洲礦石商會
電一〇六番

大石橋電燈株式會社
專務取締役 愛甲直剛

海城 昌平街三五
日滿合辦 滿洲礦石股份有限公司
專務 小林富一 電一二番

蓋平電業股份有限公司
董事長 候顯讓
專務 愛甲直剛

南滿鑛業株式會社
大石橋工場

大石橋
白川洋行

御旅館
梅廼家 電七番

末廣旅館
荻野十太郎 電四三番

豐順洋行
西島常次郎

マグネシヤクリンカー製造販賣
福井組
藤井正一 電六二番

マグネシヤに關する工業
滿洲產ビキガラ手工材料
大石橋福元號
福元伊六
電話一〇四番

陸軍御用達
石川洋行 電一四番

間島省延吉縣延吉市
延吉洋行 電三〇二番

間島省延吉縣明月溝
明月溝出張所 電五八番

間島省汪清縣百草溝
百草溝出張所

南滿三角地帶勸業
岫巖出張所

滿洲鐵工業合資會社
大石橋迷鎭街工場 電一三七番

陸軍御用達
遼陽石川洋行大石橋支店 電一四三番

御料理
福住 電二一番

カフエードン 電一一九番

御料理
日本館 電一〇番

御やすい
梅月旅館

御料理
滿洲館 電一〇九番

古原幸敎 電一四三番

御仕出し
福住庵 電五一番

松島牧場 電六三番

諸新聞取次代理業
細野芳枝 電四四番

大石橋商店協會
圖書文具印刷 石文堂 電二八番
和洋雜貨並蓄音機商 かぎや商店 電五九番
吳服商 みすみや 電一二五番
和洋御菓子陸軍御用達 日新堂 電三〇番
履物商 木村洋行 電二七番
吳服商 旭商行 電七四番
度量衡器具一式金物商 高田商行 電五八番
製靴商 內藤靴店 電二九番
食料雜貨商品 永井商店 電五六番
時計貴金屬商 川崎時計店 電四六番
陸軍御用達和洋御菓子 三河屋 電五七番

和洋御料理
御仕出し
扇家 電一五〇番

カフエーリリー 電一二四番
フサ子・キヌ子
ユリ子・ケイ子
ヤス子・ヨシ子
サトミ

カフエー中央亭 電一二八番
園子・美子
澄子・千鶴子

南臺驛長
松橋秀造 外驛員一同

海城驛長
木村鐵次郎 外驛員一同

他山驛長
高木正甲 外驛員一同

分水驛長
松田敬次 外驛員一同

蓋平驛長
鈴木松太郎 外驛員一同

太平山驛長
田坂富藏 外驛員一同

大石橋驛員一同

ツンドラ應用滿布藥布本舖
廣津三角堂
振替大連六二八〇番 電一二番

井上齒科醫院
井上竹四郎 電一二五番

大關信之助
大石橋錦龍街三三番地 電一五一番

白米商
滿一洋行
主 李鉉世 電長一四六番

伊藤煤炸局
電一二番 電七七番

和昌公司
電七七番

賀物商兩替商
池山當
店主 池山國藏
主任 楊乃彬
外店員一同
大石橋石橋大街九九

シーガーミシン
大石橋分店
田口一男

北美屋洋服店
主 宮光 電話出一四二番

竹內文藏

營口洗布所支店
電一一二番

大石橋洗布所

御料理御仕出し
いそはま
電五三番

影撮夜景 眞寫美術
守代寫眞館
寫主 守代耕陽
(大石橋小學校前)

大連新聞大石橋支局
石飛榮三郎

影撮夜景 眞寫高等
西島寫眞館
主 西島幸男
大石橋寛武街

天奉每日新聞大石橋支局
荒木峰太郎

蓋平

海城縣公署
縣長 陳蔭熙 外一同

蓋平縣公署
縣長 辛廣瑞
總務科長 閔鳳鈞
內務局長 楊蔚彬
警務局長 高學本
財務局長 馮履謙
教育局長 楊慶春

海城々內商務會
會長 辛德潤 外職員一同

海城縣農務會
會長 趙慶南 外職員一同

蓋平城內商務會長
蓋平縣警察後援會長
候顯讓

特產雜穀陸軍御用達
株式會社 大矢組海城支店
電海城一六番

海城
大東旅館
福崎大吉 電二九番

海城
海城ホテル
食堂附 國政十七平 電四一四番

海城
御旅館
國政鑛業部
海城大街一ノ二 電一一四番

海城
出雲屋
主 奥新一 電二二番

海城
中原食堂
主 中原ハルエ 電四五番

御料理
靜廼家
主 中原次郎 昌平街四三

海城地方委員議長
岩崎鶴松

海城地方事務所主任
平岡猛

海城小學校長
小井澤庫造

海城東語學會長
飛田年尾

食堂
千歳
主 川野ユカ 白土ハツエ 電一三番

滿洲日報海城支局
藤田善松

カフエー湖月
信子 モト子 ヤス子 鐵子 笛子
海城大街一五番地 電一八一番
主 古木重吉

松月
五郎 一ほ子 かほる 小梅 部若 滿子
電二〇番

成和公司
徃山卯三郎
蓋平城內東大街 電話八五番

盛記號藥房
木村國太郎
電話長六四番 振替大連二八八番

白川洋行出張所

山內利
蓋平城內通り

振元當
經理 黄振武
經理 郭子元

蓋平滿洲中央銀行支行
經理 張鴻序

蓋平南關福泰湧油房
經理 喩鑑塘

蓋平料理業
慶昇平飯店

東門裡萬德興
經理 林翰章

南大街源發成
經理 惠錫三

蓋平城裡料理業
鴻德園

鄭長青

德成棧
李蔭堂

南關福興昌
經理 王烈堂

蓋平酒局
德聚福

經理 宋錫三

經理 欒銳波

滿洲日報大石橋支局
省時座美
電話三八番

こども新聞

あけまして おめでたう

わたくし達の覺悟

ものせはしかつたきのふとは、うつてかはつて、けさは、水をうつたやうなしづけさです。

まつかにいろどられた東の空からは、大きなお日樣が、まるでのぞみにみちみちてゐるやうにかがやき出しました。

みなさん、

「あけまして、おめでたうございます。」

ゆびをりかぞへて、まつたお正月が來ました。朝風にひるがへる日の丸の旗と、門松とにかざられた町々には、なんとも言ひやうのない、きよらかな氣分が一ぱいです。

「一年の計は元旦にあり」と申しますが、わたくしたちも、ことしは一そうからだを大せつにし一生懸命に勉強して、ほんたうによい子となれるやうに、この元旦をむかへて、かたい決心をいたしませう。

見かけほどでない猪さんの強さ

ブーブー豚さんのご親類で食物は草の根、木の實

大阪天王寺動物園長　林先生のお話

滿洲のみなさん、新年おめでたう。今年は猪の歳ですね。〝猪突猛進の春〟と年賀狀に書いたりします。これはわきめもふらず一心不亂にツキ進むことをいふのです。この外向ふ意氣の強いのを〝猪武者〟といひ、〝手負ひ猪〟といふのはあれ狂ふさまをたとへて申します。けれど、これはほんの恰好からみた感じを現はしたもので、それ程強くも、恐しくもありません。

猪は滿洲や北海道、日本內地の低い山のところに澤山棲んでゐます。たべ物は草の根や木の實が主で、寒くなつて何もなくなると、ノソノソと人里近くに出て、大根や人參やお芋などをねらつて畠を荒します。小さな動物類もたべますが、大體草を食ふ動物ですから牙はそんなに鋭くはありません。大きいのは百五、六十キログラムもありますが、普通七十キログラム內外で豚位のものです。豚といへば猪は豚の變化したものです。滿洲のみなさんは、豚はよくご存知でせう。支那の歷史をみますと、四千年位大昔にチャンと豚がゐたとご本にあります。猪を何代も何代もお家で飼つてゐると豚になるわけです。滿洲人も大昔の祖先はこの猪の肉をたべて、皮を着物にしてゐました。猪は日本に古くからゐますが、豚は明治維新の少し前支那から移されてきたもので、まだやうやく百年位しかたつてゐません。

アケマシテ オメデタウ

「マンシウ ノ ミナサン、アケマシテ オメデタウ ゴザイマス。コトシ モ ドウゾ ヨロシク。」ト、ウツクシイ フリソデ スガタデ、リタヂヤウ ガ、ミナサン ヘ シンネン ノ ゴアイサツ デス。

「アラ、マンニチ コドモシンブン ハ、アヒカハラズ オモシロイワネー。」ト、ゴラン ノ トホリ。

アスノ フツカ ハ コト ハジメ

ケフ ノ グワンニチ モ、シヅカ ニ クレル ト、アス ハ フツカ デス。コノ ヒ ハ、ダレ デモ カキゾメ ヲ シマス。

スッカリ オチツイタ キブン デ、ツクエ ノ マヘ ニ スワッテ、フデ ヲ トル ノ ハ ホンタウ ニ スガスガシイ キブン ノ スル モノ デス。

コノ カキゾメ ハ、ムカシ カラ、ニッポン デ オコナハレテ キテ ヰル ノ デス カラ、ミナサン モ ソノ ツモリ デ、カキゾメ ヲ オヤリナサイ。

マタ、ミナサン ハ、アシタ イロイロ ナ ガッキ ノ ヒキゾメ ヲ ナサル デセウ。

ソレカラ ハツニ ガ、ニギヤカ ニ マチ ニ ヤッテ キマス。

ミナサン ハ、オトウサン ヤ オカアサン ト、ウツクシク カザッタ マチ ニ イッテ、ウレシイ カヒゾメ ヲ ナサル コト デセウ。

（第三種郵便物認可）　昭和十年一月一日　滿洲日報　（火曜日）　第一萬三百二十一號　（三）

獵し助に　恩をかへした猪（一）

榎本[illegible]助作　武田一路画

山の中は薄すらとした日がさして靜かにないだあたゝかい日でした。

猪のおかあさまは奥山のはうからおぼぜいのこどもをつれて、たべものをさがしに出かけました。猪のおかあさまは、こどもをあつめて、

『これから畑へ出て行つて、お前たちのすきな豆の實をとりにゆくのですから、おかあさまのあとをついて、まひごにならないやうにするのですよ。ぼんやりして畑のまんなかで泣いたりすると、人間につかまへられて、もう山の中へかへつてこられないのでよ。ごちそうはたくさんありますから、みんないつしよに仲よくたべるのですよ。』

と、いひました。こどもたちは、誰もわかつたやうに、うなづきました。

さうしてうれしさうに、おなかをたゝいてよろこびました。

四匹のこどもは、五六日前から、おいしいものを一つも口に入れず、みんなペコペコにおなかがへつてゐたのです。

こどもたちはうれしさうに、おかあさまのあとを、ぞろ〳〵とついていきました。

『おかあさま、どこにごちそうがあるの?』

もういゝかげん歩きまはつたこどもは、おなかがすいてきたのでごちそうのさいそくをはじめました。

『いゝ子ですから、もすこしがまんしてゐるのですよ。いまに、おいしいごちそうがみつかりますから……。』

おかあさまの猪はこどもたちをなだめながら、ずん〳〵あるいていきました。そのおかあさまは、こども以上におなかがへつてゐたのです。

ちやうど、畑道にさしかゝつたとき、下の方の平たい道からガラガラといふいさましい音が聞えてきました。

『おかあさま、あれはなんの音なの?』

猪のこどもたちはめづらしい音に、かはるがはる猪首をもたげてみました。おかあさまはびつくりしました。

『あれはこわい自動車の音ですよ。あれにみつかつたら、つかまへられてしまふのですよ。さ、もつと、畑に、もぐつてもぐつて……。』

こどもたちは、目をまるくしておどろいて、みんな畑の作物の下にもぐりこんでいきました。（つゞく）

オコトワリ
フツカノコドモシンブンハ、オヤスミシマス。

□□□猪クンの自慢□□□

かつかうが悪いとバカにしたまふな　これで人の役にたつ

▼……諸君！今年はボクの天下ですぞッ。その昔、富士の裾野で仁田四郎をウンとこまらせたのは、ボクなんだよ。エヘン、ボクは顔かたちがブタ君ににてゐるので、諸君にけいべつされるが、これでなか〳〵人間の役にたつてゐるんですぜ。

▼……よく人間どもが『猪くつたむくい』といふが、これは、そんなにくはれてはこまるけれど、ボクをたべると、體が大へんあたたまるからさういふのだ。『むくい』といふのは『ぬくい』といふのを間違つてつたへてゐるんだよ。お肉はこんなになか〳〵のご馳走だが、また皮は防寒着となつて人間どもによろこばれてゐるのさ。

▼……諸君のお父さんやお兄さんたちが『これはいゝ靴だ。』なんてゐばつてゐる上等の靴は、大ていボクのヒゲでぬつてあるんですゾ。

▼……ボクは、これで諸君よりえらいところがあるんだよ。……といふのはほかでもない。ボクは人間のやうに食べものに好ききらひがないのだ。ボクはみみずもたべれば、タケノコもよし、松タケもよし、オイモやマメから木の實までナンでもござれだ。おまけに野ねずみでもみつかれば、一ばんのごちそうだ。どうです諸君、こんなまねはちよつと出來ないでせう。

カルタアソビ

ケフハ　メデタイ
オシヤウグヮツ
イロハ　カルタ　デ
アソビマセウ。
オザシキ　イッパイ
ナラベテ　ヨ
ミカン　モ　オクヮシ　モ
ソラ　タクサン。
マンシウ　カルタ　デ
アソビマセウ
タノシイ　ウレシイ
オシヤウグヮツ。

連載漫画　チャー坊ピチ子繪日記（三十）

原泰雄作

オカアサンノカハリニオキフジスルワ
ボクノキラヒナオカヅダナア
オサカナガアルトイッテイタ!
ソンナモノキラヒダヨ
コマッタワネーオイモノニタノワドウ
ダイキラヒダ
ソンナラタベナイハウガイイワ
タベルヨタベルオナカガスイタゴメンネ

こどもの考へ物

◇第百三十回◇

新年の空に高くあがつたタコ

この寫眞はをかしい

やあ！みなさん、あけましておめでたう。今年も相變らずお願ひしますよ。サテ、エヘン……さ、せいばらひして……さ、ここにごらんに入れる寫眞をよく見てください。新年のお空高くタコがあがつてゐますね。ところが、どこか間違ひがあるやうです。わかりますか、おわかりになつたら、一月六日までに、大連市東公園町滿洲日報社内「こども新聞係」あて、ハガキでお答へください。正解者には、いつものやうにくじをひいて、今度だけ三十名にご褒美をさしあげます。

第百二十八回答　南次郎大將

たく山の正解者のうちからくじをひいた結果、當選した幸運の少年少女諸君は次の方々でした。

▲大連米倉千代子▲同森さき子▲同清水光▲同松尾ヌイコ▲同山口ハナエ▲同三谷敏枝▲同徳賀長司▲同兒玉欣爾▲橫田良子▲同峰松スズ子▲四平街池林茂▲熊岳城尾崎悅郎▲新京小野寺榮子▲哈爾濱田中義郎▲吉林大野泰輔▲鐵嶺佐藤初枝▲鞍山植木敏行▲奉天船越清▲撫順津田澄子▲朝鮮羅津中田スミ子

名だけのトルコ人　今年から姓をつけます

いままでトルコの人々には名だけついてゐて、姓はありませんでした。ところが、こんどは、ほかの國とおなじやうに、姓もつけてよぶことになりました。そして今年の十月までには、國民一人のこらず、姓をつけなければならないといふおふれが出ました。それで、いまトルコの人々はなんといふ姓をつけたらよいだらうといふので、みんな大さわぎをしてゐるさうです。

白銅貨あそび

十錢白銅貨を二十まいほど、ちやんとつみかさねます。その中の一まい、下から六番目ぐらゐのものを、自分の方にむけて、すこしつき出します。それからもう一まいの白銅貨をつき出てゐる白銅貨にふれるやうなところにたてておきます。そこでおやゆびと中ゆびとで、つき出てゐる白銅貨にむかつてよくはじきとばします。するとつき出てゐた白銅貨は、反對がはにうごくが上にのつてゐる白銅貨はもとのまゝくづれません。